

令和元年度第 1 回

新宿区

区政モニターアンケート報告書

- テーマ 1 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会について
- テーマ 2 震災に備えて
- テーマ 3 男女共同参画に関する意識について
- テーマ 4 ごみの減量とリサイクルについて



新宿区総合政策部区政情報課広聴係

目 次

I 調査の概要	1
1 調査の目的.....	1
2 調査の概要.....	1
3 集計・分析結果を読む際の注意点.....	1
4 回答者の属性.....	2
II 調査の結果	5
テーマ1 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会について	5
(1) 東京 2020 大会開催への興味の有無.....	5
(2) 東京 2020 大会に期待するもの.....	6
(3) 東京 2020 大会への関わり方.....	7
(4) 東京 2020 大会に必要な対策.....	8
(5) 東京 2020 大会に関する気運醸成事業について.....	10
テーマ2 震災に備えて	14
(1) 家屋の建築年・建築構造.....	14
(2) 「建築物等耐震化支援事業」の認知状況.....	15
(3) 耐震診断の意向.....	17
(4) 耐震診断を受けない理由.....	19
(5) 耐震補強工事の意向.....	21
(6) 耐震補強工事を行っていない理由.....	23
(7) 家具転倒防止器具の取り付けの意向.....	26
(8) 家具転倒防止器具を取り付けていない理由.....	28
(9) 「家具転倒防止器具取付け事業」の認知状況.....	29
テーマ3 男女共同参画に関する意識について	31
(1) さまざまな分野での男女平等意識について.....	31
(2) 男女共同参画に関する言葉について.....	45
(3) 仕事と生活のバランスの満足度.....	46
(4) 男女とも働きやすい環境づくりについて.....	47
(5) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について.....	48
(6) DVだと思う行為について.....	51
(7) DVについての相談機関の窓口について.....	54
(8) 男女共同参画を推進するために必要なことについて.....	57
テーマ4 ごみの減量とリサイクルについて	59
(1) 実際に行っている3R活動.....	59
(2) レジ袋の受け取りの有無.....	62

(3) 食品ロスを減らすために、行っていること	64
(4) ごみ・資源の出し方	67
(5) 資源（古紙）の日又は地域の集団回収に出している雑がみ	73
Ⅲ 資料（調査票）	75

I 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、今日的な区政課題への迅速な対応の検討や的確な事業執行を進める上での基礎資料とするため、アンケート区政モニターの方を対象にアンケート調査を実施し、今後の区政運営の参考とするものである。

2 調査の概要

《第1回》	調査対象	アンケート区政モニター 1,000名
	調査内容	テーマ1 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会について
		テーマ2 震災に備えて
		テーマ3 男女共同参画に関する意識について
		テーマ4 ごみの減量とリサイクルについて
	調査期間	令和元年7月26日～令和元年8月13日
	調査方法	郵送配布・郵送回収
	回答数	901票（回収率 90.1%）

3 集計・分析結果を読む際の注意点

- 「調査結果」の図表は、原則として回答者の構成比（百分率）で表している。
- 「n」は、「Number of case」の略で、構成比算出の母数を示している。
- 「MT」は、「Multiple Total」の略で、複数回答の合計数を示している。
- 回答はすべて百分率（%）で表し、小数点以下第2位を四捨五入している。そのため、その数値の合計は100%を前後する場合がある。
- 複数回答の設問では、すべての比率の合計が100%を超えることがある。
- 図表中の「0.0」は四捨五入の結果または回答者が皆無であることを表す。
- クロス集計の分析軸となる項目に「無回答」がある場合、これを表示していない。よって「全体」の数値と各項目の和が一致しない場合がある。

統計の数値を考察するにあたり、本報告書では次の表現を用いる。

（例）		（表現）
80.1～80.9%	⇒	約8割
81.0～82.9%	⇒	8割強
83.0～84.9%	⇒	8割台半ば近く
85.0～85.9%	⇒	8割台半ば
86.0～87.9%	⇒	8割台半ばを超え
88.0～88.9%	⇒	9割近く
89.0～89.9%	⇒	9割弱

I 調査の概要

○ライフステージの名称及び内容は、以下のとおりである。

独身期 : 40歳未満の独身者

家族形成期 : 40歳未満の子どものない夫婦、または一番上の子どもが入学前の人

家族成長前期 : 一番上の子どもが小・中学生の人

家族成長後期 : 一番上の子どもが高校・大学生の人

家族成熟期 : 64歳以下で一番上の子どもが学校を卒業している人

(生計を別にした子どもがいる人を含む)

高齢期 : 65歳以上の人 (生計を別にした子どもがいる人を含む)

その他 : 40歳から64歳の独身者、40歳から64歳の子どものない夫婦など

4 回答者の属性

(1) 居住地域

選択肢	回答数	割合 (%)	選択肢	回答数	割合 (%)
1 四谷	127	14.1	6 戸塚	105	11.7
2 筆筈町	111	12.3	7 落合第一	89	9.9
3 榎町	89	9.9	8 落合第二	92	10.2
4 若松町	94	10.4	9 柏木	56	6.2
5 大久保	97	10.8	10 角筈・区役所	41	4.6
			計	901	100.0%

(2) 性別

選択肢	回答数	割合 (%)
1 男性	410	45.5
2 女性	491	54.5
計	901	100.0%

(3) 年齢

選択肢	回答数	割合 (%)	選択肢	回答数	割合 (%)
1 18～19歳	6	0.7	9 55～59歳	85	9.4
2 20～24歳	18	2.0	10 60～64歳	59	6.5
3 25～29歳	47	5.2	11 65～69歳	58	6.4
4 30～34歳	72	8.0	12 70～74歳	67	7.4
5 35～39歳	86	9.5	13 75～79歳	55	6.1
6 40～44歳	107	11.9	14 80歳以上	52	5.8
7 45～49歳	95	10.5	無回答	7	0.8
8 50～54歳	87	9.7	計	901	100.0%

(4) 職業

選択肢	回答数	割合 (%)	選択肢	回答数	割合 (%)
1 会社員・団体職員	355	39.4	5 学生	26	2.9
2 会社役員・団体役員	49	5.4	6 専業主婦・主夫	107	11.9
3 パート・アルバイト、 非常勤、嘱託、派遣など	151	16.8	7 無職	104	11.5
4 自営業、自由業	82	9.1	8 その他	15	1.7
			無回答	12	1.3
			計	901	100.0%

(5) 職場や学校の所在地

選択肢	回答数	割合(%)
1 新宿区内	235	35.4
2 新宿区外	422	63.7
無回答	6	0.9
計	663	100.0%

(6) 同居している家族等

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 子	370	41.1	6 兄弟姉妹	37	4.1
2 妻または夫	549	60.9	7 その他	27	3.0
3 親	110	12.2	8 ひとり暮らし	165	18.3
4 祖父母	9	1.0	無回答	21	2.3
5 孫	16	1.8	回答総計	1,304	144.7%
			計	901	100.0%

(7) 同居者数

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 1人	292	40.8	4 4人	29	4.1
2 2人	233	32.6	5 5人以上	22	3.1
3 3人	133	18.6	無回答	6	0.8
			計	715	100.0%

(8) 同居している子

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 一番上の子が小学校入学前	93	25.1	4 一番上の子が学校を卒業	102	27.6
2 一番上の子が小・中学生	90	24.3	無回答	21	5.7
3 一番上の子が高・大学生	64	17.3	計	370	100.0%

(9) 新宿区での居住年数

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 1年未満	0	0.0	5 10年以上20年未満	171	19.0
2 1年以上3年未満	80	8.9	6 20年以上30年未満	119	13.2
3 3年以上5年未満	96	10.7	7 30年以上	271	30.1
4 5年以上10年未満	153	17.0	無回答	11	1.2
			計	901	100.0%

I 調査の概要

(10) 住居形態

選択肢		回答数	割合 (%)	選択肢		回答数	割合 (%)
一戸建て	1 持ち家の一戸建て	227	25.2	集合住宅	5 分譲マンション・アパート	331	36.7
	2 賃貸の一戸建て	22	2.4		6 賃貸マンション・アパート	235	26.1
	3 社宅・公務員官舎の一戸建て	8	0.9		7 賃貸のUR都市機構（旧公団）・公社のマンション・アパート	5	0.6
	4 その他	4	0.4		8 賃貸の都営・区営住宅	32	3.6
					9 社宅・公務員官舎	25	2.8
			10 その他		5	0.6	
			無回答		7	0.8	
			計		901	100.0%	

(11) ライフステージ

選択肢	回答数	割合 (%)	選択肢	回答数	割合 (%)
1 独身期	55	6.1	5 家族成熟期	52	5.8
2 家族形成期	125	13.9	6 高齢期	232	25.7
3 家族成長前期	88	9.8	7 その他	286	31.7
4 家族成長後期	63	7.0	計	901	100.0%

Ⅱ 調査の結果

テーマ1 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会について

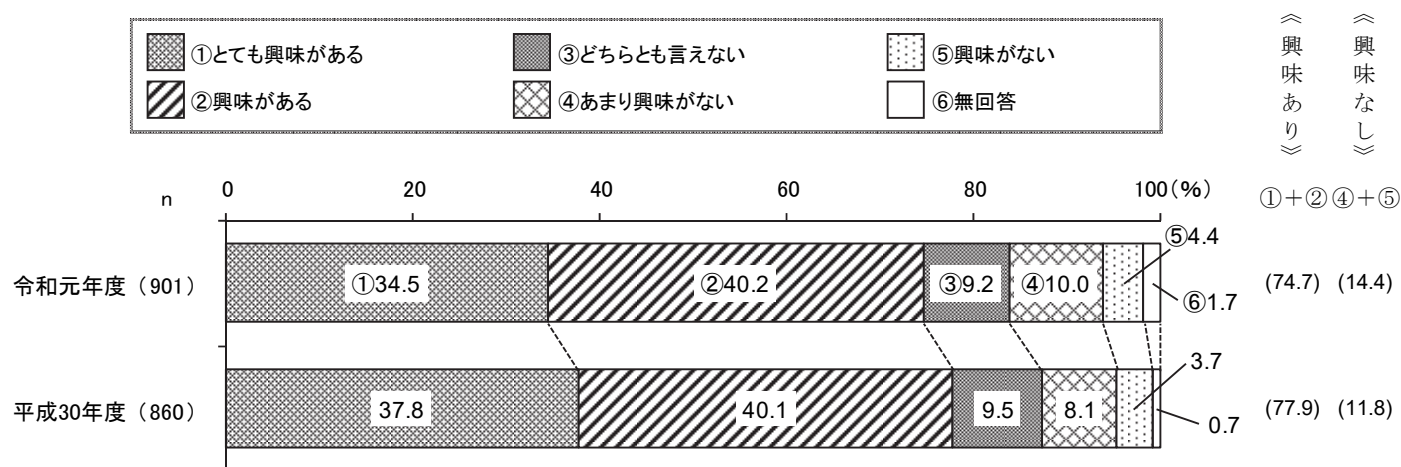
(1) 東京 2020 大会開催への興味の有無

◎東京 2020 大会に《興味あり》が7割台半ば近く

問1 あなたは、東京 2020 大会に興味がありますか。(○は1つ)

	(n=901)
1 とても興味がある	34.5%
2 興味がある	40.2
3 どちらとも言えない	9.2
4 あまり興味がない	10.0
5 興味がない	4.4
無回答	1.7

図1-1 東京 2020 大会開催への興味の有無
(経年推移)



東京 2020 大会開催への興味について、「とても興味がある」(34.5%)が3割台半ば近く、「興味がある」(40.2%)が約4割となっている。

興味の有無を比べると、《興味あり》(「とても興味がある」+「興味がある」)(74.7%)が7割台半ば近く、《興味なし》(「あまり興味がない」+「興味がない」)(14.4%)が1割台半ば近くとなっている。

前回の調査結果(平成30年度区政モニターアンケート調査)と比較すると、《興味あり》(74.7%)が前回(77.9%)より3.2ポイント低くなっている。(図1-1)

Ⅱ 調査の結果

(テーマ1 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会について)

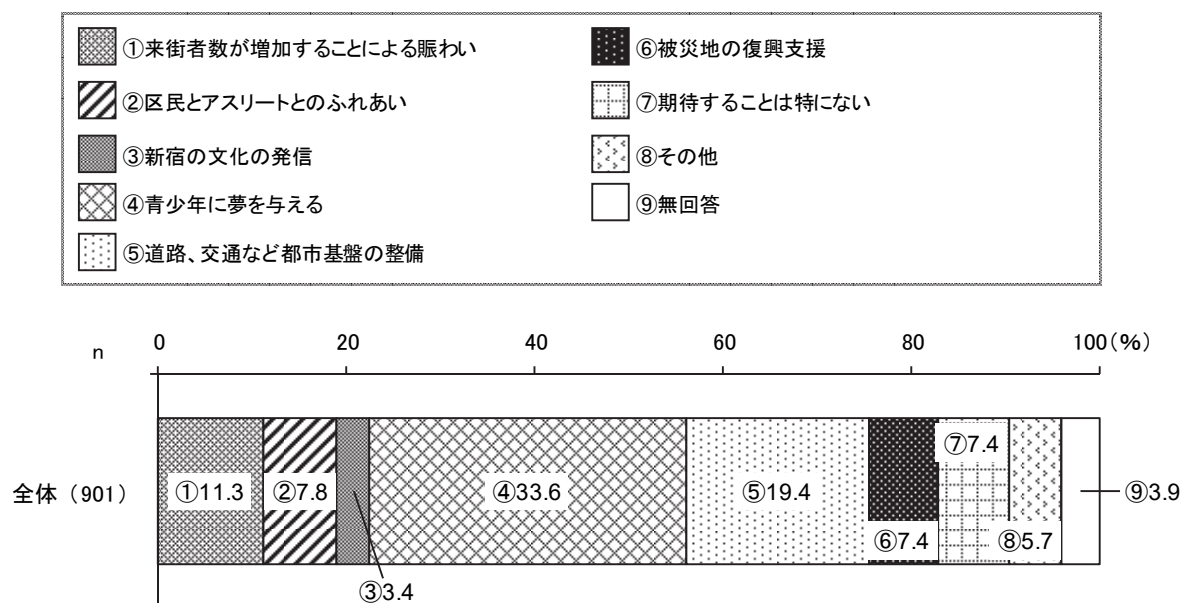
(2) 東京 2020 大会に期待するもの

◎「青少年に夢を与える」が3割台半ば近く

問2 あなたが東京 2020 大会に期待するものは何ですか。(〇は1つ)

	(n=901)
1 来街者数が増加することによる賑わい	11.3%
2 区民とアスリートとのふれあい	7.8
3 新宿の文化の発信	3.4
4 青少年に夢を与える	33.6
5 道路、交通など都市基盤の整備	19.4
6 被災地の復興支援	7.4
7 期待することは特にない	7.4
8 その他	5.7
無回答	3.9

図 1-2 東京 2020 大会に期待するもの



東京 2020 大会に期待するものについて、「青少年に夢を与える」(33.6%) が3割台半ば近くで最も高く、次いで「道路、交通など都市基盤の整備」(19.4%) が2割弱、「来街者数が増加することによる賑わい」(11.3%) が1割強と続いている。(図 1-2)

(3) 東京 2020 大会への関わり方

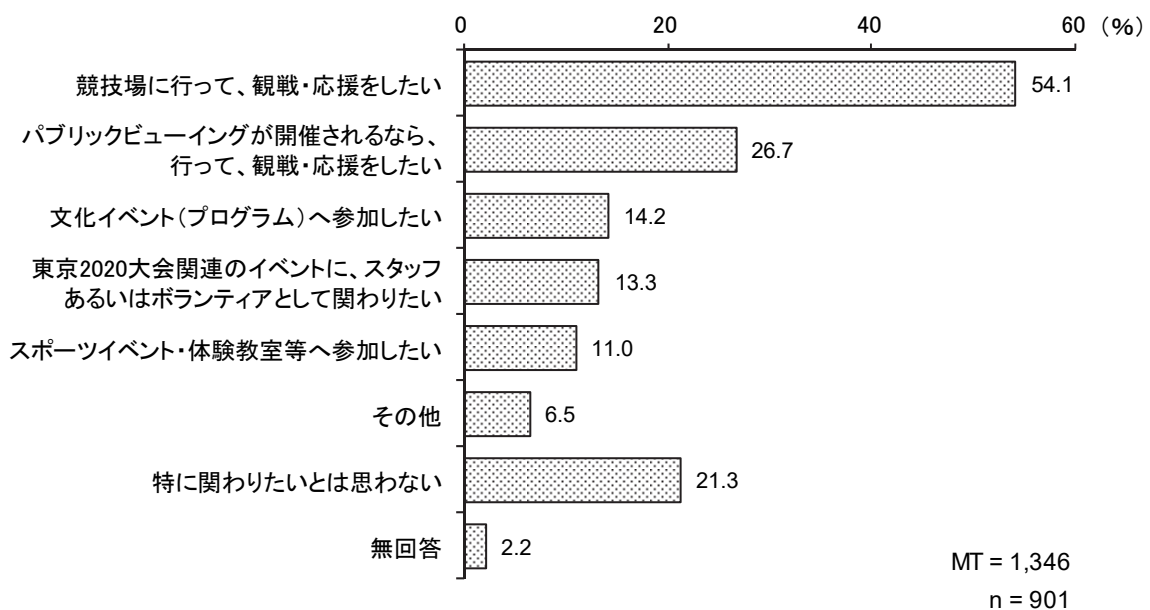
◎「競技場に行って、観戦・応援をしたい」が5割台半ば近く

問3 あなたは、東京 2020 大会に対して、現時点でどのような形で関わりたいですか。

(あてはまるものに2つまで○をつけてください)

	(n=901)
1 競技場に行って、観戦・応援をしたい	54.1%
2 パブリックビューイングが開催されるなら、行って、観戦・応援をしたい	26.7
3 東京 2020 大会関連のイベントに、スタッフあるいはボランティアとして関わりたい	13.3
4 スポーツイベント・体験教室等へ参加したい	11.0
5 文化イベント（プログラム）へ参加したい	14.2
6 その他	6.5
7 特に関わりたいとは思わない	21.3
無回答	2.2

図1-3 東京 2020 大会への関わり方



東京 2020 大会への関わり方について、「競技場に行って、観戦・応援をしたい」(54.1%) が5割台半ば近くで最も高く、次いで「パブリックビューイングが開催されるなら、行って、観戦・応援をしたい」(26.7%) が2割台半ばを超えている。(図1-3)

Ⅱ 調査の結果

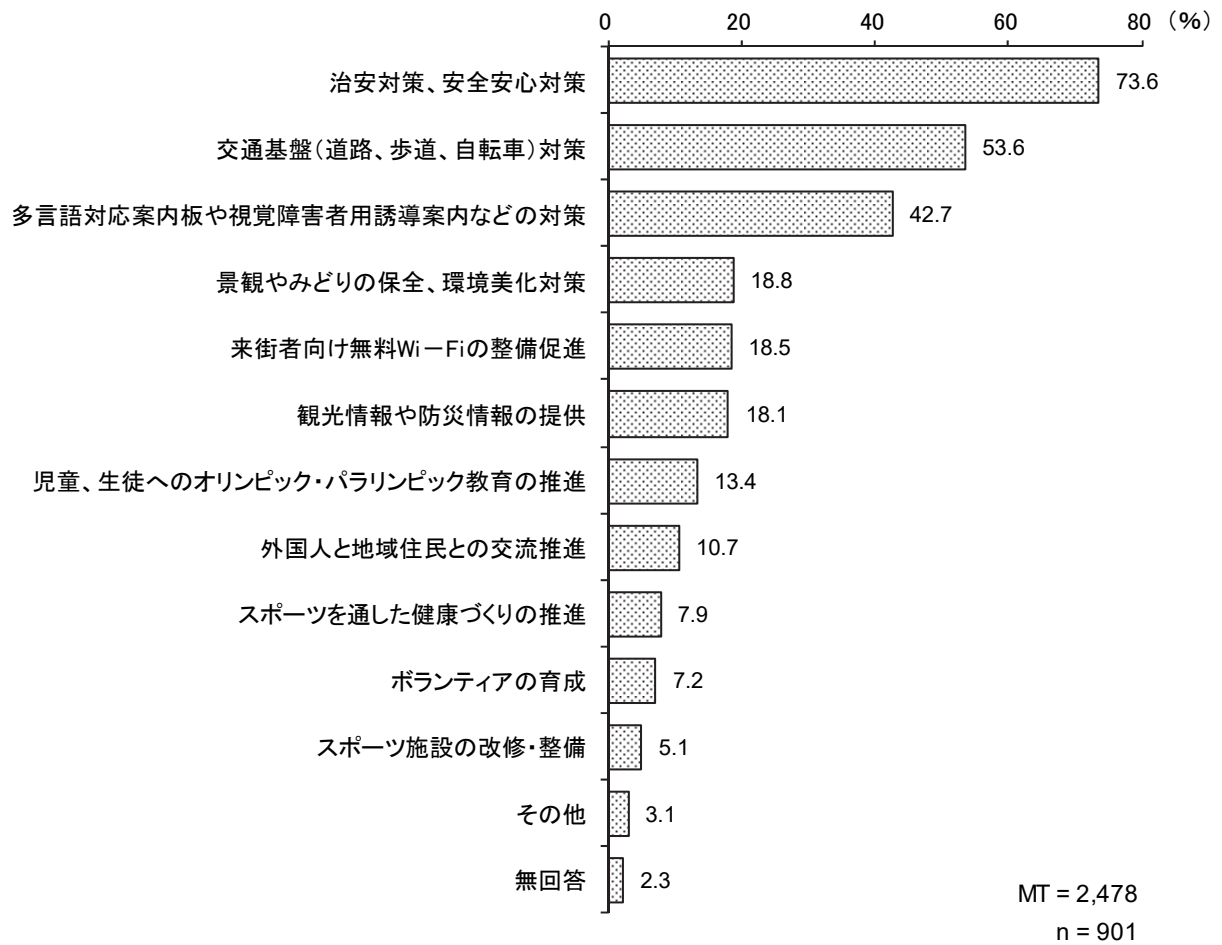
(テーマ1 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会について)

(4) 東京 2020 大会に必要な対策

◎「治安対策、安全安心対策」が7割台半ば近く、「交通基盤（道路、歩道、自転車）対策」が5割台半ば近く

問4 東京 2020 大会にあたり、新宿区は、今後、どのような対策が特に必要だと思いますか。 (あてはまるものに3つまで○をつけてください)	
	(n=901)
1 多言語対応案内板や視覚障害者用誘導案内などの対策	42.7%
2 治安対策、安全安心対策	73.6
3 来街者向け無料 Wi-Fi の整備促進	18.5
4 交通基盤（道路、歩道、自転車）対策	53.6
5 景観やみどりの保全、環境美化対策	18.8
6 観光情報や防災情報の提供	18.1
7 スポーツ施設の改修・整備	5.1
8 外国人と地域住民との交流推進	10.7
9 ボランティアの育成	7.2
10 スポーツを通じた健康づくりの推進	7.9
11 児童、生徒へのオリンピック・パラリンピック教育の推進	13.4
12 その他	3.1
無回答	2.3

図1-4 東京2020大会に必要な対策



東京2020大会に必要な対策としては、「治安対策、安全安心対策」(73.6%)が7割台半ば近くで最も高く、次いで「交通基盤(道路、歩道、自転車)対策」(53.6%)が5割台半ば近く、「多言語対応案内板や視覚障害者用誘導案内などの対策」(42.7%)が4割強と続いている。

(図1-4)

Ⅱ 調査の結果

(テーマ1 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会について)

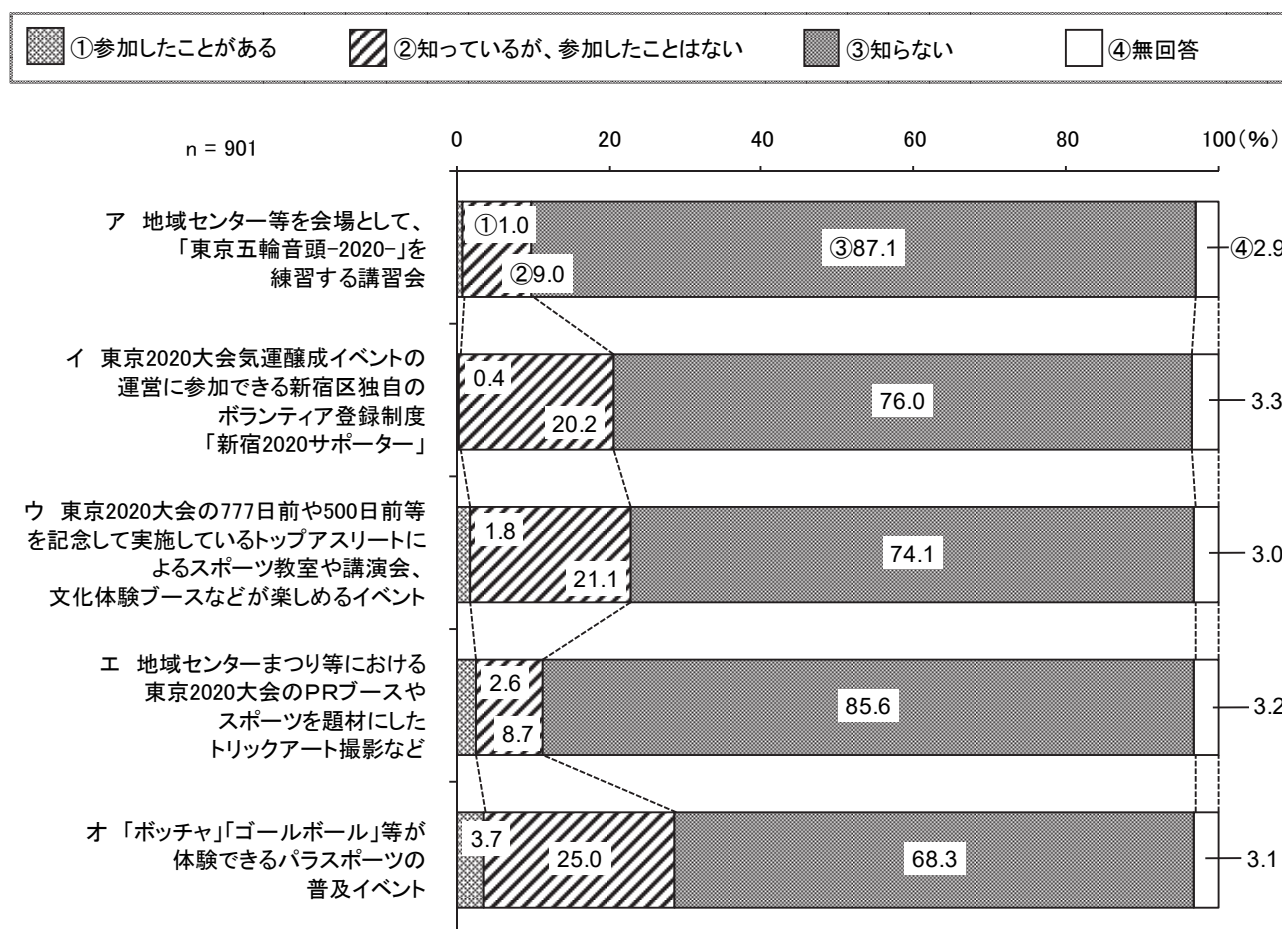
(5) 東京 2020 大会に関する気運醸成事業について

◎「参加したい」と思う方が多いのは『東京 2020 大会の 777 日前や 500 日前等を記念して実施しているトップアスリートによるスポーツ教室や講演会、文化体験ブースなどが楽しめるイベント』で 3 割台半ば

問 5 新宿区では下記ア～オの東京 2020 大会に関する気運醸成事業を行っています。 ア～オの事業について、あなたの参加経験及び今後の参加意向を教えてください。 (ア～オの【参加経験】及び【今後の参加意向】それぞれで、1～3 に 1 つだけ○をつけてください) (n=901)				
【参加経験】	あ 参 加 し た こ と が	な 参 加 し た こ と は 知 っ て い る が、	知 ら な い	無 回 答
ア 地域センター等を会場として、 「東京五輪音頭-2020-」を練習する講習会	1.0%	9.0%	87.1%	2.9%
イ 東京 2020 大会気運醸成イベントの運営に参加 できる新宿区独自のボランティア登録制度 「新宿 2020 サポーター」	0.4	20.2	76.0	3.3
ウ 東京 2020 大会の 777 日前や 500 日前等を記念 して実施しているトップアスリートによるス ポーツ教室や講演会、文化体験ブースなどが楽 しめるイベント	1.8	21.1	74.1	3.0
エ 地域センターまつり等における東京 2020 大会 の PR ブースやスポーツを題材にしたトリック アート撮影など	2.6	8.7	85.6	3.2
オ 「ボッチャ」「ゴールボール」等が体験できる パラスポーツの普及イベント	3.7	25.0	68.3	3.1
【今後の参加意向】	参 加 し た い	参 加 し た く な い	ど ち ら で も な い	無 回 答
ア 地域センター等を会場として、 「東京五輪音頭-2020-」を練習する講習会	11.9%	44.2%	42.1%	1.9%
イ 東京 2020 大会気運醸成イベントの運営に参加 できる新宿区独自のボランティア登録制度 「新宿 2020 サポーター」	16.6	38.3	43.1	2.0
ウ 東京 2020 大会の 777 日前や 500 日前等を記念 して実施しているトップアスリートによるス ポーツ教室や講演会、文化体験ブースなどが楽 しめるイベント	35.4	25.0	37.8	1.8
エ 地域センターまつり等における東京 2020 大会 の PR ブースやスポーツを題材にしたトリック アート撮影など	23.8	30.5	44.1	1.7
オ 「ボッチャ」「ゴールボール」等が体験できる パラスポーツの普及イベント	23.1	31.9	43.4	1.7

また、あなたは、カ〜クの事業について、知っていますか。 (カ〜クそれぞれで、1〜2に1つだけ○をつけてください)			
(n=901)			
	知っている	知らない	無回答
カ 東京 2020 大会の気運醸成に資する区民や地域団体による自主的な活動への助成事業	8.1 %	90.9%	1.0%
キ 区の庁舎やスポーツ施設等の壁面への東京 2020 大会のエンブレムや大会マスコットの掲出	57.7	41.6	0.7
ク 区の本庁舎や特別出張所及びスポーツ施設におけるデジタルサイネージを活用した東京 2020 大会開催までの日数の表示	36.0	63.5	0.6

図 1-5-1 東京 2020 大会に関する気運醸成事業について【参加経験】

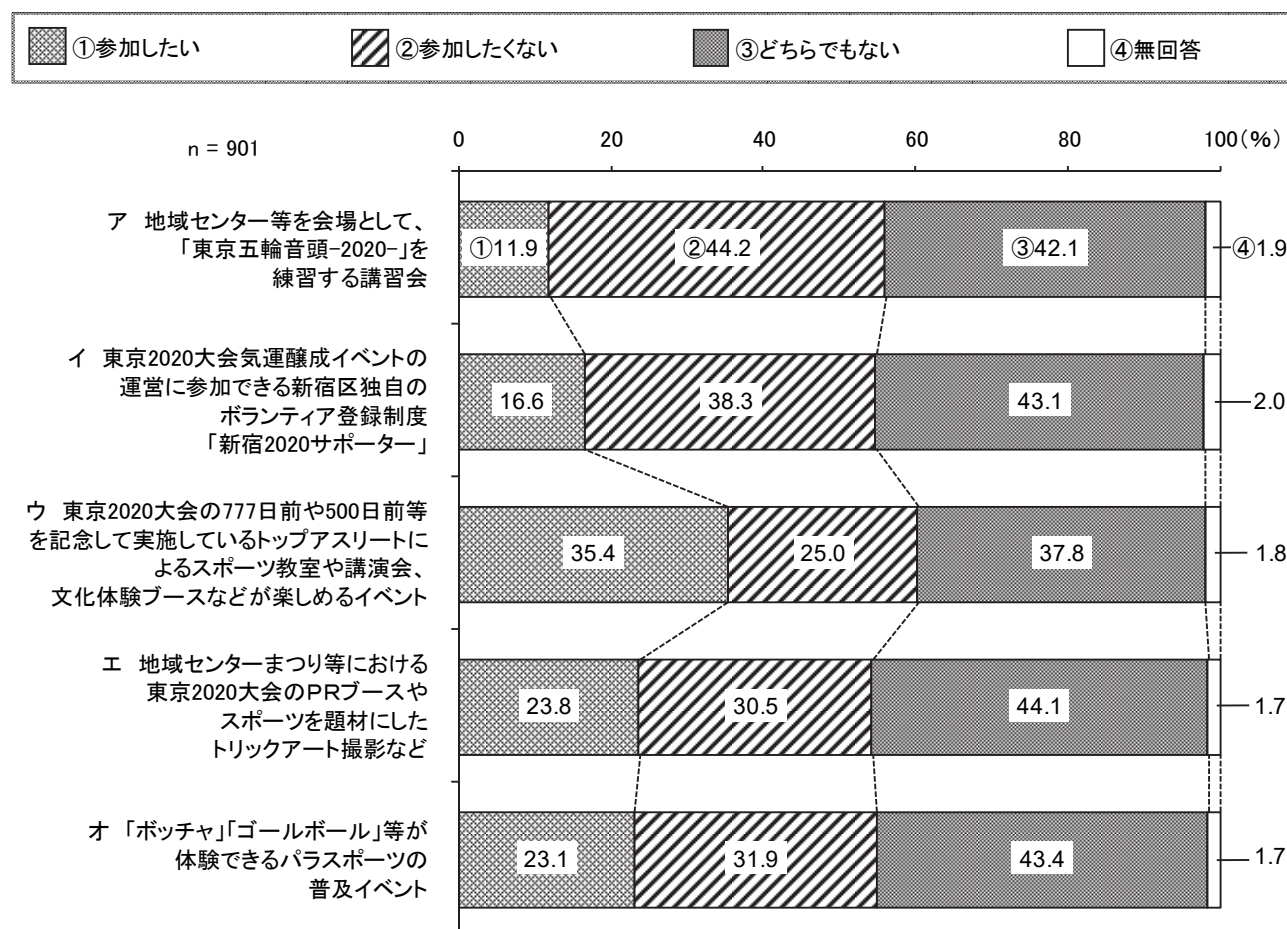


東京 2020 大会に関する気運醸成事業の参加経験について、いずれの事業も「参加したことがある」は5%未満となっている。(図 1-5-1)

Ⅱ 調査の結果

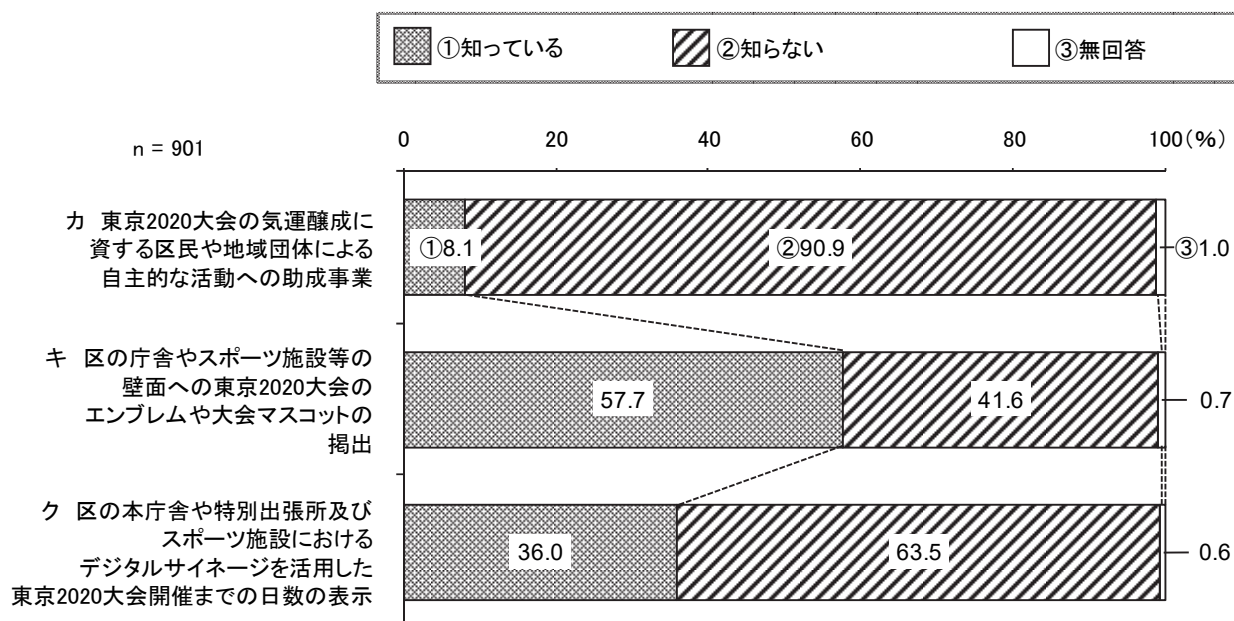
(テーマ1 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会について)

図1-5-2 東京2020大会に関する気運醸成事業について【参加意向】



東京2020大会に関する気運醸成事業の今後の参加意向について、「参加したい」は『ウ 東京2020大会の777日前や500日前等を記念して実施しているトップアスリートによるスポーツ教室や講演会、文化体験ブースなどが楽しめるイベント』(35.4%)が3割台半ばで最も高く、次いで『エ 地域センターまつり等における東京2020大会のPRブースやスポーツを題材にしたトリックアート撮影など』(23.8%)及び『オ 「ボッチャ」「ゴールボール」等が体験できるパラスポーツの普及イベント』(23.1%)がともに2割台半ば近くとなっている。(図1-5-2)

図1-5-3 東京2020大会に関する気運醸成事業について【認知状況】



東京2020大会に関する気運醸成事業の認知状況について、「知っている」は『キ 区の庁舎やスポーツ施設等の壁面への東京2020大会のエンブレムや大会マスコットの掲出』(57.7%)が5割台半ばを超えて最も高く、次いで『ク 区の本庁舎や特別出張所及びスポーツ施設におけるデジタルサイネージを活用した東京2020大会開催までの日数の表示』(36.0%)が3割台半ばを超えている。(図1-5-3)

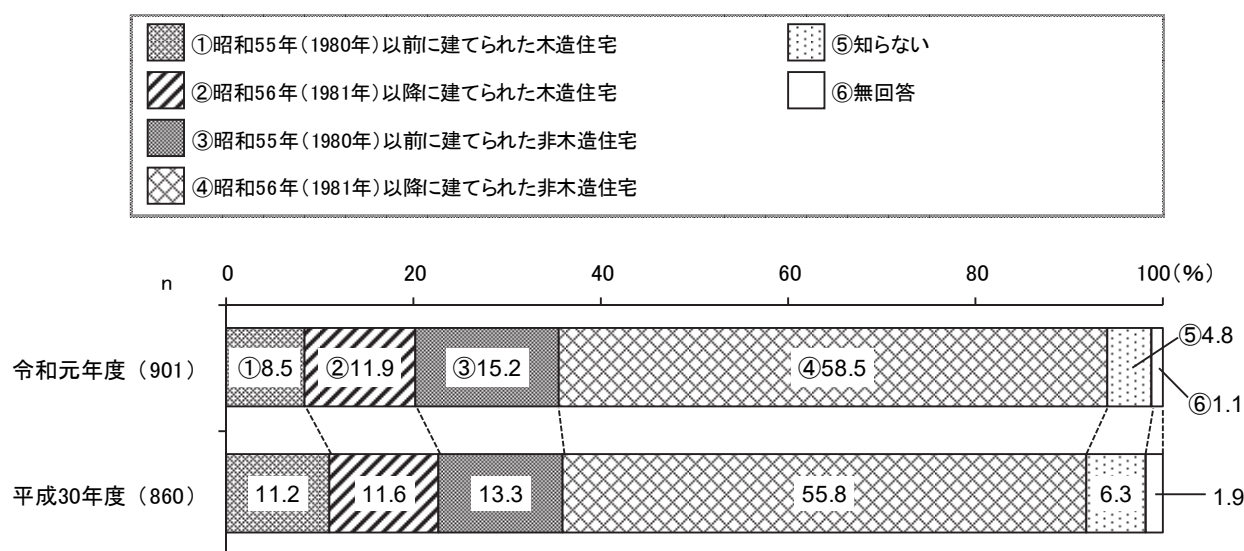
テーマ2 震災に備えて

（1）家屋の建築年・建築構造

◎《昭和56年（1981年）以降に建てられた住宅》が約7割

問6 あなたがお住まいの建物について、教えてください。（〇は1つ）		(n=901)
1	昭和55年（1980年）以前に建てられた木造住宅	8.5%
2	昭和56年（1981年）以降に建てられた木造住宅	11.9
3	昭和55年（1980年）以前に建てられた非木造住宅	15.2
4	昭和56年（1981年）以降に建てられた非木造住宅	58.5
5	知らない	4.8
	無回答	1.1

図2-1 家屋の建築年・建築構造
（経年推移）



家屋の建築年・建築構造について、「昭和56年(1981年)以降に建てられた非木造住宅」(58.5%)が6割近くとなっている。一方、「昭和56年(1981年)以降に建てられた木造住宅」が1割強となっている。また、《昭和56年(1981年)以降に建てられた住宅》【昭和56年(1981年)以降に建てられた木造住宅】+【昭和56年(1981年)以降に建てられた非木造住宅】(70.4%)が約7割となっている。(図2-1)

(2)「建築物等耐震化支援事業」の認知状況

◎支援事業の認知状況は《知っている》が2割台半ば

問7 区では、「建築物等耐震化支援事業」を行っています。

あなたはこの事業を知っていますか。(○は1つ)

(n=901)

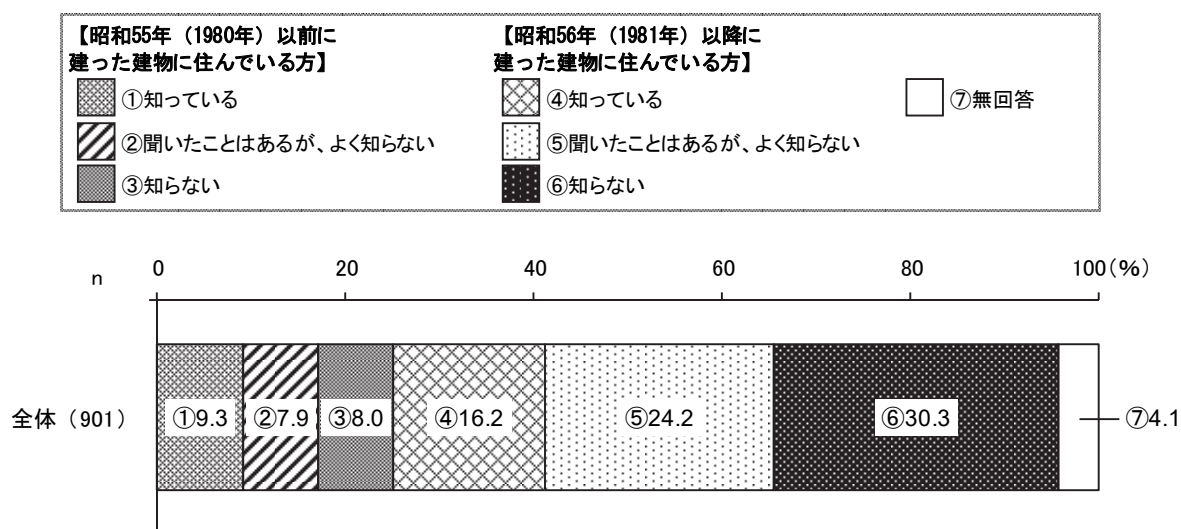
【昭和55年(1980年)以前に建った建物に住んでいる方】

1 知っている	9.3%
2 聞いたことはあるが、よく知らない	7.9
3 知らない	8.0

【昭和56年(1981年)以降に建った建物に住んでいる方】

4 知っている	16.2
5 聞いたことはあるが、よく知らない	24.2
6 知らない	30.3
無回答	4.1

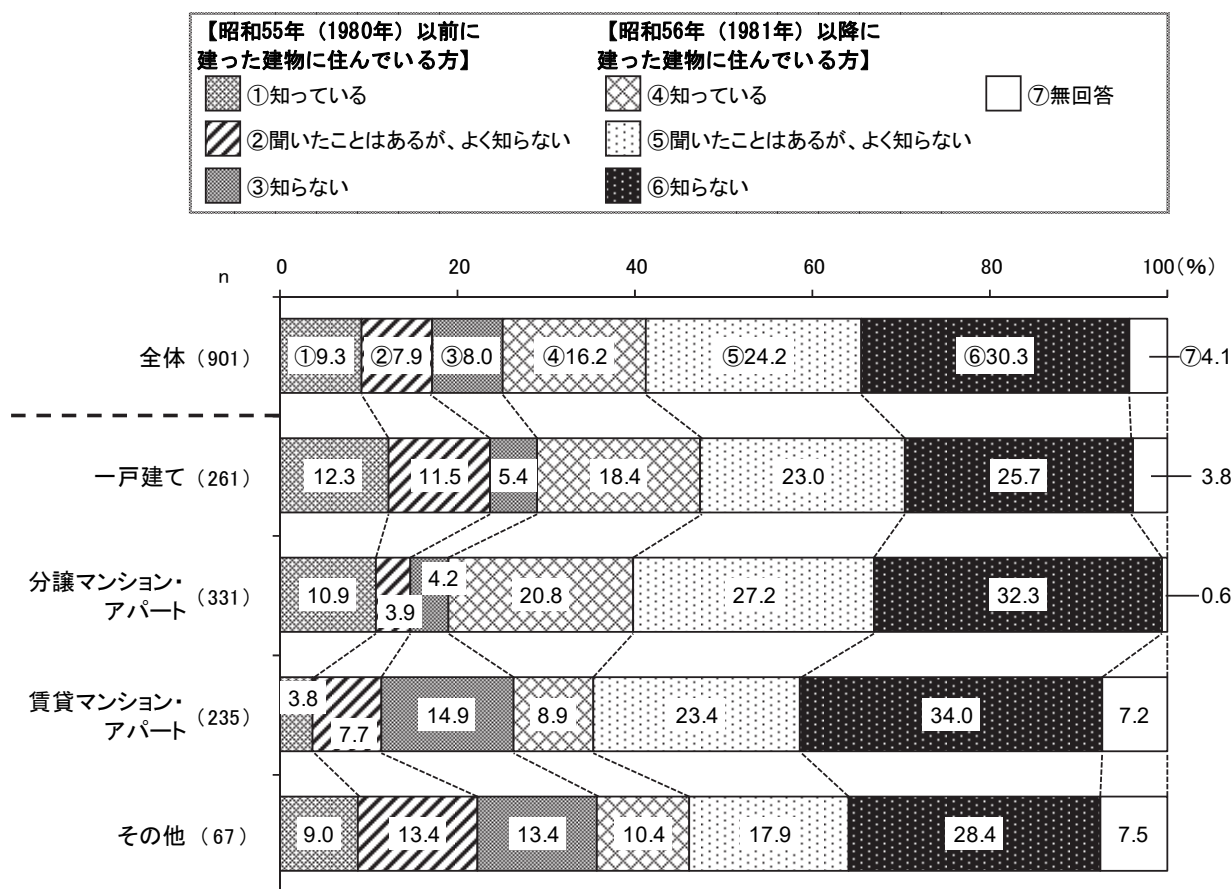
図2-2-1 「建築物等耐震化支援事業」の認知状況



「建築物等耐震化支援事業」の認知状況について、建物の建築年で比べると、支援事業を「知っている」は【昭和56年(1981年)以降に建った建物に住んでいる方】(16.2%)が1割台半ばを超え、【昭和55年(1980年)以前に建った建物に住んでいる方】(9.3%)が1割弱となっている。また、《知っている》(【昭和55年(1980年)以前に建った建物に住んでいる方】+【昭和56年(1981年)以降に建った建物に住んでいる方】)(25.5%)が2割台半ばとなっている。

(図2-2-1)

図2-2-2 「建築物等耐震化支援事業」の認知状況
（住居形態別4区分）



住居形態別4区分でみると、《知っている》では、分譲マンション・アパート（31.7%）が3割強で最も高く、全体（25.5%）を6.2ポイント上回っている。（図2-2-2）

(3) 耐震診断の意向

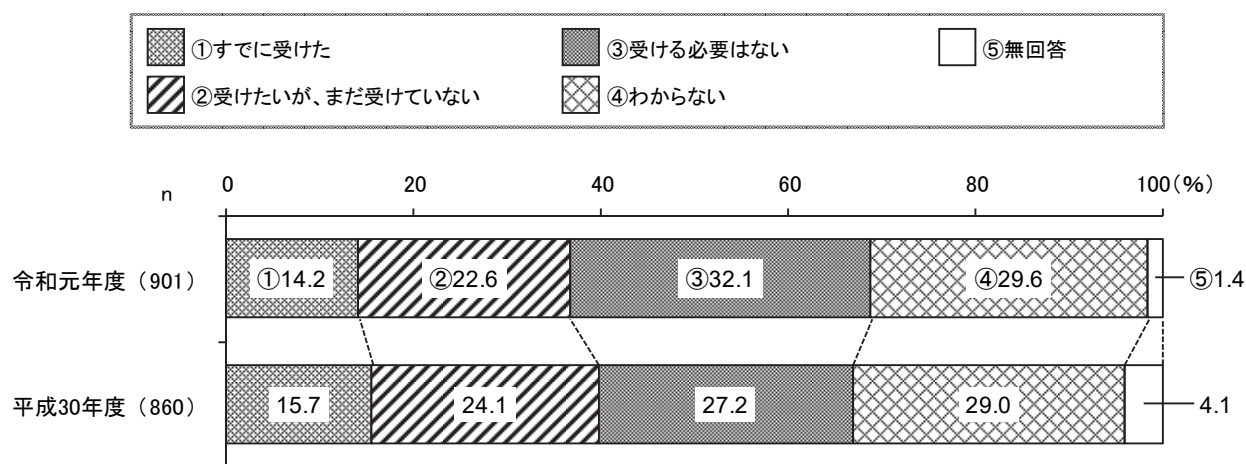
◎耐震診断を「受ける必要はない」が3割強

問8 あなたは、お住まいの建物について、耐震診断を受けたいと思いますか。

(○は1つ)

	(n=901)
1 すでに受けた	14.2%
2 受けたいが、まだ受けていない	22.6
3 受ける必要はない	32.1
4 わからない	29.6
無回答	1.4

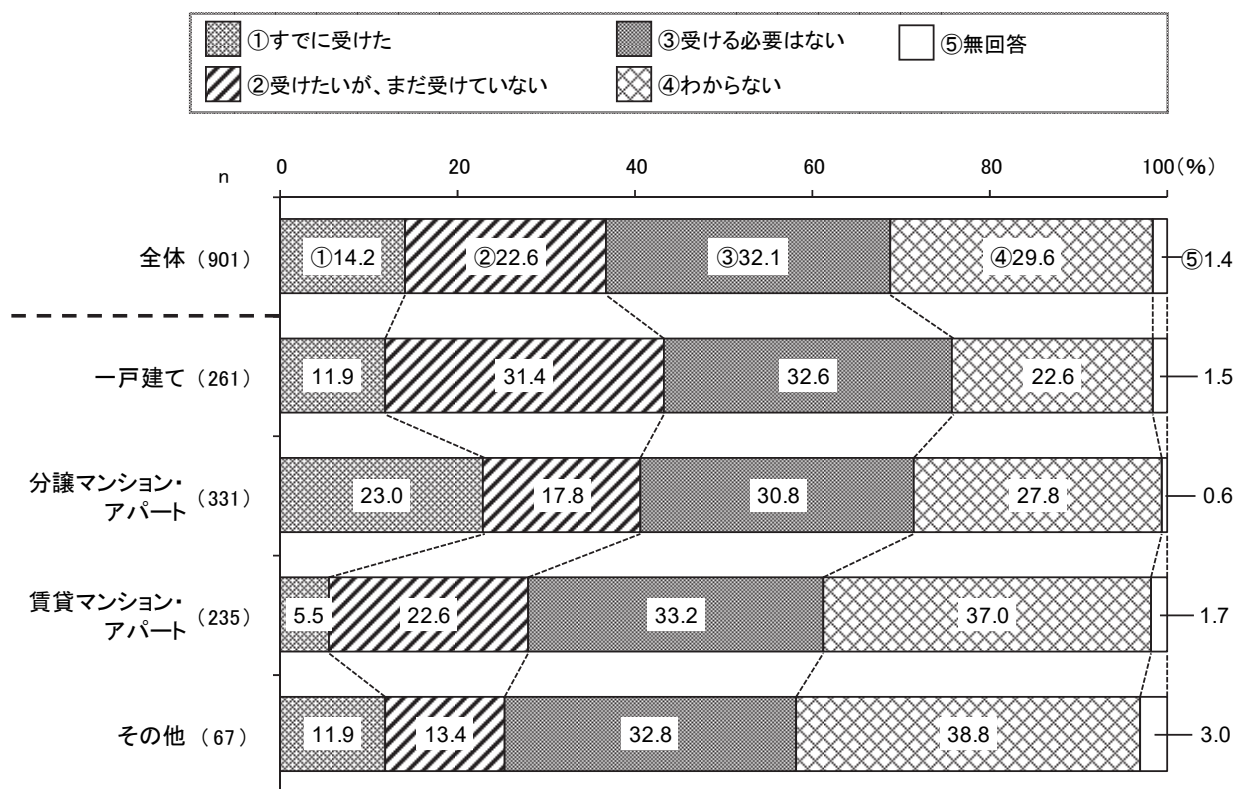
図2-3-1 耐震診断の意向
(経年推移)



耐震診断の意向について、「すでに受けた」(14.2%)が1割台半ば近く、「受けたいが、まだ受けていない」(22.6%)が2割強となっている。一方、「受ける必要はない」(32.1%)が3割強となっている。

前回の調査結果(平成30年度区政モニターアンケート調査)と比較すると、「受ける必要はない」(32.1%)が前回(27.2%)より4.9ポイント高くなっている。(図2-3-1)

図2-3-2 耐震診断の意向
（住居形態別4区分）



住居形態別4区分でみると、「すでに受けた」では、分譲マンション・アパート（23.0%）が2割台半ば近くで最も高く、全体（14.2%）を8.8ポイント上回っている。

「受けたいが、まだ受けていない」では、一戸建て（31.4%）が3割強で最も高く、全体（22.6%）を8.8ポイント上回っている。（図2-3-2）

（４）耐震診断を受けない理由

◎「集合住宅のため自分の考えだけではできないから」および「昭和 56 年（1981 年）以降に建った新耐震基準の建物だから」がともに 4 割強

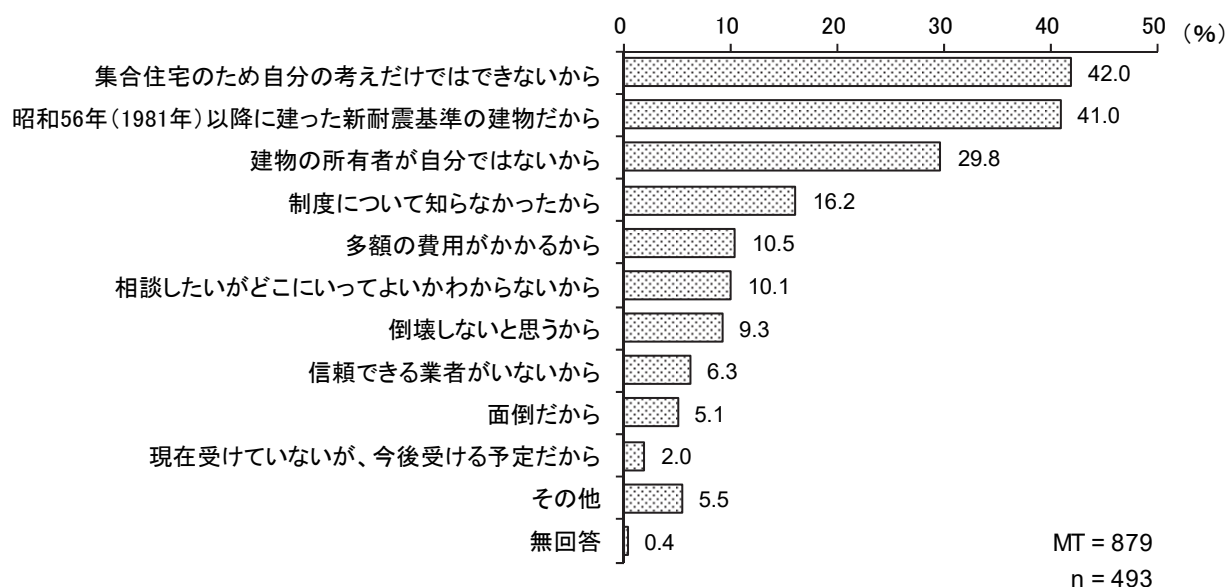
問 8－1 問 8 で、「2」または、「3」に○をした方にお伺いします。

耐震診断を受けていない理由は何ですか。

（あてはまるものにいくつでも○をつけてください）

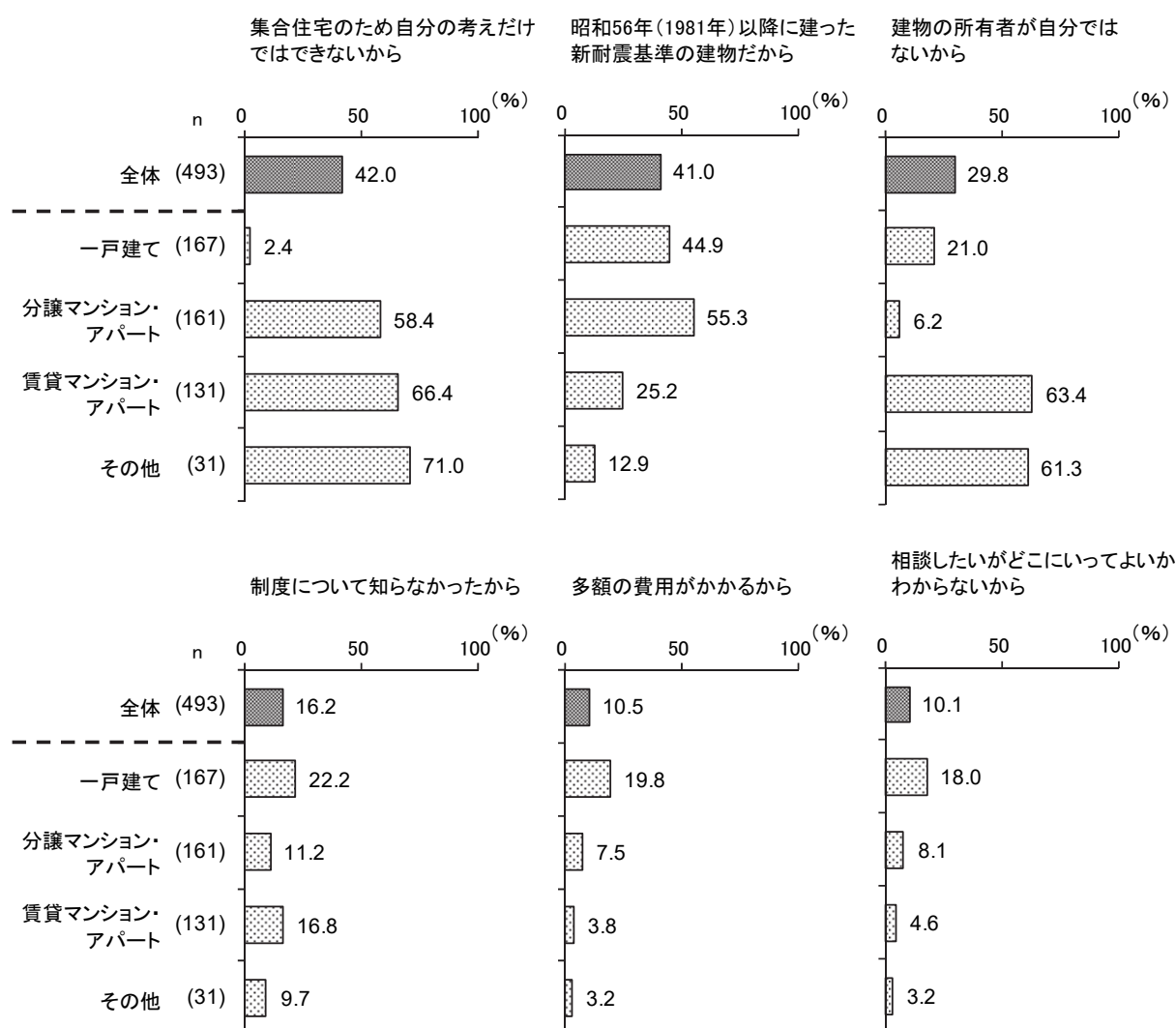
	(n=493)
1 現在受けていないが、今後受ける予定だから	2.0%
2 制度について知らなかったから	16.2
3 集合住宅のため自分の考えだけではできないから	42.0
4 建物の所有者が自分ではないから	29.8
5 昭和 56 年（1981 年）以降に建った新耐震基準の建物だから	41.0
6 多額の費用がかかるから	10.5
7 倒壊しないと思うから	9.3
8 信頼できる業者がないから	6.3
9 相談したいがどこにいったいいかわからないから	10.1
10 面倒だから	5.1
11 その他	5.5
無回答	0.4

図 2－4－1 耐震診断を受けない理由



耐震診断を受けない理由としては、「集合住宅のため自分の考えだけではできないから」(42.0%) および「昭和 56 年（1981 年）以降に建った新耐震基準の建物だから」(41.0%) がともに 4 割強、以下「建物の所有者が自分ではないから」(29.8%) が 3 割弱となっている。（図 2－4－1）

図2-4-2 耐震診断を受けない理由
（住居形態別4区分）上位6項目



上位6項目について、住居形態別4区分でみると、「集合住宅のため自分の考えだけではできないから」で、その他を除くと賃貸マンション・アパート（66.4%）が6割台半ばを超えて高く、全体（42.0%）を24.4ポイント上回っている。

「多額の費用がかかるから」で、一戸建て（19.8%）が2割弱で最も高く、全体（10.5%）を9.3ポイント上回っている。また、「相談したいがどこにいったいいかわからないから」で、一戸建て（18.0%）が2割近くで最も高く、全体（10.1%）を7.9ポイント上回っている。

（図2-4-2）

(5) 耐震補強工事の意向

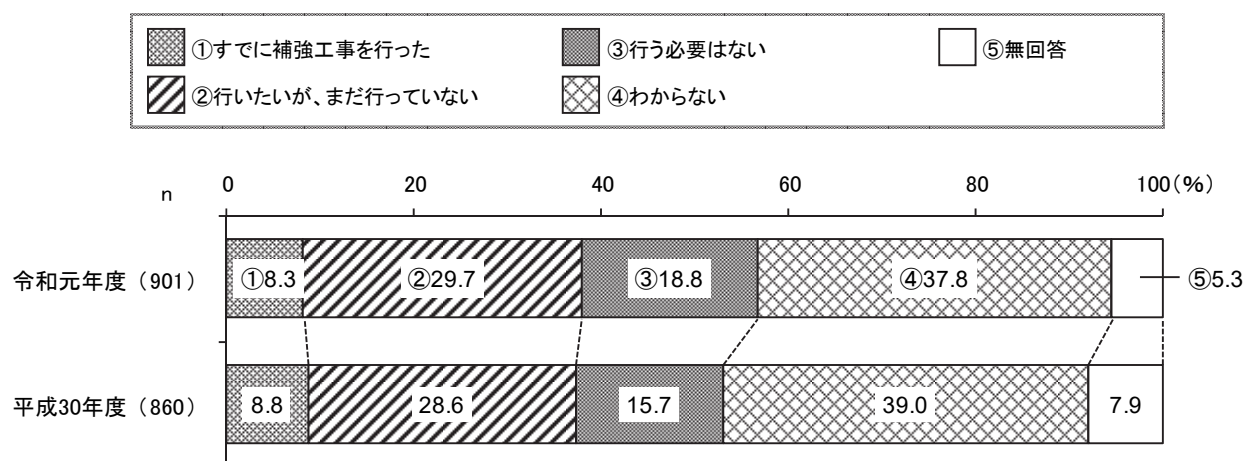
◎耐震補強工事を「行いたい、まだ行っていない」が3割弱

問9 お住まいの建物が耐震診断の結果で耐震補強が必要な場合、あなたは補強工事を行いたいと思いますか。(〇は1つ)

(n=901)

1	すでに補強工事を行った	8.3%
2	行いたい、まだ行っていない	29.7
3	行う必要はない	18.8
4	わからない	37.8
	無回答	5.3

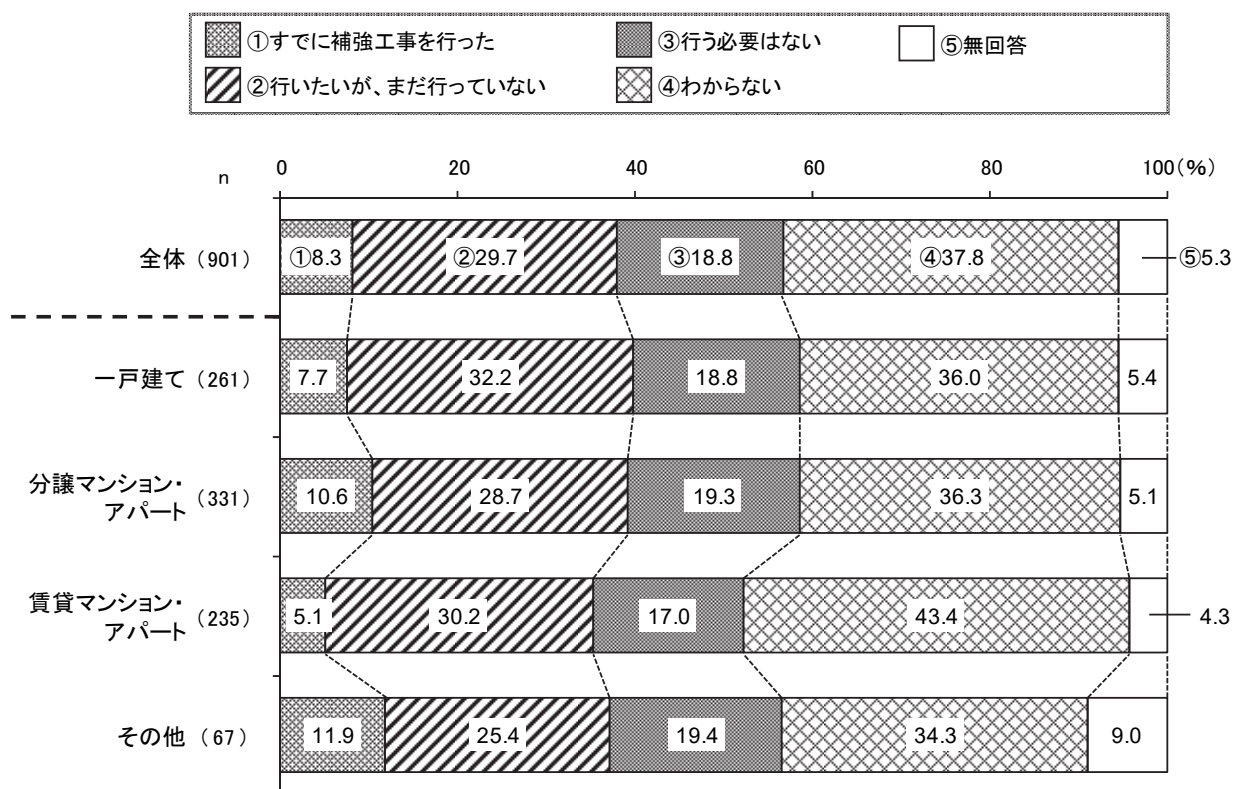
図2-5-1 耐震補強工事の意向
(経年推移)



耐震補強工事の意向について、「わからない」(37.8%)が3割台半ばを超えて最も高く、次いで「行いたい、まだ行っていない」(29.7%)が3割弱となっている。

前回の調査結果(平成30年度区政モニターアンケート調査)と比較すると、「行う必要はない」(18.8%)が前回(15.7%)より3.1ポイント高くなっている。(図2-5-1)

図2-5-2 耐震補強工事の意向
（住居形態別4区分）



住居形態別4区分でみると、「わからない」では、賃貸マンション・アパート（43.4%）が4割台半ば近くで最も高くなっており、全体（37.8%）を5.6ポイント上回っている。（図2-5-2）

（６）耐震補強工事を行っていない理由

◎「集合住宅のため自分の考えだけではできないから」が４割台半ばを超え

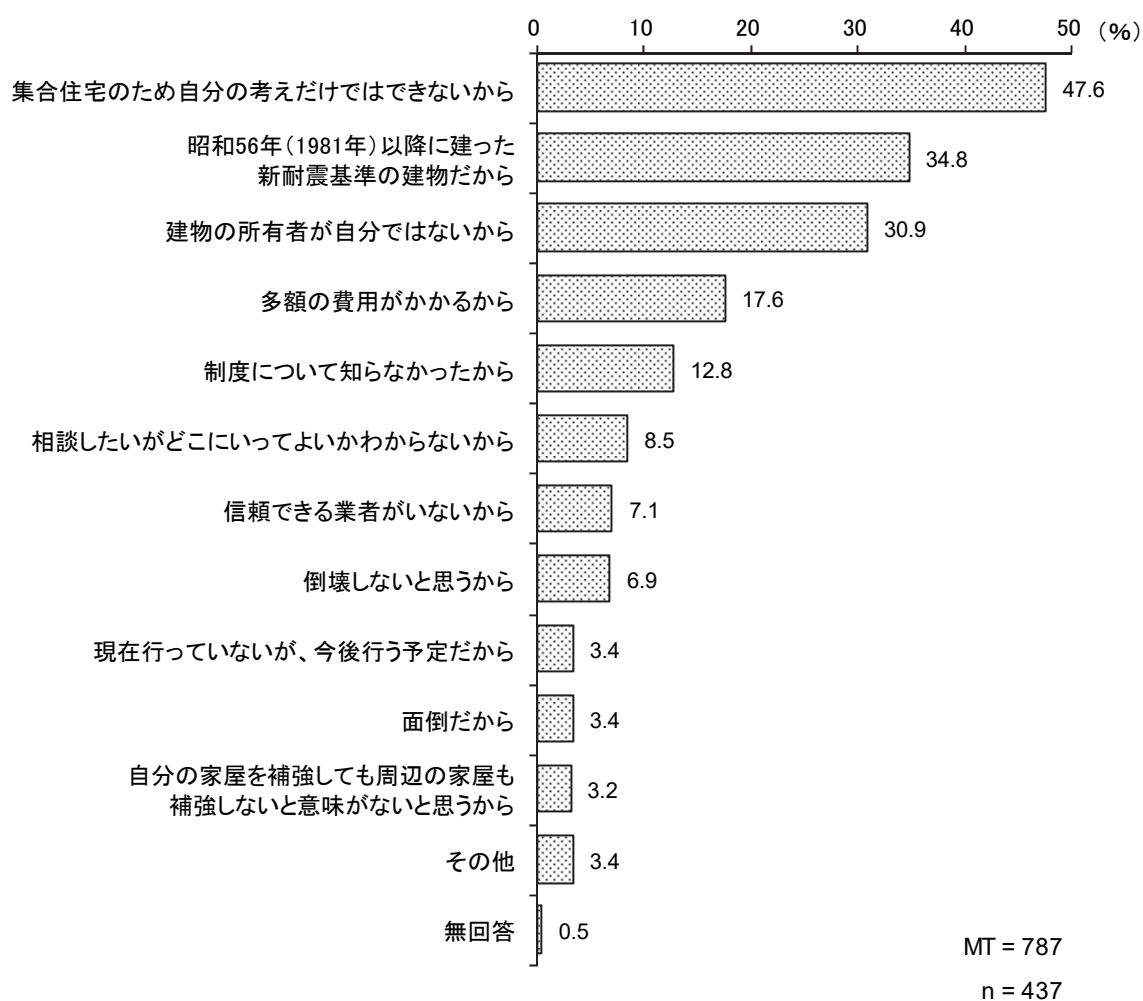
問９－１ 問９で、「２」または、「３」に○をした方にお伺いします。

耐震補強工事を行っていない理由は何ですか。

（あてはまるものにいくつでも○をつけてください）

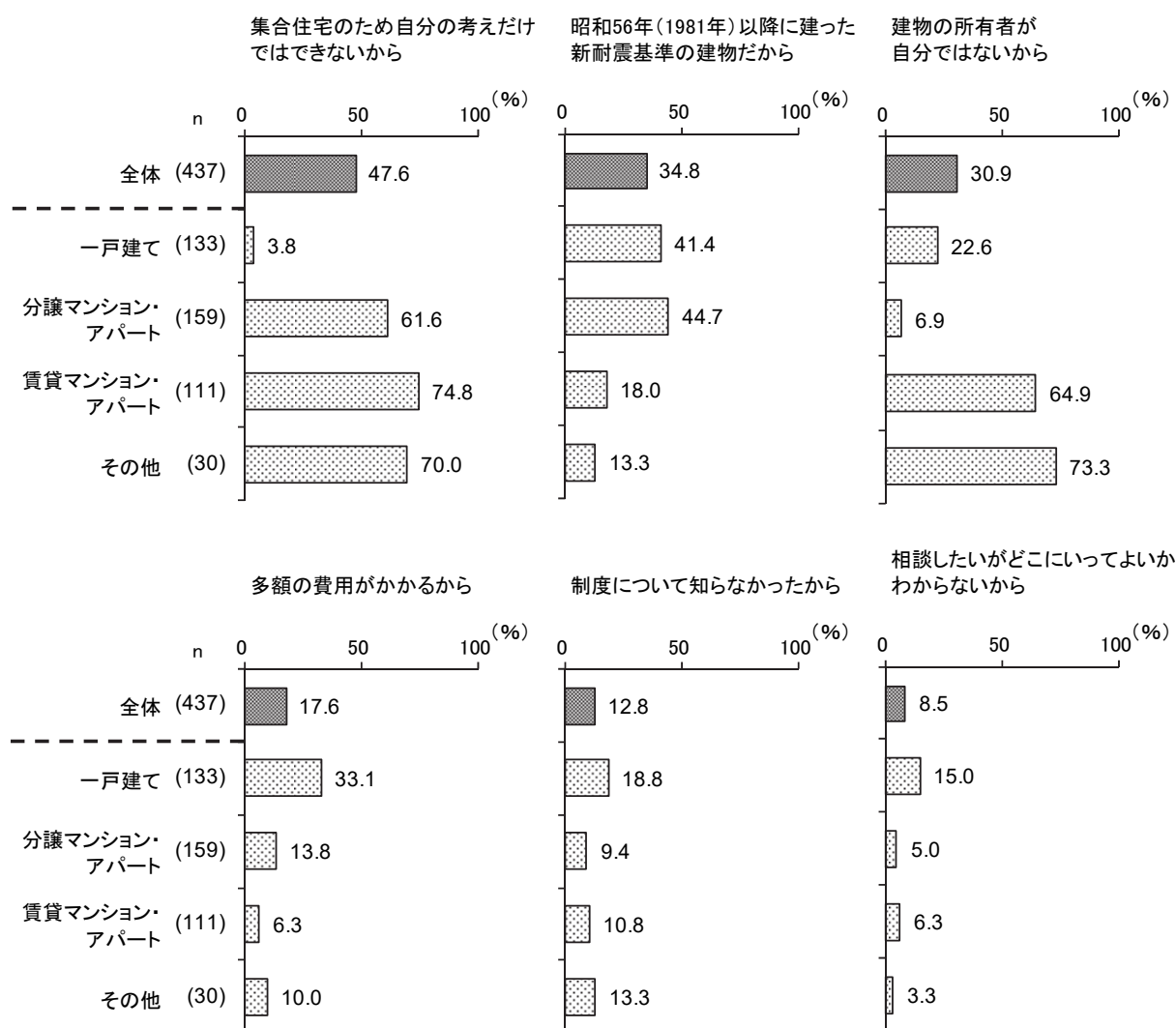
	(n=437)
１ 現在行っていないが、今後行う予定だから	3.4%
２ 制度について知らなかったから	12.8
３ 集合住宅のため自分の考えだけではできないから	47.6
４ 建物の所有者が自分ではないから	30.9
５ 昭和 56 年（1981 年）以降に建った新耐震基準の建物だから	34.8
６ 多額の費用がかかるから	17.6
７ 倒壊しないと思うから	6.9
８ 信頼できる業者がないから	7.1
９ 相談したいがどこにいったいいかわからないから	8.5
10 自分の家屋を補強しても周辺の家屋も補強しないと意味がないと思うから	3.2
11 面倒だから	3.4
12 その他	3.4
無回答	0.5

図2-6-1 耐震補強工事を行っていない理由



耐震補強工事を行っていない理由としては、「集合住宅のため自分の考えだけではできないから」（47.6%）が4割台半ばを超えて最も高く、次いで「昭和56年（1981年）以降に建った新耐震基準の建物だから」（34.8%）が3割台半ば近く、「建物の所有者が自分ではないから」（30.9%）が約3割と続いている。（図2-6-1）

図2-6-2 耐震補強工事を行っていない理由
(住居形態別4区分) 上位6項目



上位6項目について、住居形態別4区分でみると、「集合住宅のため自分の考えだけではできないから」では、賃貸マンション・アパート（74.8%）が7割台半ば近くで高くなっており、全体（47.6%）を27.2ポイント上回っている。

「多額の費用がかかるから」で、一戸建て（33.1%）が3割台半ば近くで高くなっており、全体（17.6%）を15.5ポイント上回っている。（図2-6-2）

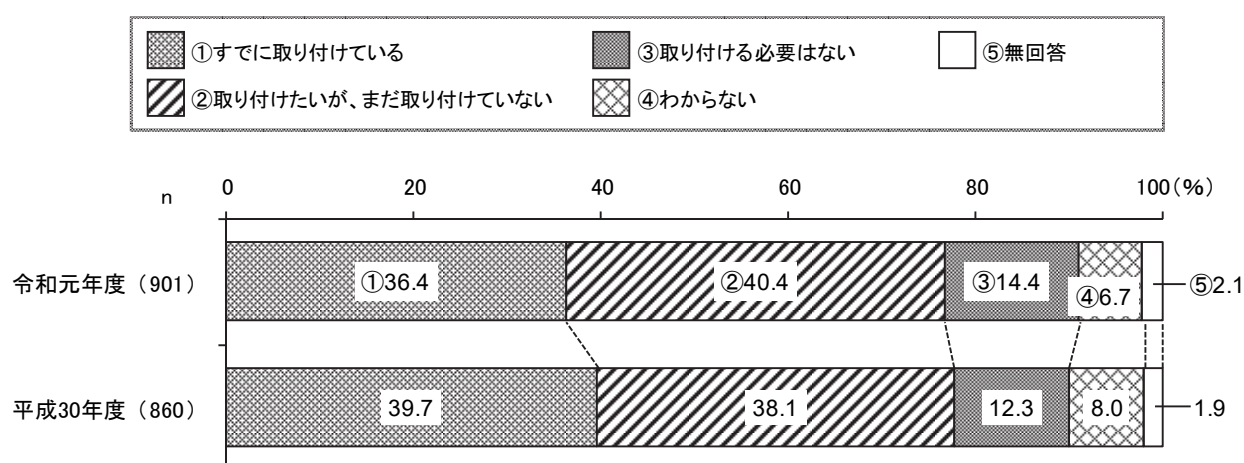
（7）家具転倒防止器具の取り付けの意向

◎家具転倒防止器具を「取り付けたいが、まだ取り付けしていない」が約4割

問10 あなたは家具転倒防止器具を取り付けたいと思いますか。（○は1つ）

	(n=901)
1 すでに取り付けている	36.4%
2 取り付けたいが、まだ取り付けしていない	40.4
3 取り付ける必要はない	14.4
4 わからない	6.7
無回答	2.1

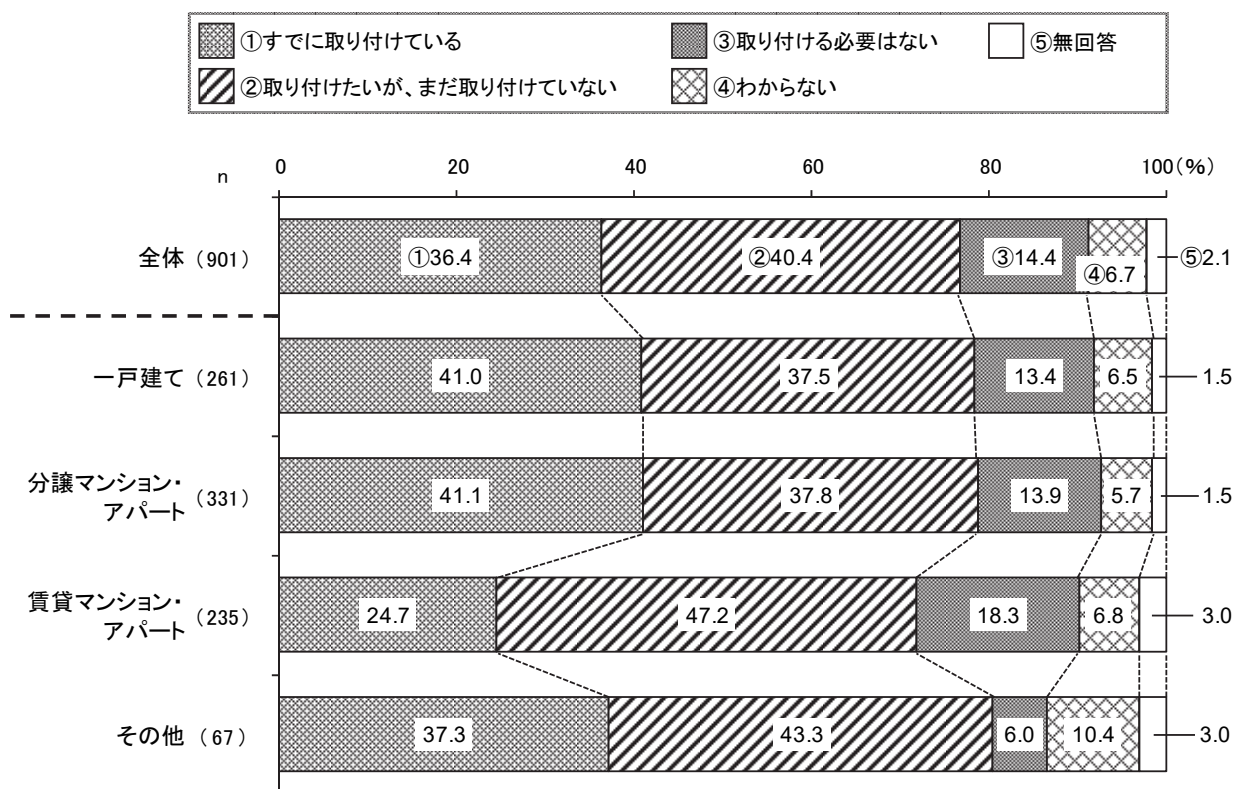
図2-7-1 家具転倒防止器具の取り付けの意向
（経年推移）



家具転倒防止器具の取り付けの意向について、「すでに取り付けている」（36.4%）が3割台半ばを超え、「取り付けたいが、まだ取り付けしていない」（40.4%）が約4割となっている。一方、「取り付ける必要はない」（14.4%）が1割台半ば近くとなっている。

前回の調査結果（平成30年度区政モニターアンケート調査）と比較すると、「すでに取り付けている」（36.4%）が前回（39.7%）より3.3ポイント低くなっている。（図2-7-1）

図2-7-2 家具転倒防止器具の取り付けの意向
(住居形態別4区分)



住居形態別4区分でみると、「取り付けたいが、まだ取付けていない」では、賃貸マンション・アパート（47.2%）が4割台半ばを超えて最も高くなっており、全体（40.4%）を6.8ポイント上回っている。（図2-7-2）

（８）家具転倒防止器具を取り付けていない理由

◎「どのような器具を取り付ければよいかわからないから」が３割台半ば近く

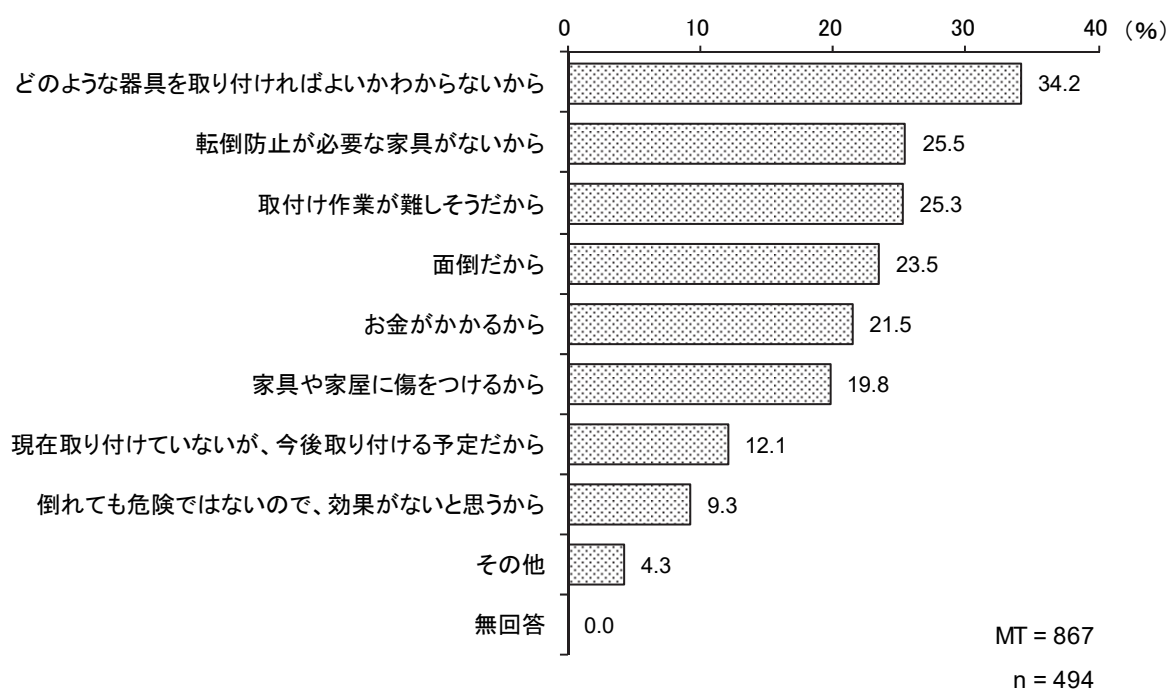
問１０－１ 問１０で、「２」または「３」に○をした方にお伺いします。

家具転倒防止器具を取り付けていない理由は何ですか。

（あてはまるものにいくつでも○をつけてください）

	(n=494)
１ 現在取り付けていないが、今後取り付ける予定だから	12.1%
２ どのような器具を取り付ければよいかわからないから	34.2
３ 家具や家屋に傷をつけるから	19.8
４ 取付け作業が難しそうだから	25.3
５ お金がかかるから	21.5
６ 倒れても危険ではないので、効果がないと思うから	9.3
７ 面倒だから	23.5
８ 転倒防止が必要な家具がないから	25.5
９ その他	4.3
無回答	0.0

図２－８ 家具転倒防止器具を取り付けていない理由



家具転倒防止器具を取り付けていない理由としては、「どのような器具を取り付ければよいかわからないから」（34.2%）が３割台半ば近くで最も高く、次いで「転倒防止が必要な家具がないから」（25.5%）および「取付け作業が難しそうだから」（25.3%）がともに２割台半ば、「面倒だから」（23.5%）が２割台半ば近くと続いている。（図２－８）

（９）「家具転倒防止器具取付け事業」の認知状況

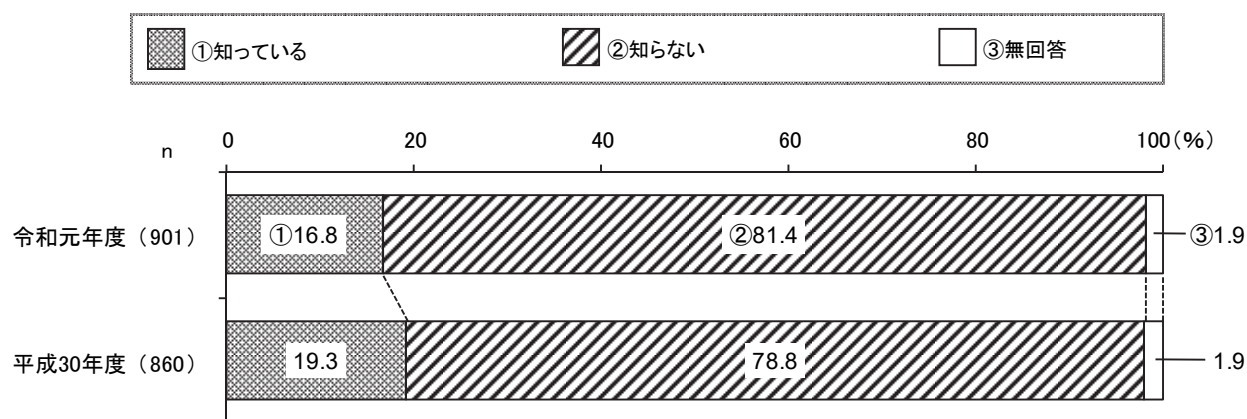
◎事業を「知らない」が8割強

問１１ あなたは、区が行っている家具転倒防止器具取付け事業（調査費・取付け費無料）を知っていますか。（○は１つ）

(n=901)

1	知っている	16.8%
2	知らない	81.4
	無回答	1.9

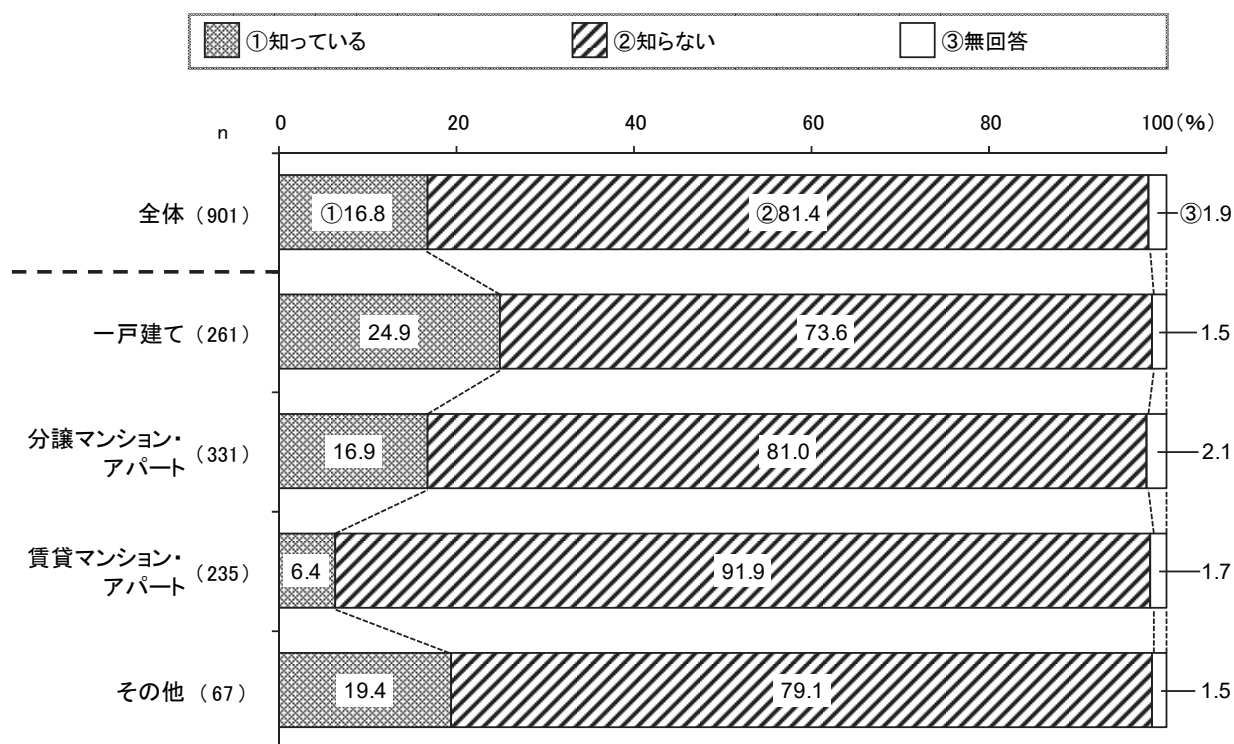
図２－９－１ 「家具転倒防止器具取付け事業」の認知状況
（経年推移）



「家具転倒防止器具取付け事業」の認知状況について、事業を「知らない」（81.4%）が8割強となっている。

前回の調査結果（平成30年度区政モニターアンケート調査）と比較すると、割合に大きな変化はみられない。（図２－９－１）

図2-9-2 「家具転倒防止器具取付け事業」の認知状況
（住居形態別4区分）



住居形態別4区分でみると、「知っている」では、一戸建て（24.9%）が2割台半ば近くで最も高くなっており、全体（16.8%）を8.1ポイント上回っている。（図2-9-2）

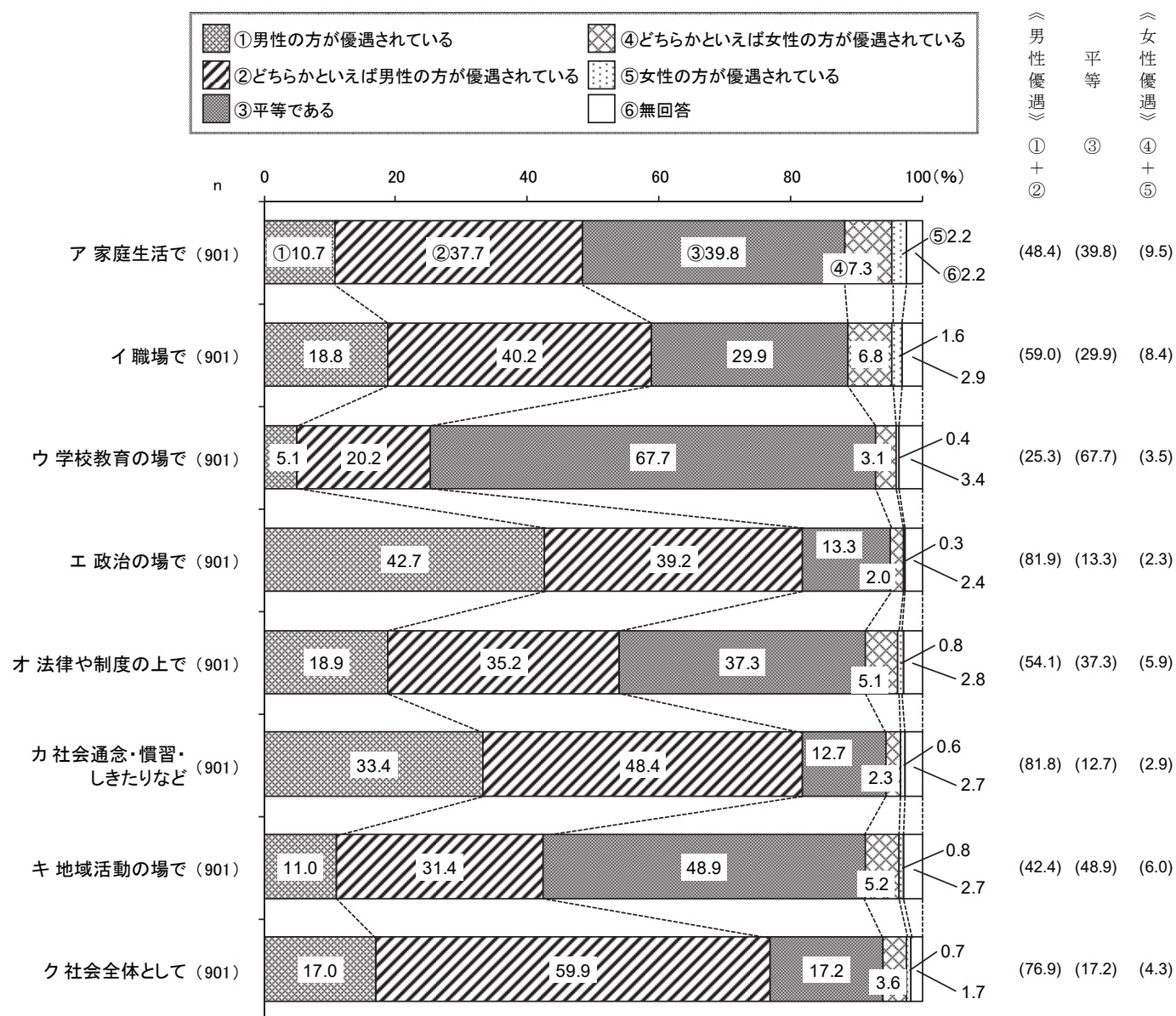
テーマ3 男女共同参画に関する意識について

(1) さまざまな分野での男女平等意識について

◎「平等である」と思う方が多いのは『学校教育の場で』で6割台半ばを超え

問12 あなたは、次のような分野において男女平等だと思いますか。 (ア～クそれぞれで、1～5に1つだけ○をつけてください)						
	男性の方が優遇されている	男性の方が優遇されている どちらかといえば	平等である	女性の方が優遇されている どちらかといえば	女性の方が優遇されている	無回答
ア 家庭生活上で	10.7%	37.7%	39.8%	7.3%	2.2%	2.2%
イ 職場で	18.8	40.2	29.9	6.8	1.6	2.9
ウ 学校教育の場で	5.1	20.2	67.7	3.1	0.4	3.4
エ 政治の場で	42.7	39.2	13.3	2.0	0.3	2.4
オ 法律や制度の上で	18.9	35.2	37.3	5.1	0.8	2.8
カ 社会通念・慣習・しきたりなど	33.4	48.4	12.7	2.3	0.6	2.7
キ 地域活動の場で	11.0	31.4	48.9	5.2	0.8	2.7
ク 社会全体として	17.0	59.9	17.2	3.6	0.7	1.7

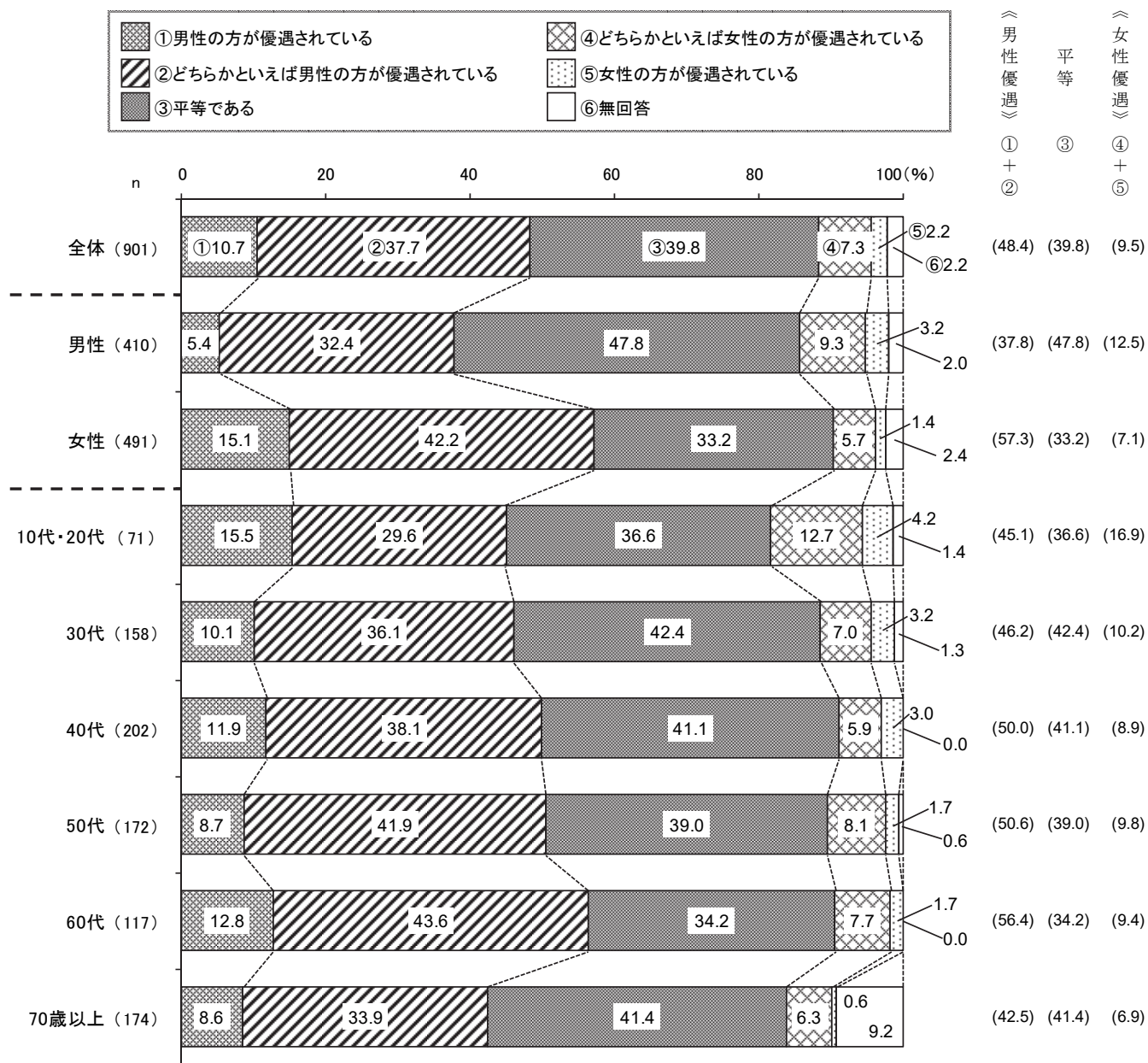
図3-1-1 さまざまな分野での男女平等意識について



さまざまな分野での男女平等意識について、「平等である」は『学校教育の場で』（67.7%）が6割台半ばを超えている。

「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた《男性優遇》は、『政治の場で』（81.9%）および『社会通念・慣習・しきたりなど』（81.8%）がともに8割強となっている。（図3-1-1）

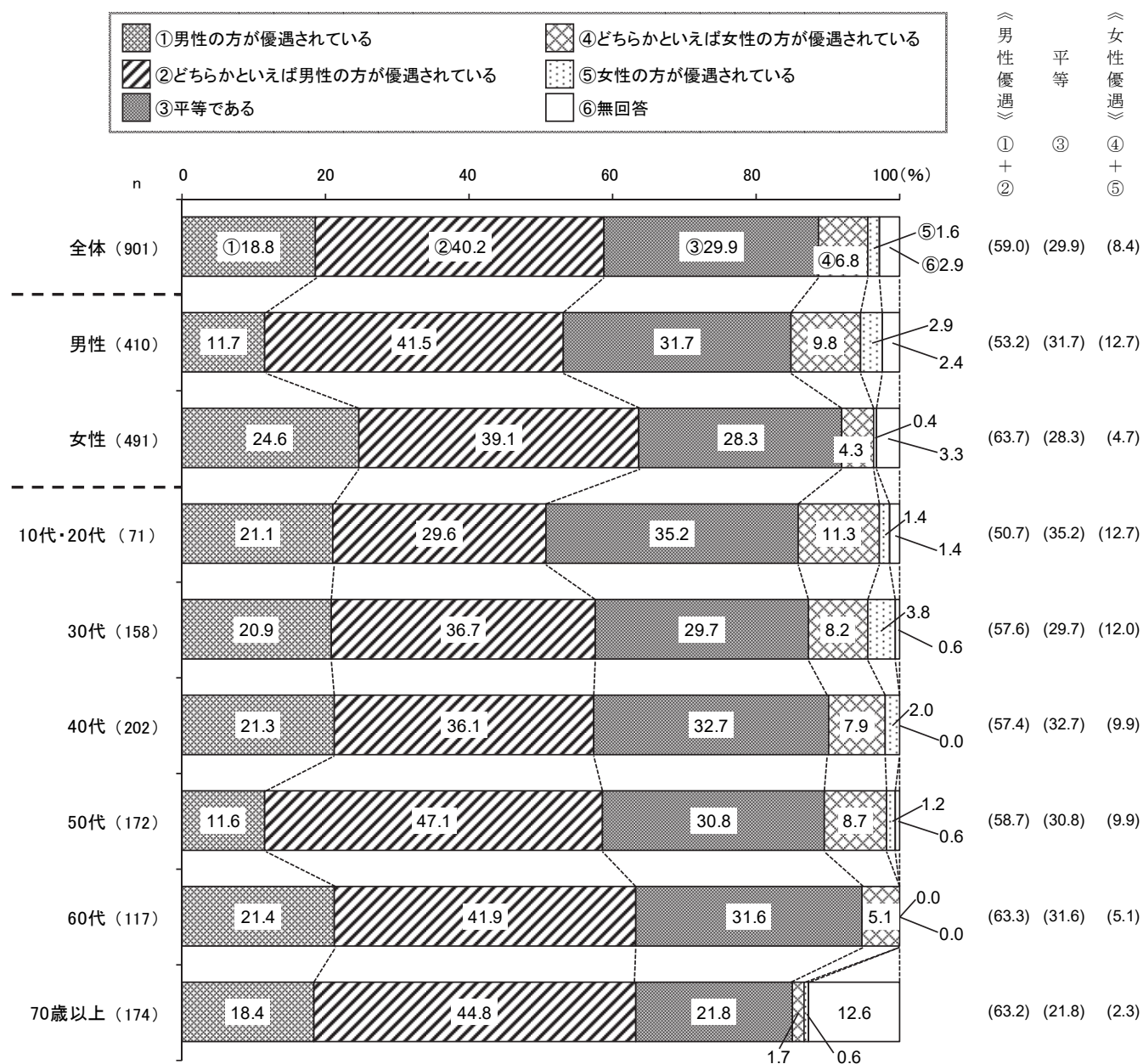
図3-1-2 さまざまな分野での男女平等意識について
(性別・年代別)
『ア 家庭生活で』



『家庭生活で』について、性別で見ると、《男性優遇》は女性（57.3%）が5割台半ばを超え、男性（37.8%）を19.5ポイント上回っている。

年代別で見ると、《男性優遇》は60代（56.4%）が5割台半ばを超えて高くなっており、全体（48.4%）を8.0ポイント上回っている。（図3-1-2）

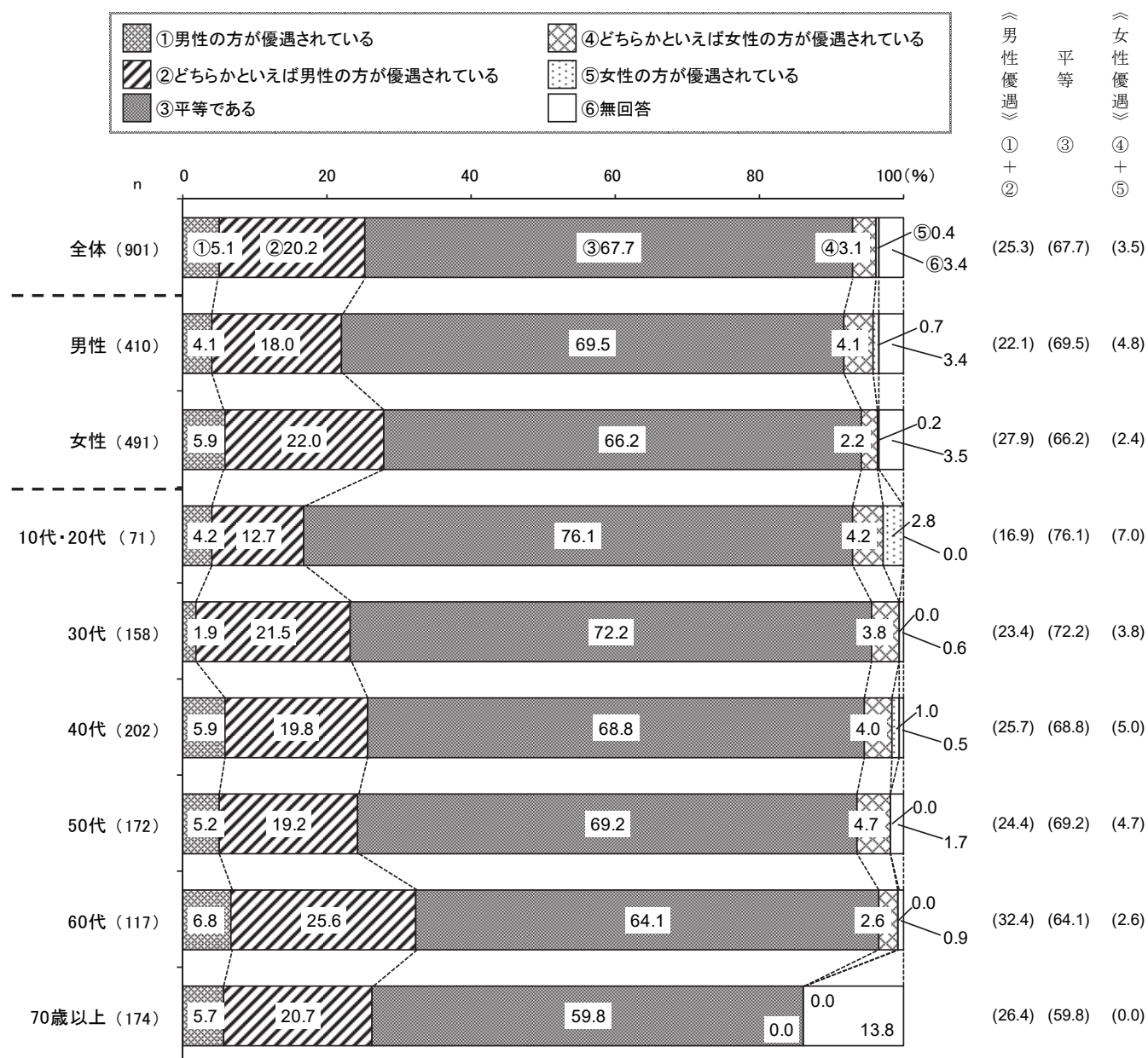
図3-1-3 さまざまな分野での男女平等意識について
（性別・年代別）
『イ 職場で』



『職場で』について、性別でみると、「男性の方が優遇されている」は女性（24.6%）が2割台半ば近くと、男性（11.7%）を12.9ポイント上回っている。

年代別でみると、「平等である」は10代・20代（35.2%）が3割台半ばと高くなっており、全体（29.9%）を5.3ポイント上回っている。（図3-1-3）

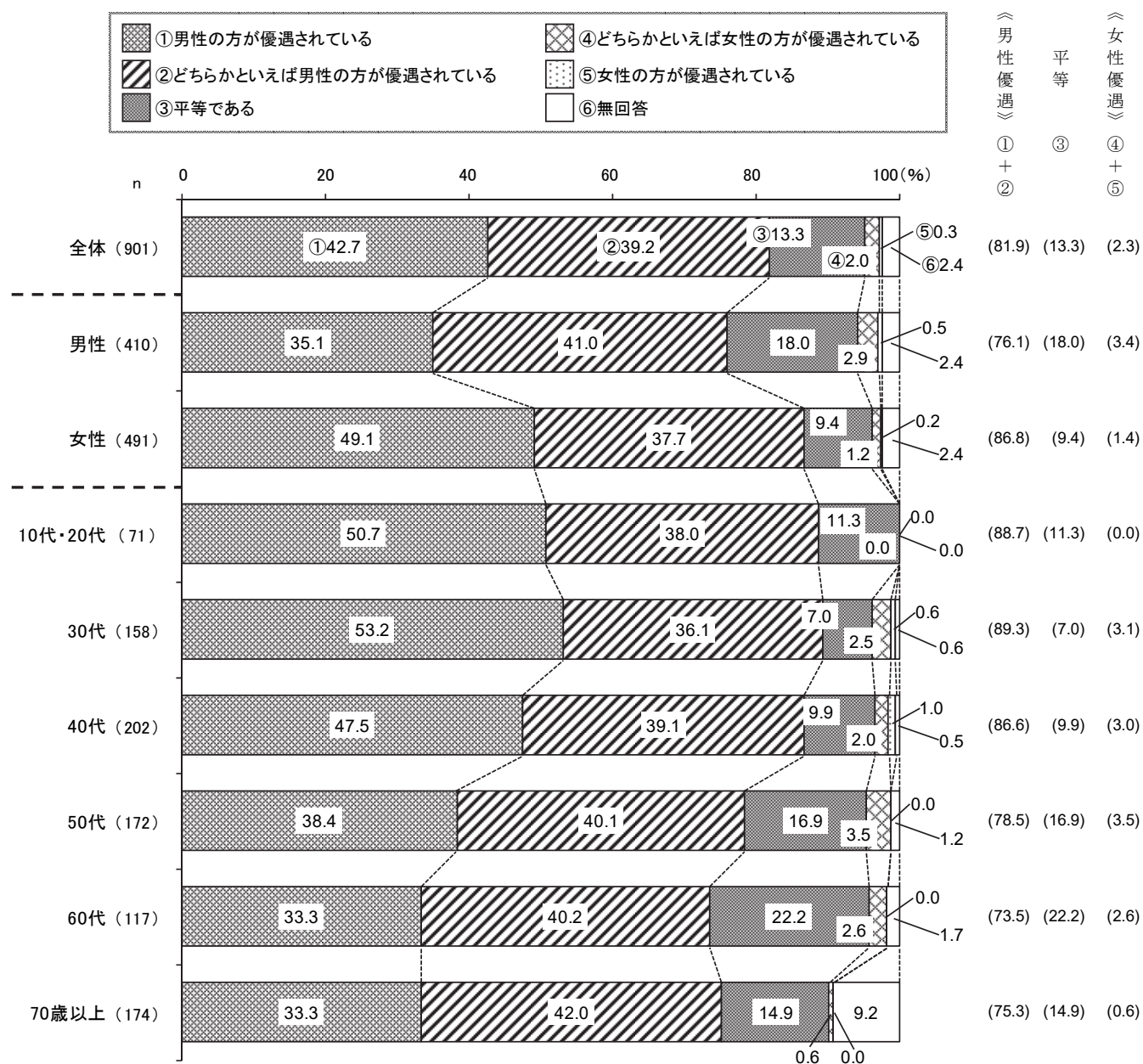
図3-1-4 さまざまな分野での男女平等意識について
(性別・年代別)
『ウ 学校教育の場で』



『学校教育の場で』について、性別でみると、《男性優遇》は女性（27.9%）が2割台半ばを超え、男性（22.1%）を5.8ポイント上回っている。

年代別でみると、「平等である」は10代・20代（76.1%）が7割台半ばを超えて高くなっており、全体（67.7%）を8.4ポイント上回っている。（図3-1-4）

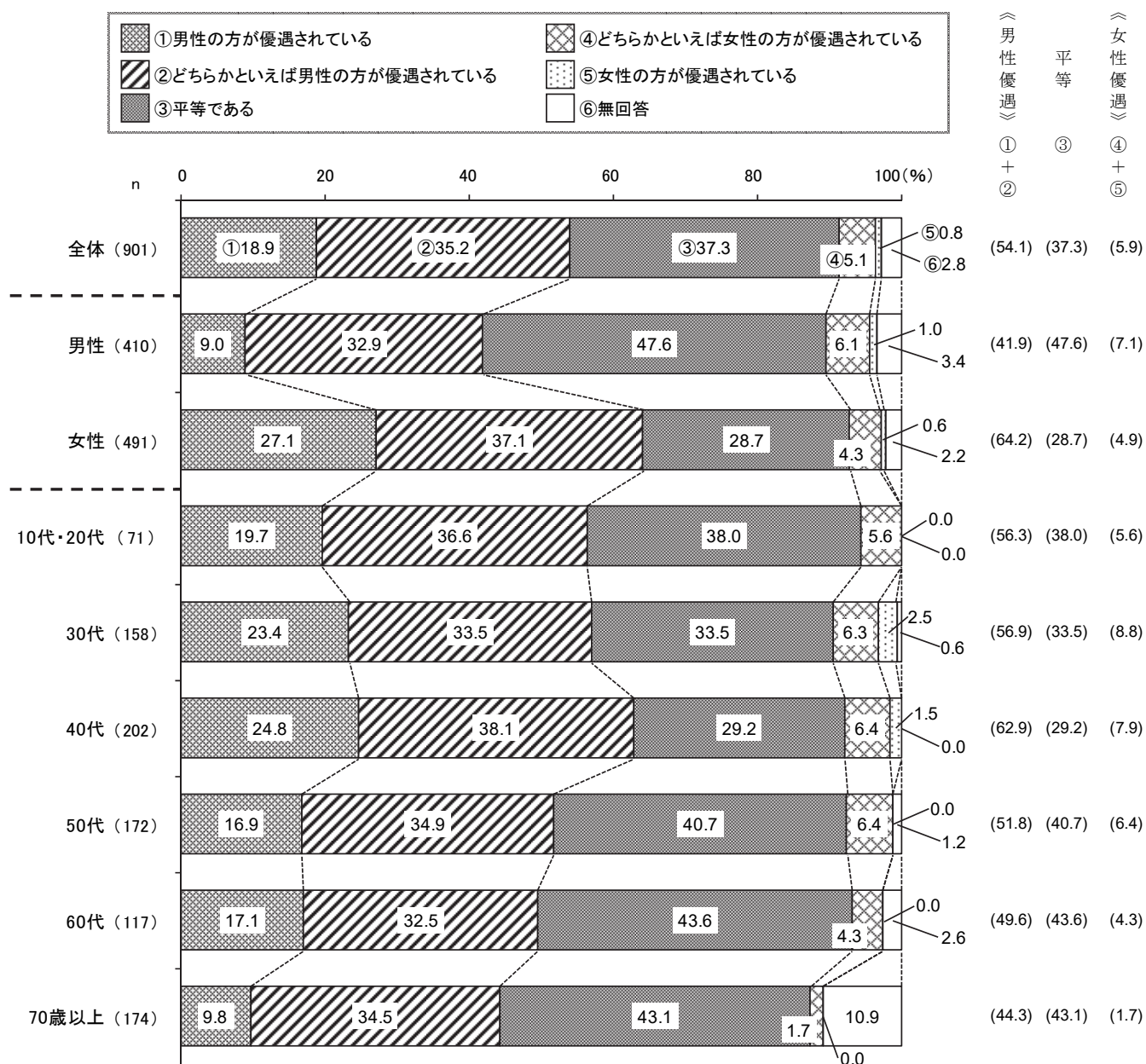
図3-1-5 さまざまな分野での男女平等意識について
（性別・年代別）
『エ 政治の場で』



『政治の場で』について、性別でみると、「男性の方が優遇されている」は女性（49.1%）が5割弱と、男性（35.1%）を14.0ポイント上回っている。

年代別でみると、「男性の方が優遇されている」は30代（53.2%）が5割台半ば近くと高くなっており、全体（42.7%）を10.5ポイント上回っている。（図3-1-5）

図3-1-6 さまざまな分野での男女平等意識について
(性別・年代別)
『オ 法律や制度の上で』

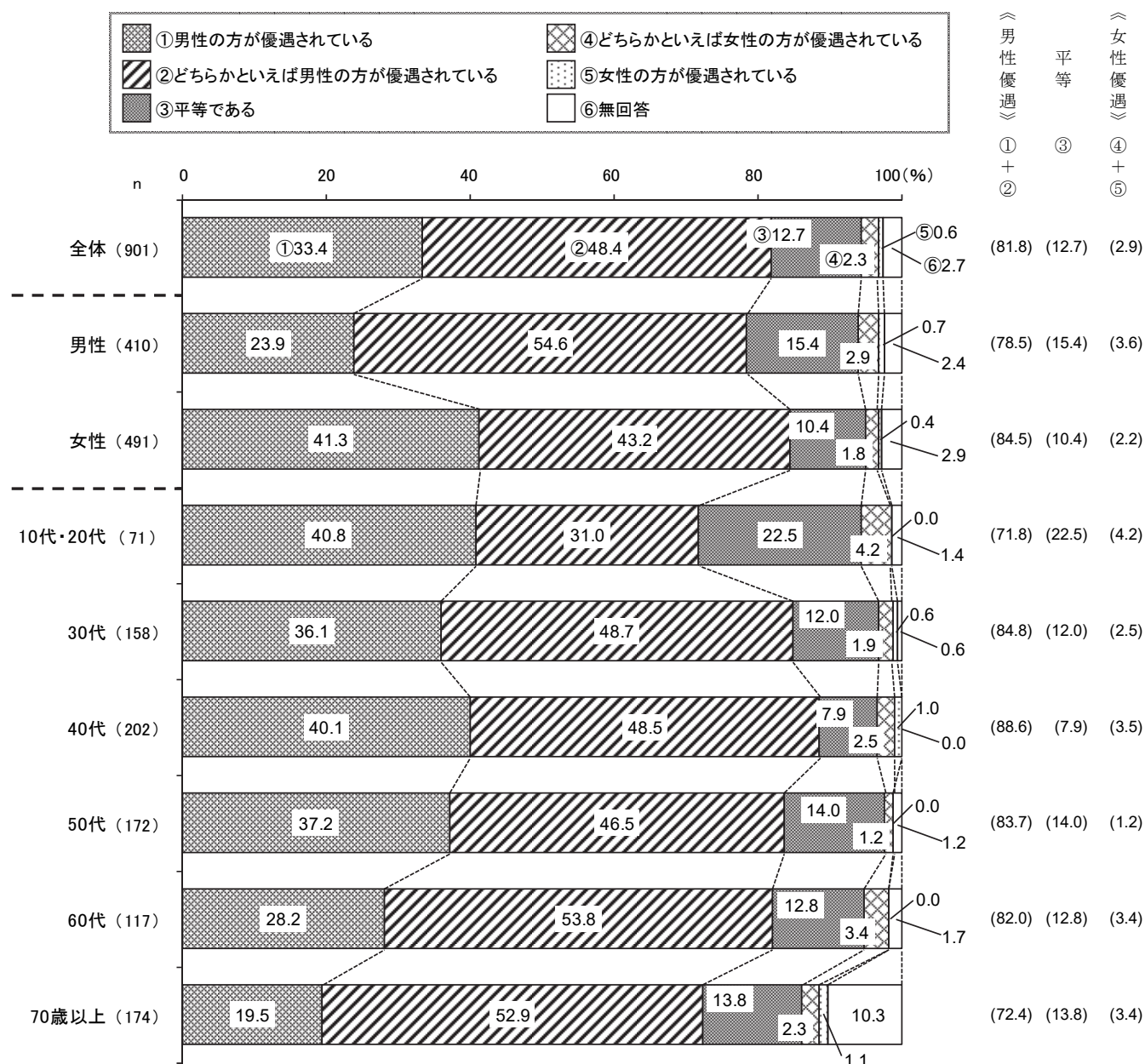


『法律や制度の上で』について、性別でみると、《男性優遇》は女性（64.2%）が6割台半ば近くと、男性（41.9%）を22.3ポイント上回っている。一方、「平等である」は男性（47.6%）が4割台半ばを超えて、女性（28.7%）を18.9ポイント上回っている。

年代別でみると、「平等である」は60代（43.6%）が4割台半ば近くと高くなっており、全体（37.3%）を6.3ポイント上回っている。（図3-1-6）

図3-1-7 さまざまな分野での男女平等意識について
（性別・年代別）

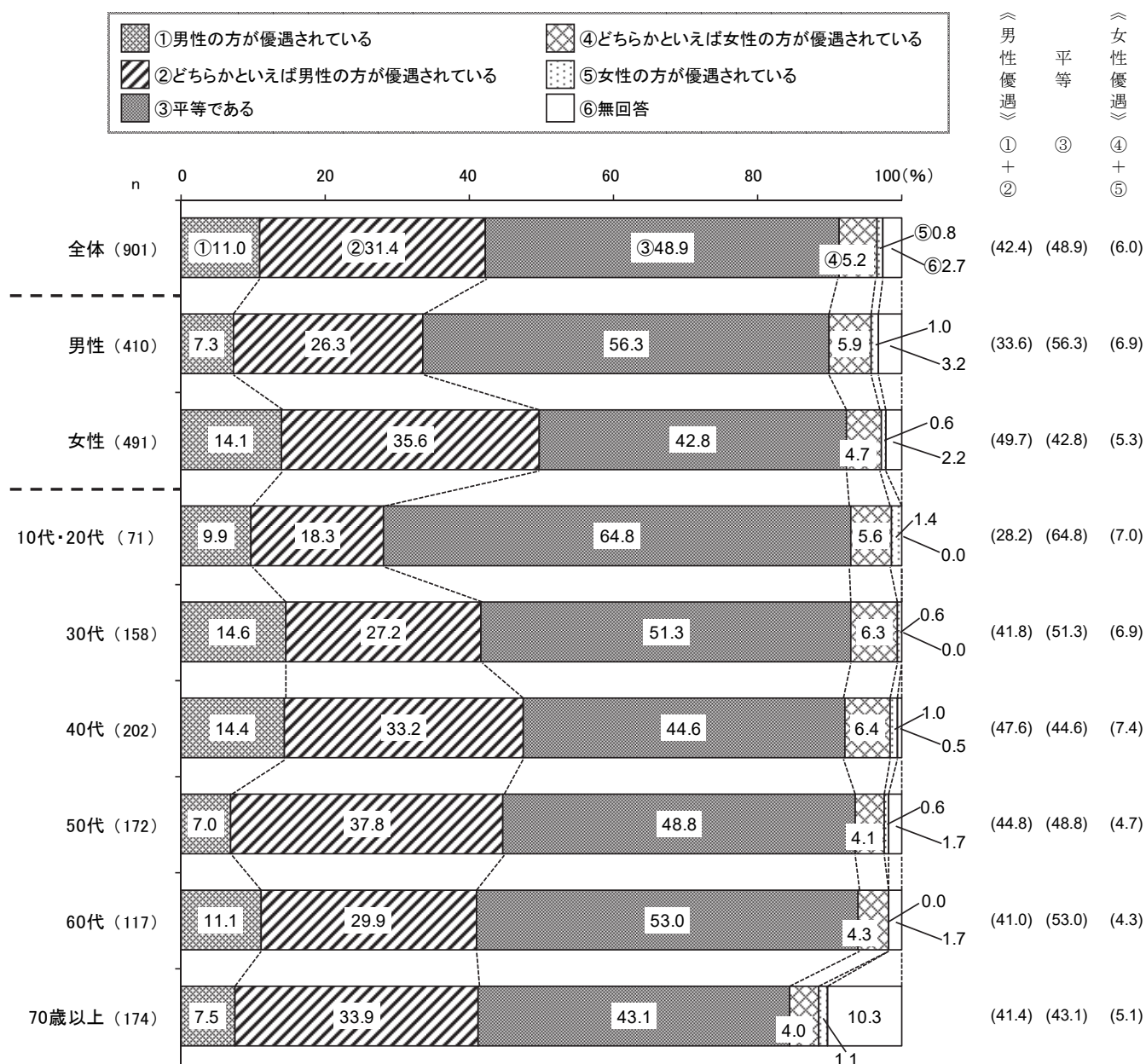
『カ 社会通念・慣習・しきたりなど』



『社会通念・慣習・しきたりなど』について、性別でみると、「男性の方が優遇されている」は女性（41.3%）が4割強と、男性（23.9%）を17.4ポイント上回っている。

年代別でみると、「平等である」は10代・20代（22.5%）が2割強と高くなっており、全体（12.7%）を9.8ポイント上回っている。（図3-1-7）

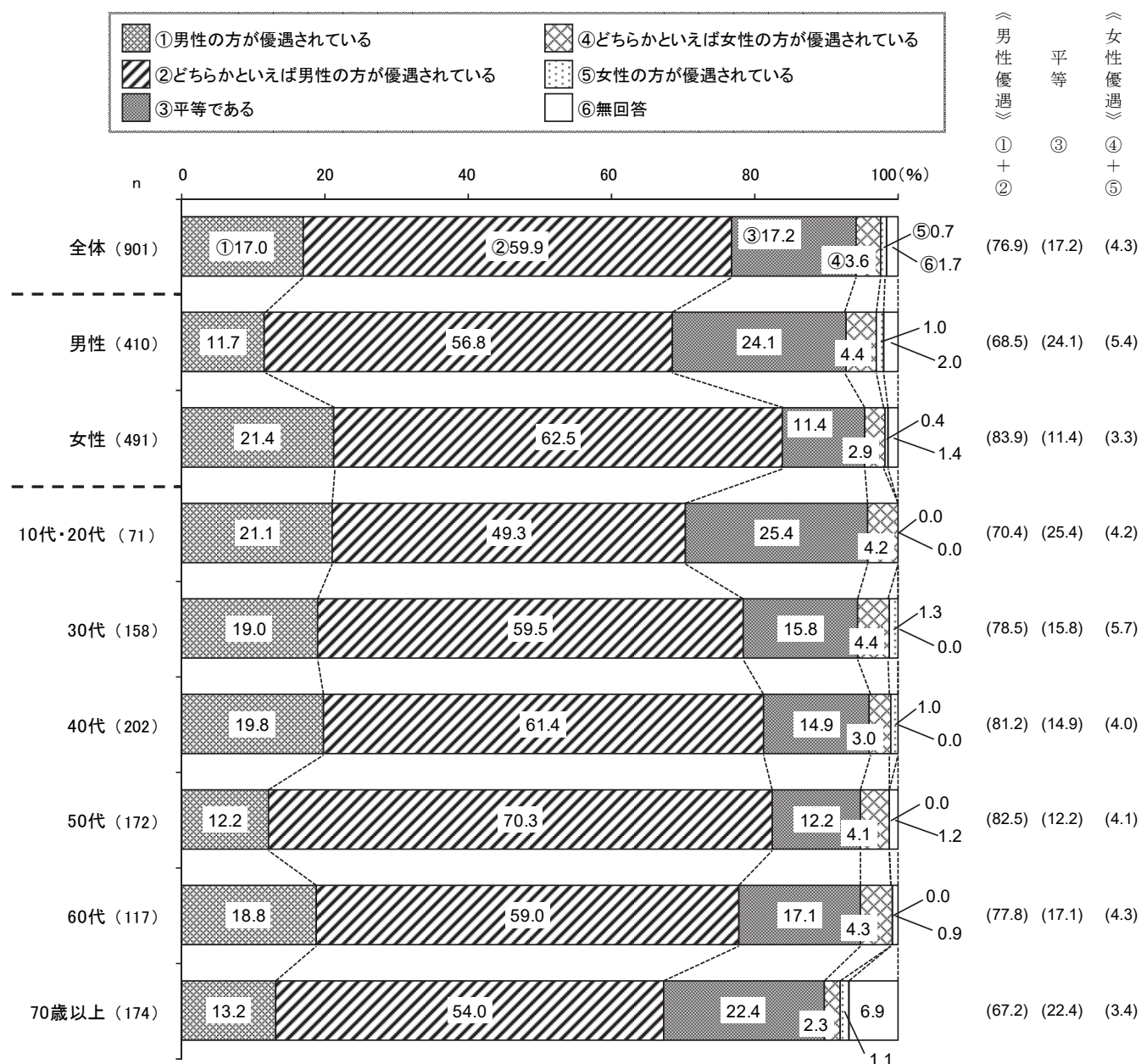
図3-1-8 さまざまな分野での男女平等意識について
(性別・年代別)
『キ 地域活動の場で』



『地域活動の場で』について、性別でみると、《男性優遇》は女性（49.7%）が5割弱と、男性（33.6%）を16.1ポイント上回っている。

年代別でみると、「平等である」は10代・20代（64.8%）が6割台半ば近くと高くなっており、全体（48.9%）を15.9ポイント上回っている。（図3-1-8）

図3-1-9 さまざまな分野での男女平等意識について
（性別・年代別）
『ク 社会全体として』

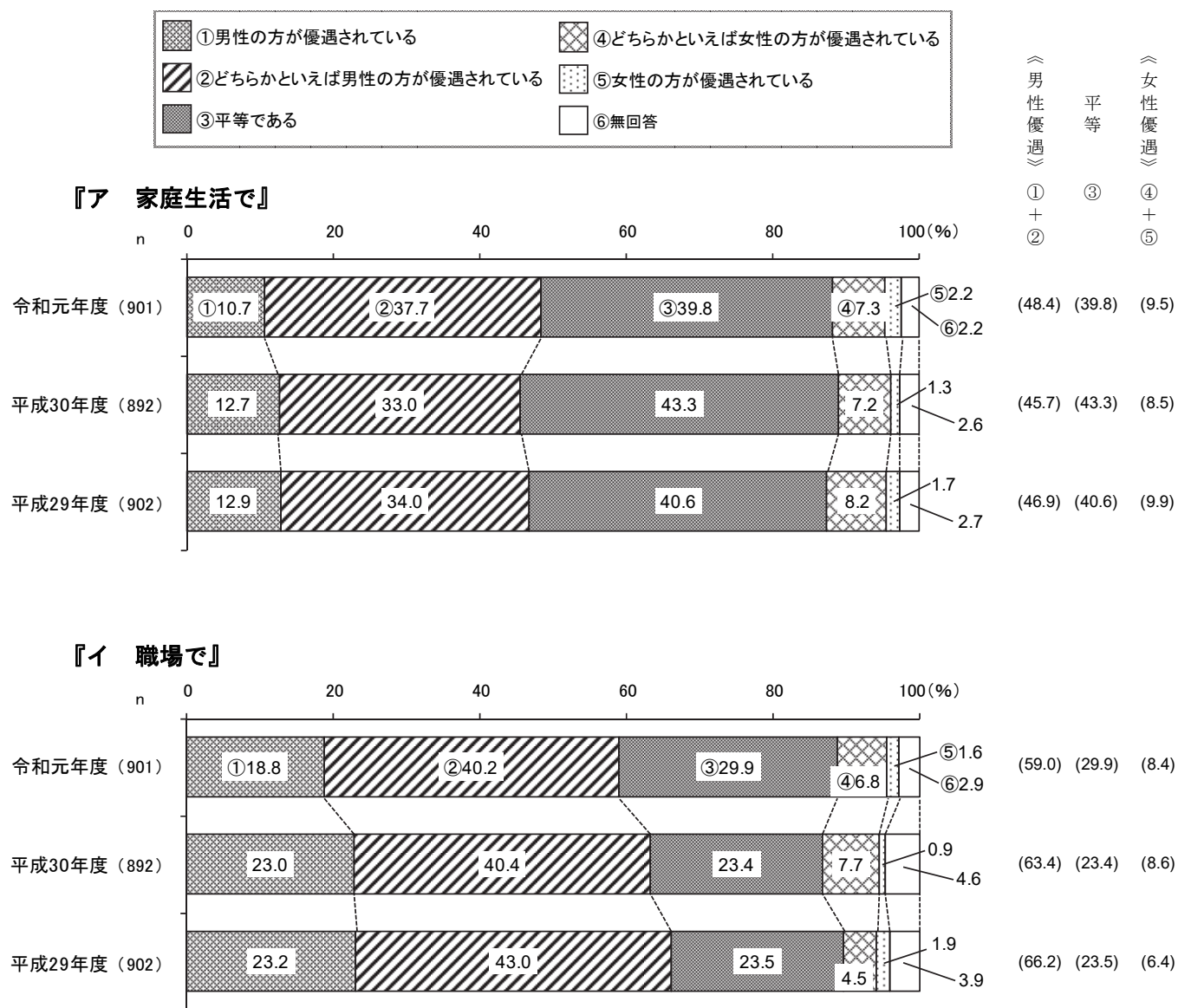


『社会全体として』について、性別でみると、《男性優遇》は女性（83.9%）が8割台半ば近くと、男性（68.5%）を15.4ポイント上回っている。

年代別でみると、《男性優遇》は70歳以上（67.2%）が7割未満と低くなっており、全体（76.9%）を9.7ポイント下回っている。（図3-1-9）

図3-1-10 さまざまな分野での男女平等意識について
(経年推移)

『ア 家庭生活上』・『イ 職場で』



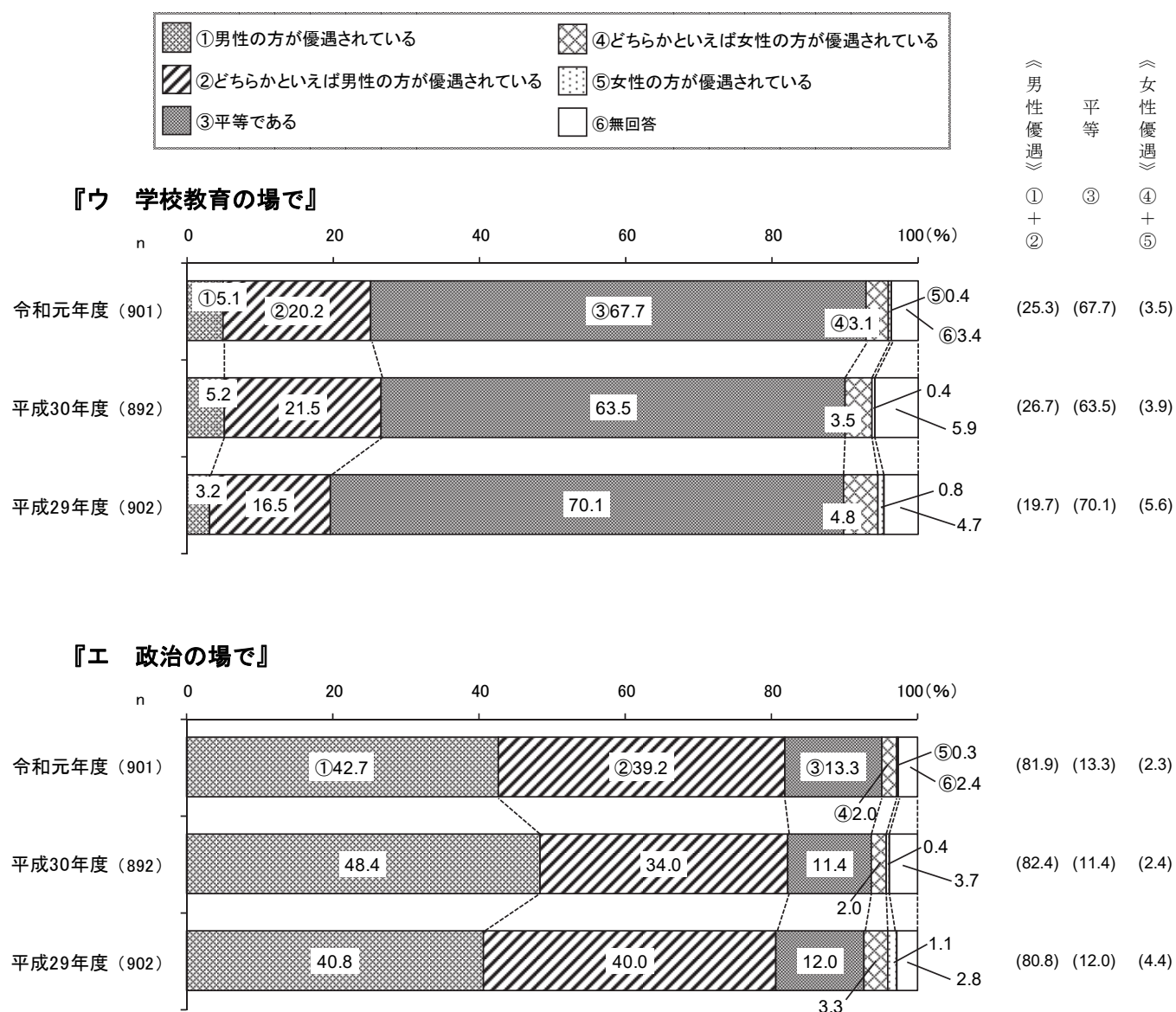
過去3年間の経年推移をみると、『家庭生活上』では割合に大きな変化はみられない。

『職場で』では《男性優遇》の割合が年々低くなっている。(図3-1-10)

Ⅱ 調査の結果（テーマ3 男女共同参画に関する意識について）

図3-1-11 さまざまな分野での男女平等意識について
（経年推移）

『ウ 学校教育の場で』・『エ 政治の場で』

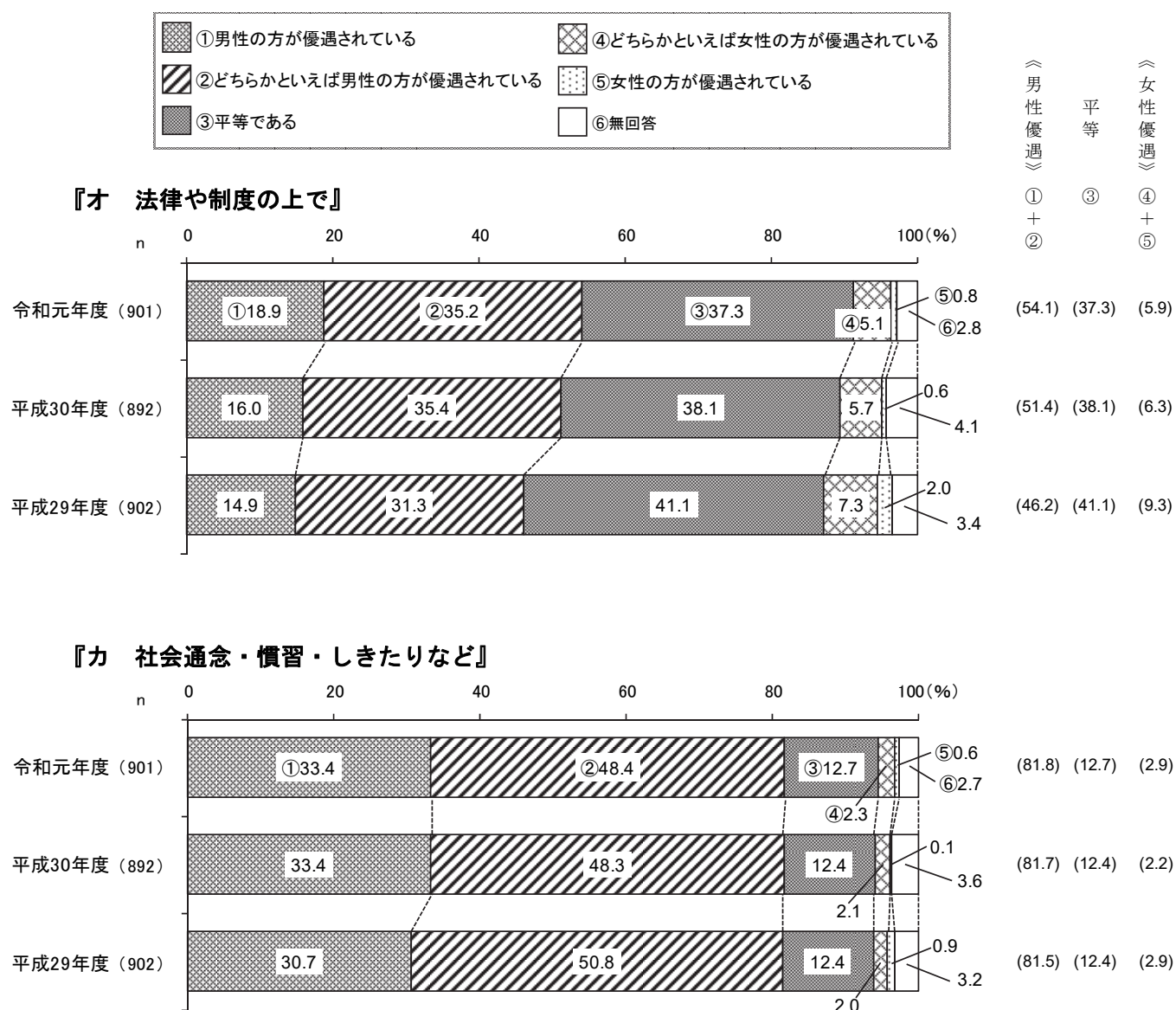


過去3年間の経年推移をみると、『学校教育の場で』では《男性優遇》について、平成29年度（19.7%）から平成30年度（26.7%）にかけて7.0ポイント高くなり、令和元年度（25.3%）は平成30年度と同程度になっている。

『政治の場で』では割合に大きな変化はみられない。（図3-1-11）

図3-1-12 さまざまな分野での男女平等意識について
(経年推移)

『オ 法律や制度の上で』・『カ 社会通念・慣習・しきたりなど』



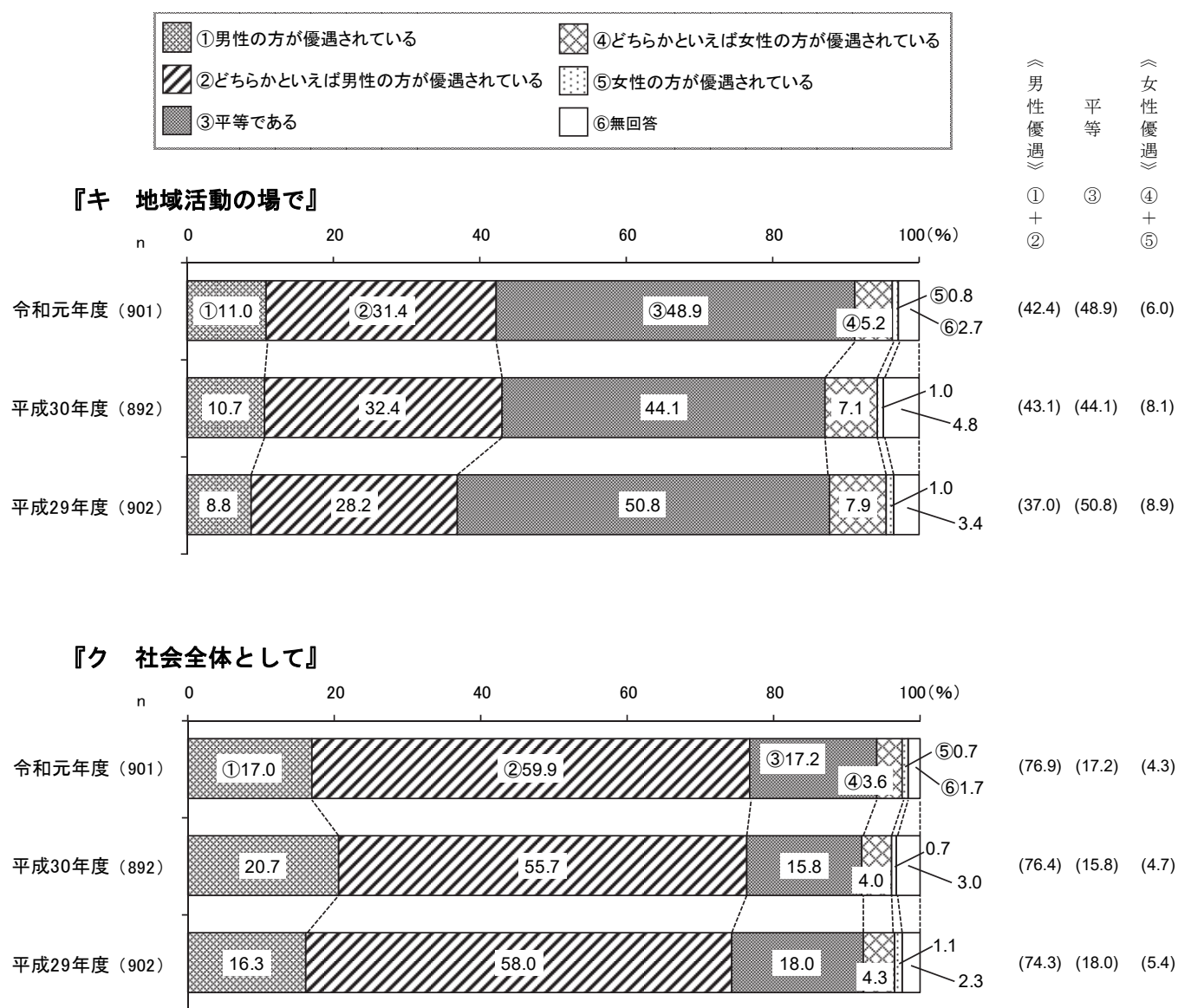
過去3年間の経年推移をみると、『法律や制度の上で』では《男性優遇》の割合が年々高くなっている。

『社会通念・慣習・しきたりなど』では割合に大きな変化はみられない。(図3-1-12)

Ⅱ 調査の結果（テーマ3 男女共同参画に関する意識について）

図3-1-13 さまざまな分野での男女平等意識について
（経年推移）

『キ 地域活動の場で』・『ク 社会全体として』



過去3年間の経年推移をみると、『地域活動の場で』では《男性優遇》について、平成29年度（37.0%）から平成30年度（43.1%）にかけて6.1ポイント高くなり、令和元年度（42.4%）は平成30年度と同程度になっている。

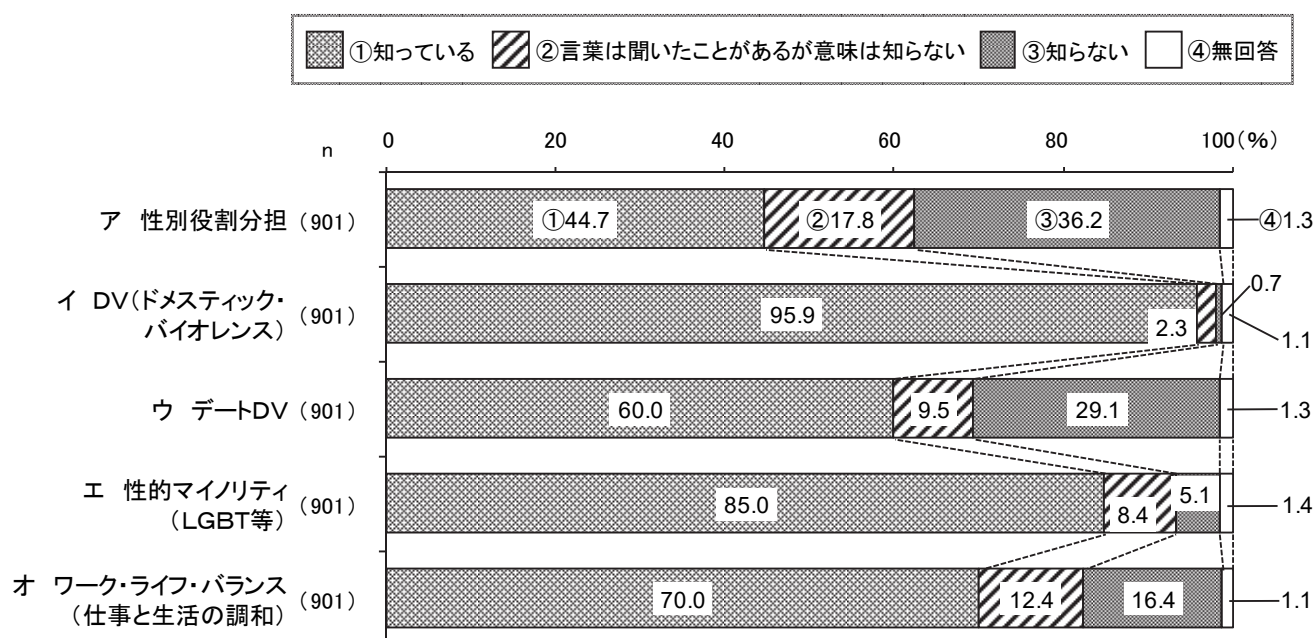
『社会全体として』では《男性優遇》の割合が年々高くなっている。（図3-1-13）

(2) 男女共同参画に関する言葉について

◎「知っている」と思う方が多いのは『DV（ドメスティック・バイオレンス）』で9割台半ば、『性的マイノリティ（LGBT等）』が8割台半ば

問13 男女共同参画に関する以下の言葉についてご存じですか。 (ア～オそれぞれで、1～3に1つだけ○をつけてください)				
(n=901)				
	知っている	言葉は聞いたことがあるが意味は知らない	知らない	無回答
ア 性別役割分担	44.7%	17.8%	36.2%	1.3%
イ DV（ドメスティック・バイオレンス）	95.9	2.3	0.7	1.1
ウ デートDV	60.0	9.5	29.1	1.3
エ 性的マイノリティ（LGBT等）	85.0	8.4	5.1	1.4
オ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	70.0	12.4	16.4	1.1

図3-2 男女共同参画に関する言葉について



男女共同参画に関する言葉について、「知っている」は『DV（ドメスティック・バイオレンス）』（95.9%）が9割台半ばで最も高く、次いで『性的マイノリティ（LGBT等）』（85.0%）が8割台半ばとなっている。一方、「知らない」は『性別役割分担』（36.2%）が3割台半ばを超えて高くなっている。（図3-2）

（３）仕事と生活のバランスの満足度

◎現在の仕事と生活のバランスに《満足》が6割弱

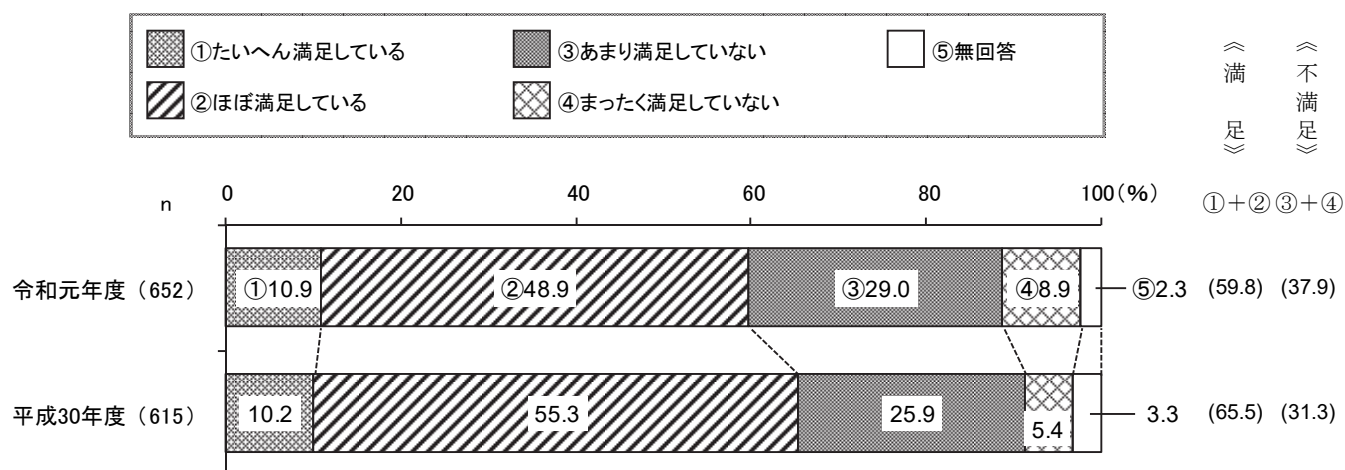
問14 働いているすべての方にお伺いします。

あなたは、現在の仕事と生活のバランスに満足していますか。（○は1つ）

(n=652)

1	たいへん満足している	10.9%
2	ほぼ満足している	48.9
3	あまり満足していない	29.0
4	まったく満足していない	8.9
	無回答	2.3

図3-3 仕事と生活のバランスの満足度
(経年推移)



仕事と生活のバランスの満足度について、《満足》（「たいへん満足している」＋「ほぼ満足している」）（59.8%）が6割弱、《不満足》（「あまり満足していない」＋「まったく満足していない」）（37.9%）が3割台半ばを超えている。

前回の調査結果（平成30年度区政モニターアンケート調査）と比較すると、《不満足》（37.9%）が前回（31.3%）より6.6ポイント高くなっている。（図3-3）

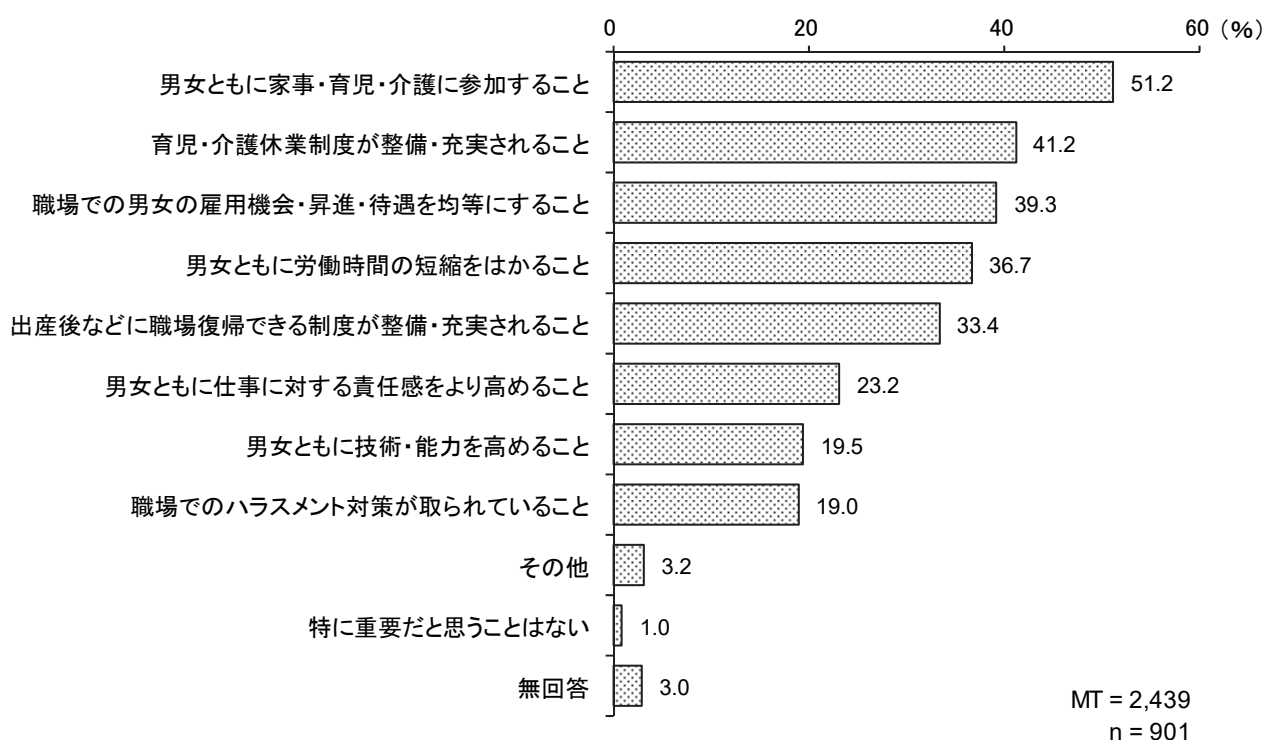
(4) 男女とも働きやすい環境づくりについて

◎「男女ともに家事・育児・介護に参加すること」が5割強

問15 男女とも働きやすい環境をつくるためには、どのようなことが重要だと思いますか。
(あてはまるものに3つまで○をつけてください)

	(n=901)
1 男女ともに労働時間の短縮をはかること	36.7%
2 男女ともに家事・育児・介護に参加すること	51.2
3 男女ともに仕事に対する責任感をより高めること	23.2
4 男女ともに技術・能力を高めること	19.5
5 職場での男女の雇用機会・昇進・待遇を均等にする	39.3
6 職場でのハラスメント対策が取られていること	19.0
7 出産後などに職場復帰できる制度が整備・充実されること	33.4
8 育児・介護休業制度が整備・充実されること	41.2
9 その他	3.2
10 特に重要だと思うことはない	1.0
無回答	3.0

図3-4 男女とも働きやすい環境づくりについて



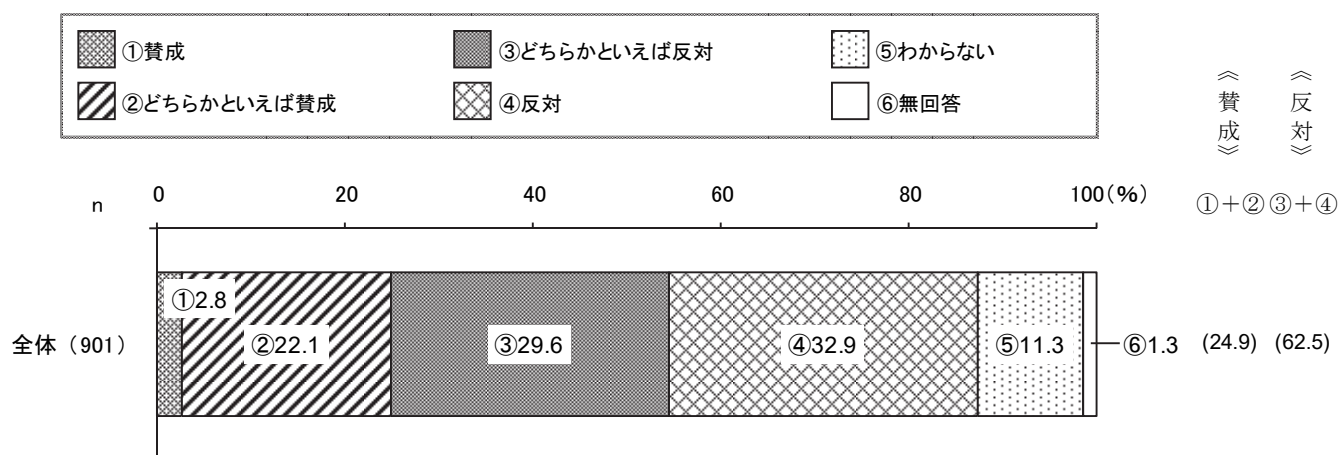
男女とも働きやすい環境づくりについて、「男女ともに家事・育児・介護に参加すること」(51.2%)が5割強で最も高く、次いで「育児・介護休業制度が整備・充実されること」(41.2%)が4割強、「職場での男女の雇用機会・昇進・待遇を均等にする」(39.3%)が4割弱と続いている。
(図3-4)

（５）「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について

◎《反対》が６割強

問１６ 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という固定的な性別役割分担の考え方について、あなたの考えに近いものは、次のうちどれですか。（○は１つ）		
		(n=901)
1 賛成		2.8%
2 どちらかといえば賛成		22.1
3 どちらかといえば反対		29.6
4 反対		32.9
5 わからない		11.3
無回答		1.3

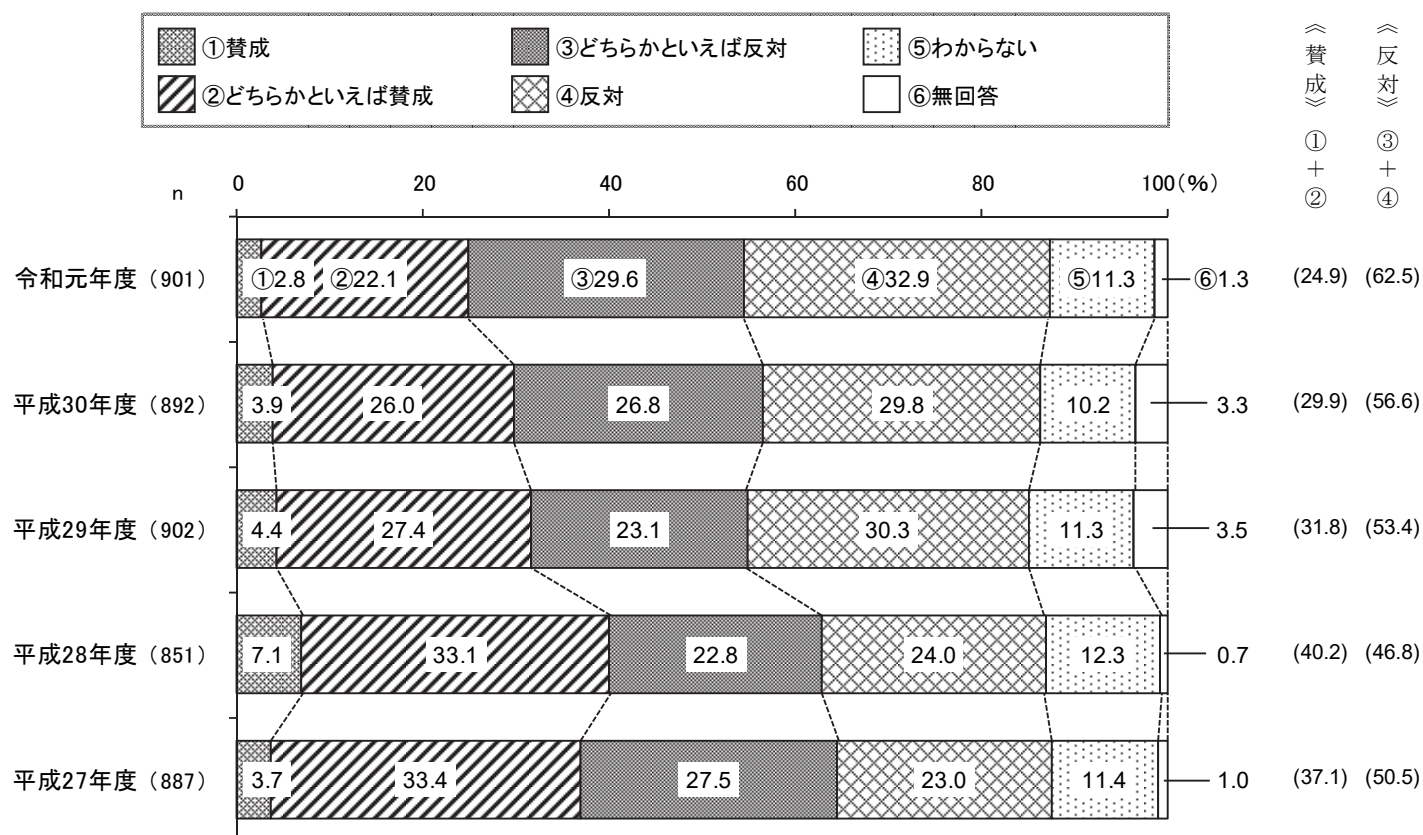
図３－５－１ 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について



「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、「反対」（32.9％）が３割強で最も高く、次いで「どちらかといえば反対」（29.6％）が３割弱となっている。

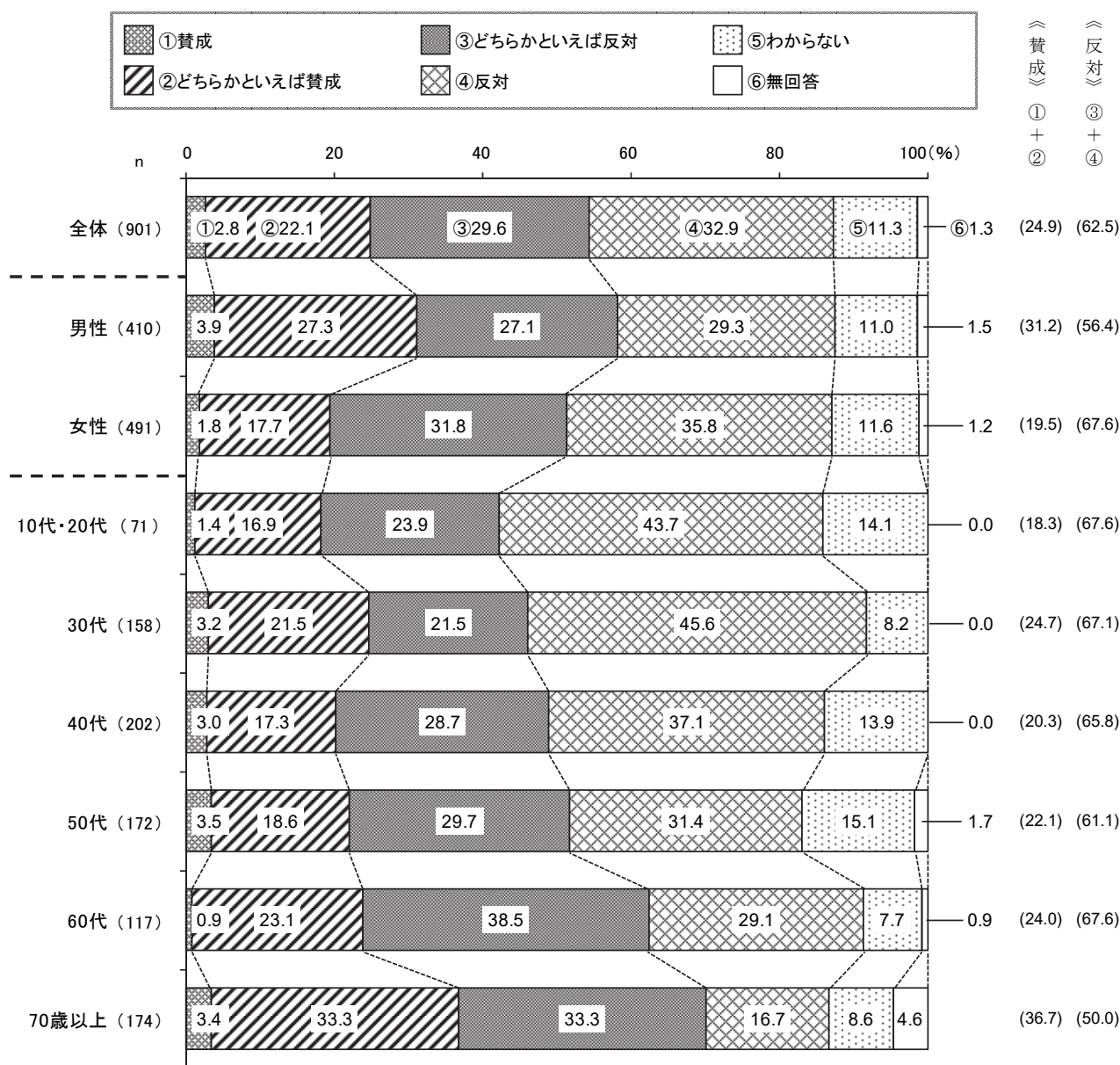
「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に、《賛成》（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」）（24.9％）が２割台半ば近く、《反対》（「反対」＋「どちらかといえば反対」）（62.5％）が６割強となっている。（図３－５－１）

図3-5-2 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について
(経年推移)



過去5年間の経年推移をみると、《反対》では、平成27年度(50.5%)から令和元年度(62.5%)へ平成28年度(46.8%)を除き年々増加している。特に、平成30年度(56.6%)から令和元年度にかけて5.9ポイント高くなっている。(図3-5-2)

図3-5-3 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について
（性別・年代別）



性別でみると、《反対》は、女性（67.6%）が6割台半ばを超えて、男性（56.4%）を11.2ポイント上回っている。

年代別でみると、《賛成》は70歳以上（36.7%）が3割台半ばを超えて高くなっており、全体（24.9%）を11.8ポイント上回っている。（図3-5-3）

(6) DVだと思う行為について

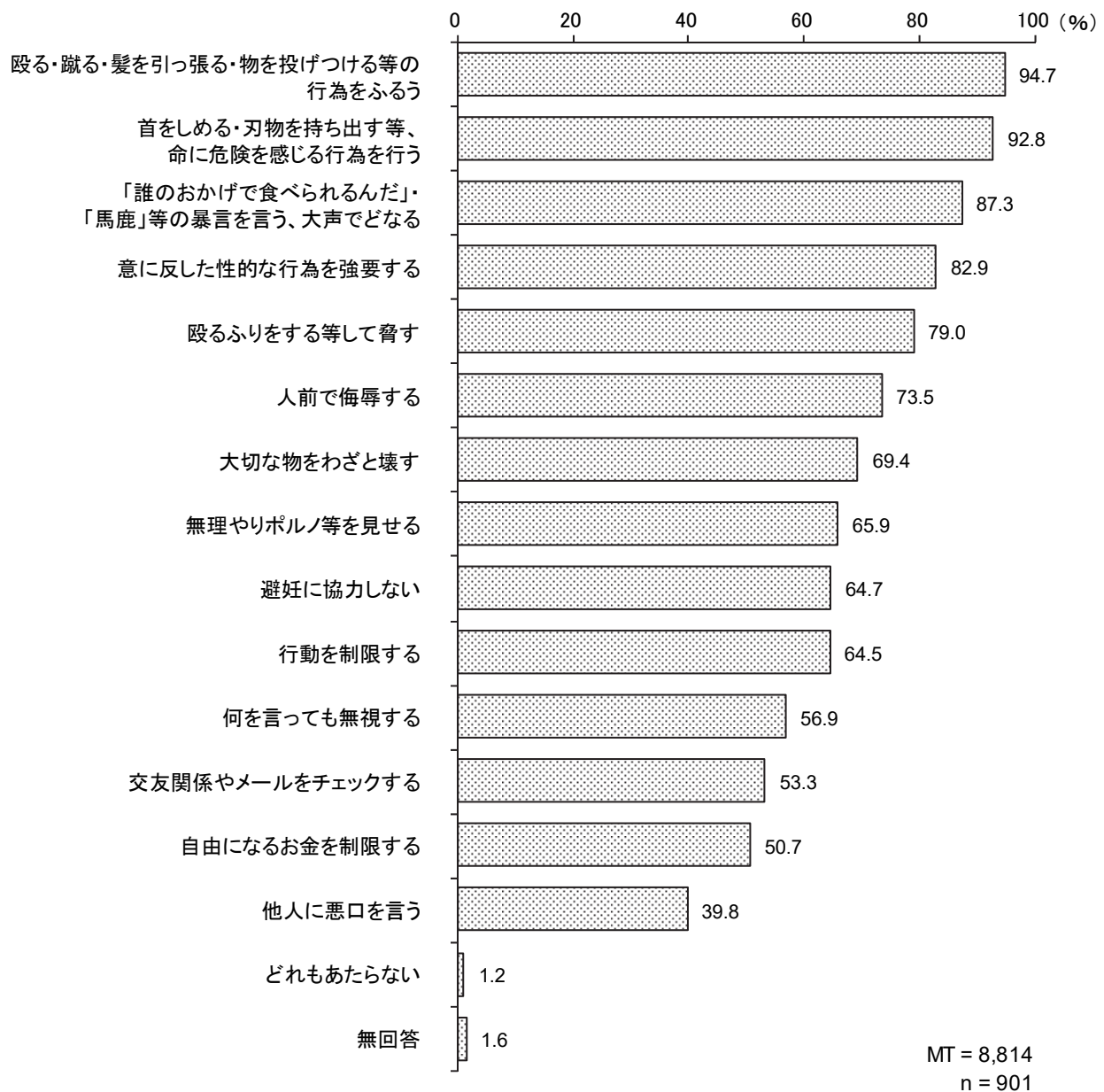
◎「殴る・蹴る・髪を引っ張る・物を投げつける等の行為をふるう」が9割台半ば近く

問17 ドメスティック・バイオレンス（配偶者等からの暴力。以下、「DV」という）について、DVだと思う行為は次のうちどれですか。

(あてはまるものにいくつでも○をつけてください)

	(n=901)
1 何を言っても無視する	56.9%
2 行動を制限する	64.5
3 交友関係やメールをチェックする	53.3
4 「誰のおかげで食べられるんだ」・「馬鹿」等の暴言を言う、大声でどなる	87.3
5 人前で侮辱する	73.5
6 他人に悪口を言う	39.8
7 大切な物をわざと壊す	69.4
8 殴るふりをする等して脅す	79.0
9 殴る・蹴る・髪を引っ張る・物を投げつける等の行為をふるう	94.7
10 首をしめる・刃物を持ち出す等、命に危険を感じる行為を行う	92.8
11 自由になるお金を制限する	50.7
12 意に反した性的な行為を強要する	82.9
13 無理やりポルノ等を見せる	65.9
14 避妊に協力しない	64.7
15 どれもあたらない	1.2
無回答	1.6

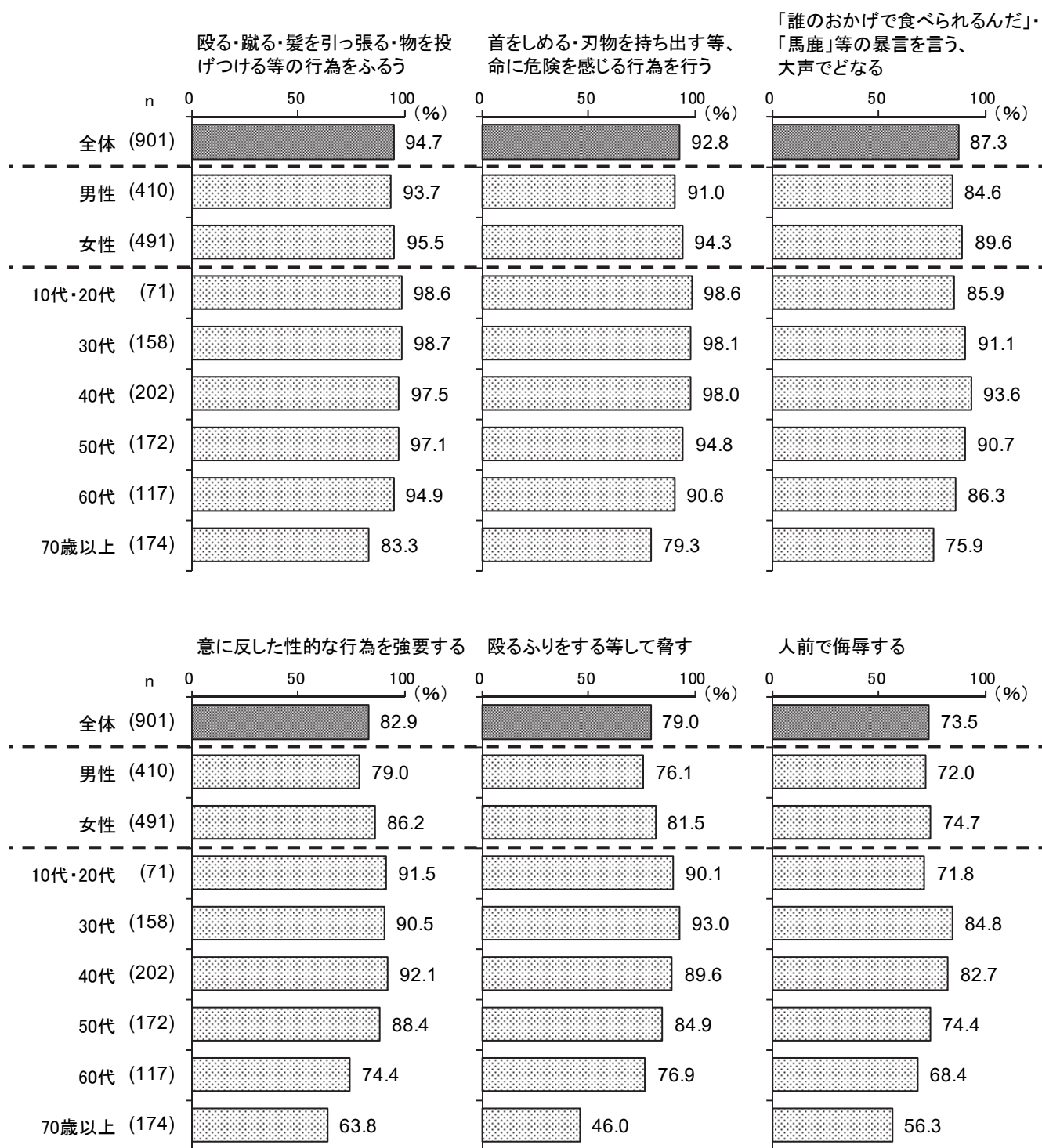
図3-6-1 DVだと思う行為について



ドメスティック・バイオレンスにあたる行為としては、「殴る・蹴る・髪を引っ張る・物を投げつける等の行為をふるう」（94.7%）が9割台半ば近くで最も高く、次いで「首をしめる・刃物を持ち出す等、命に危険を感じる行為を行う」（92.8%）が9割強、「誰のおかげで食べられるんだ」・「馬鹿」等の暴言を言う、大声でどなる」（87.3%）が8割台半ばを超え、「意に反した性的な行為を強要する」（82.9%）が8割強と続いている。

全体で最も低い「他人に悪口を言う」（39.8%）は4割弱となっている。（図3-6-1）

図3-6-2 DVだと思う行為について
(性別・年代別)
上位6項目



上位6項目について、性別でみると、女性が男性に比べ割合が高く、特に「意に反した性的な行為を強要する」は女性（86.2%）が8割台半ばを超えて、男性（79.0%）を7.2ポイント上回っている。

年代別でみると、すべての項目で70歳以上が最も低い割合となっている。特に「殴るふりをする等して脅す」は70歳以上（46.0%）が5割未満と低くなっている。（図3-6-2）

Ⅱ 調査の結果（テーマ3 男女共同参画に関する意識について）

（7）DVについての相談機関の窓口について

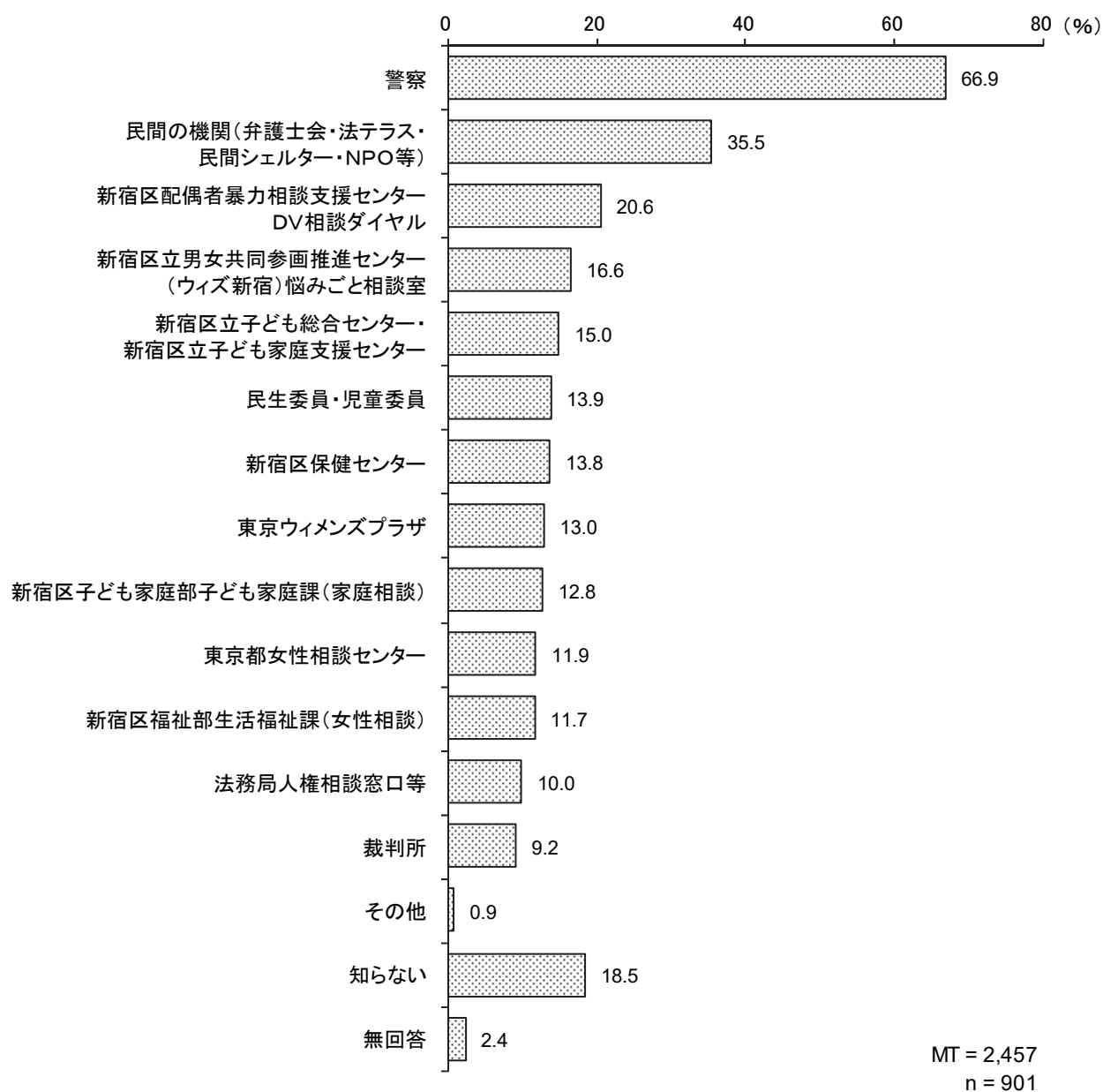
◎「警察」が6割台半ばを超え

問18 DVについての相談機関の窓口をご存じですか。

（あてはまるものにいくつでも○をつけてください）

	(n=901)
1 新宿区配偶者暴力相談支援センター DV相談ダイヤル	20.6%
2 新宿区立男女共同参画推進センター（ウィズ新宿）悩みごと相談室	16.6
3 新宿区福祉部生活福祉課（女性相談）	11.7
4 新宿区子ども家庭部子ども家庭課（家庭相談）	12.8
5 新宿区立子ども総合センター・新宿区立子ども家庭支援センター	15.0
6 新宿区保健センター	13.8
7 東京都女性相談センター	11.9
8 東京ウィメンズプラザ	13.0
9 警察	66.9
10 法務局人権相談窓口等	10.0
11 裁判所	9.2
12 民間の機関（弁護士会・法テラス・民間シェルター・NPO等）	35.5
13 民生委員・児童委員	13.9
14 その他	0.9
15 知らない	18.5
無回答	2.4

図3-7-1 DVについての相談機関の窓口について



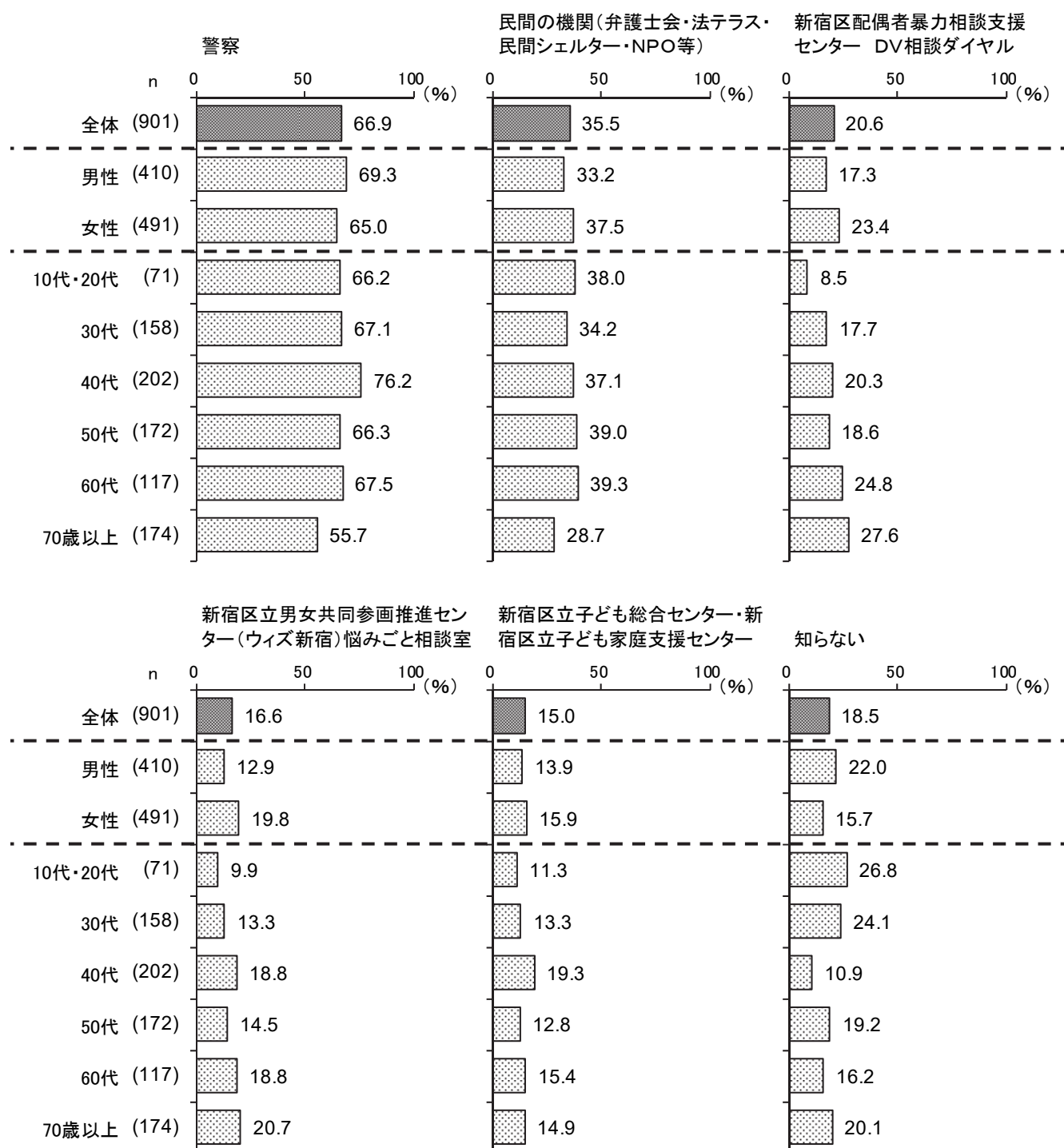
DVについての相談機関の窓口について、「警察」(66.9%)が6割台半ばを超えて最も高くなっている。次いで「民間の機関(弁護士会・法テラス・民間シェルター・NPO等)」(35.5%)が3割台半ば、「新宿区配偶者暴力相談支援センター DV相談ダイヤル」(20.6%)が約2割となっている。

一方、「知らない」(18.5%)が2割近くとなっている。(図3-7-1)

図3-7-2 DVについての相談機関の窓口について

（性別・年代別）

上位5項目＋「知らない」



上位5項目と「知らない」について、性別でみると、「新宿区立男女共同参画推進センター（ウイズ新宿）悩みごと相談室」は女性（19.8%）が2割弱と、男性（12.9%）を6.9ポイント上回っている。

年代別でみると、「警察」は40代（76.2%）が7割台半ばを超えて高くなっており、全体（66.9%）を9.3ポイント上回っている。（図3-7-2）

(8) 男女共同参画を推進するために必要なことについて

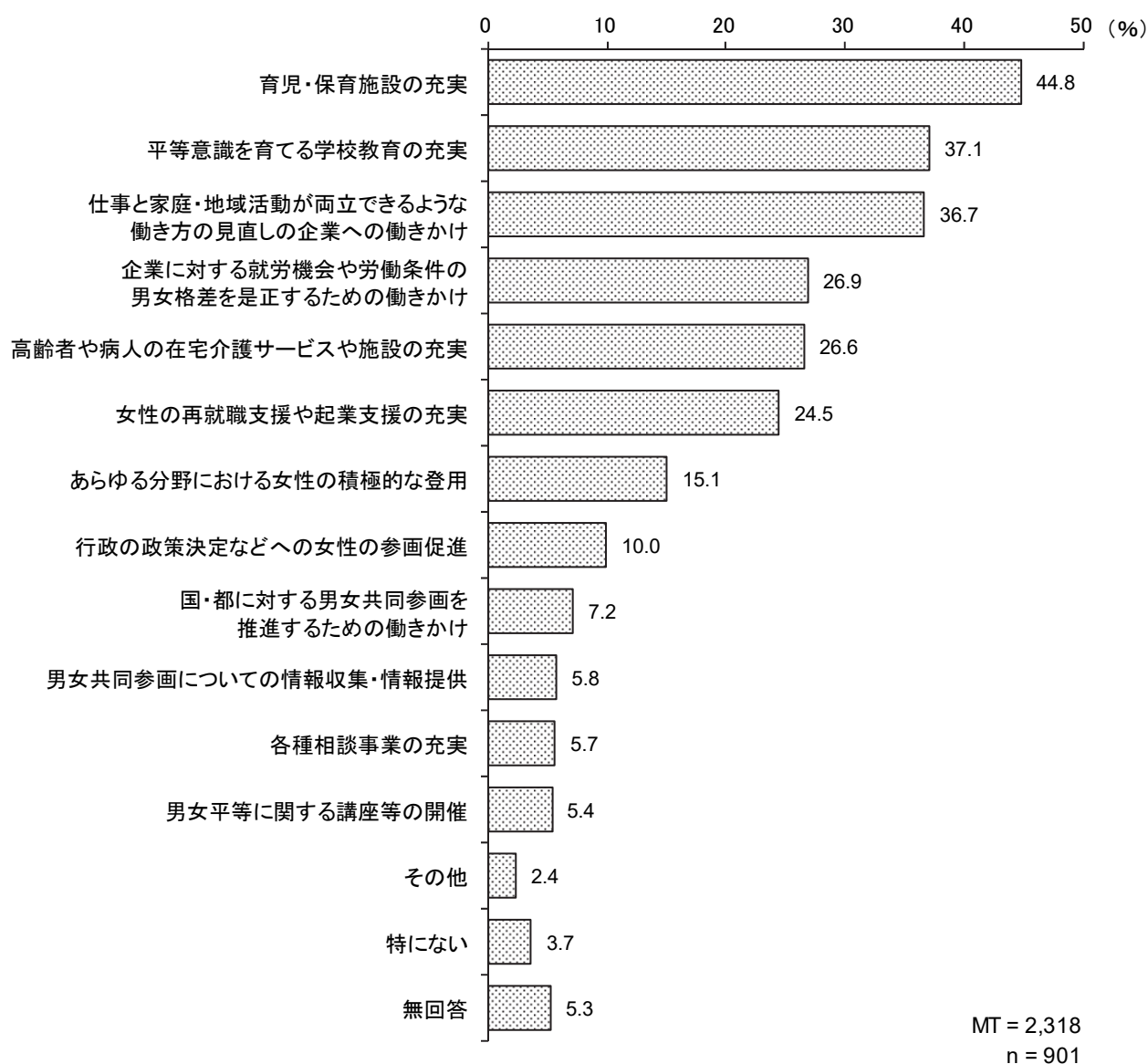
◎「育児・保育施設の充実」が4割台半ば近く

問19 今後、男女共同参画を進めるために、区にどのようなことを期待しますか。

(あてはまるものに3つまで○をつけてください)

	(n=901)
1 平等意識を育てる学校教育の充実	37.1%
2 男女平等に関する講座等の開催	5.4
3 女性の再就職支援や起業支援の充実	24.5
4 企業に対する就労機会や労働条件の男女格差を是正するための働きかけ	26.9
5 仕事と家庭・地域活動が両立できるような働き方の見直しの企業への働きかけ	36.7
6 育児・保育施設の充実	44.8
7 あらゆる分野における女性の積極的な登用	15.1
8 行政の政策決定などへの女性の参画促進	10.0
9 高齢者や病人の在宅介護サービスや施設の充実	26.6
10 各種相談事業の充実	5.7
11 男女共同参画についての情報収集・情報提供	5.8
12 国・都に対する男女共同参画を推進するための働きかけ	7.2
13 その他	2.4
14 特になし	3.7
無回答	5.3

図3-8 男女共同参画を推進するために必要なことについて



男女共同参画を推進するために必要なことについて、「育児・保育施設の充実」（44.8%）が4割台半ば近くで最も高く、次いで「平等意識を育てる学校教育の充実」（37.1%）及び「仕事と家庭・地域活動が両立できるような働き方の見直しの企業への働きかけ」（36.7%）がともに3割台半ばを超え、続いている。（図3-8）

テーマ4 ごみの減量とリサイクルについて

(1) 実際に行っている3R活動

◎「ごみを正しく分別し、資源となるものは資源回収に出す」が8割台半ばを超える

問20 以下の活動（「3R活動」）の中であなたが実際に行っているものはありますか。

（あてはまるものにいくつでも○をつけてください）

(n=901)

【リデュース】

- | | |
|---------------------------|-------|
| 1 必要な分だけ購入する、長く使えるものを購入する | 65.3% |
| 2 買い物際には、過剰包装やレジ袋を断る | 57.4 |
| 3 食品ロスを出さないような取組を行っている | 46.7 |
| 4 使い捨てになるものは、なるべく購入しない | 24.2 |

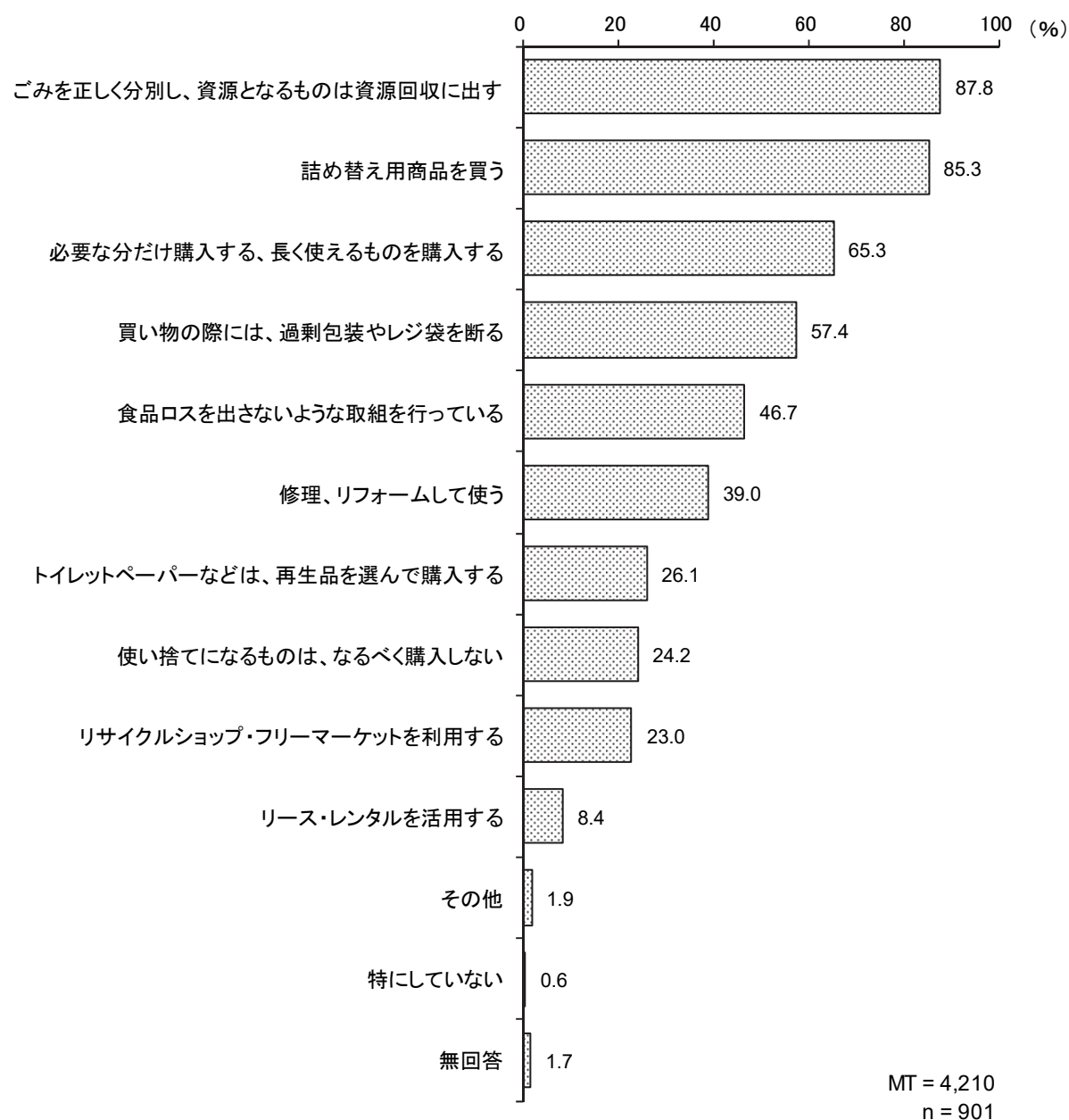
【リユース】

- | | |
|---------------------------|------|
| 5 詰め替え用商品を買う | 85.3 |
| 6 リサイクルショップ・フリーマーケットを利用する | 23.0 |
| 7 リース・レンタルを活用する | 8.4 |
| 8 修理、リフォームして使う | 39.0 |

【リサイクル】

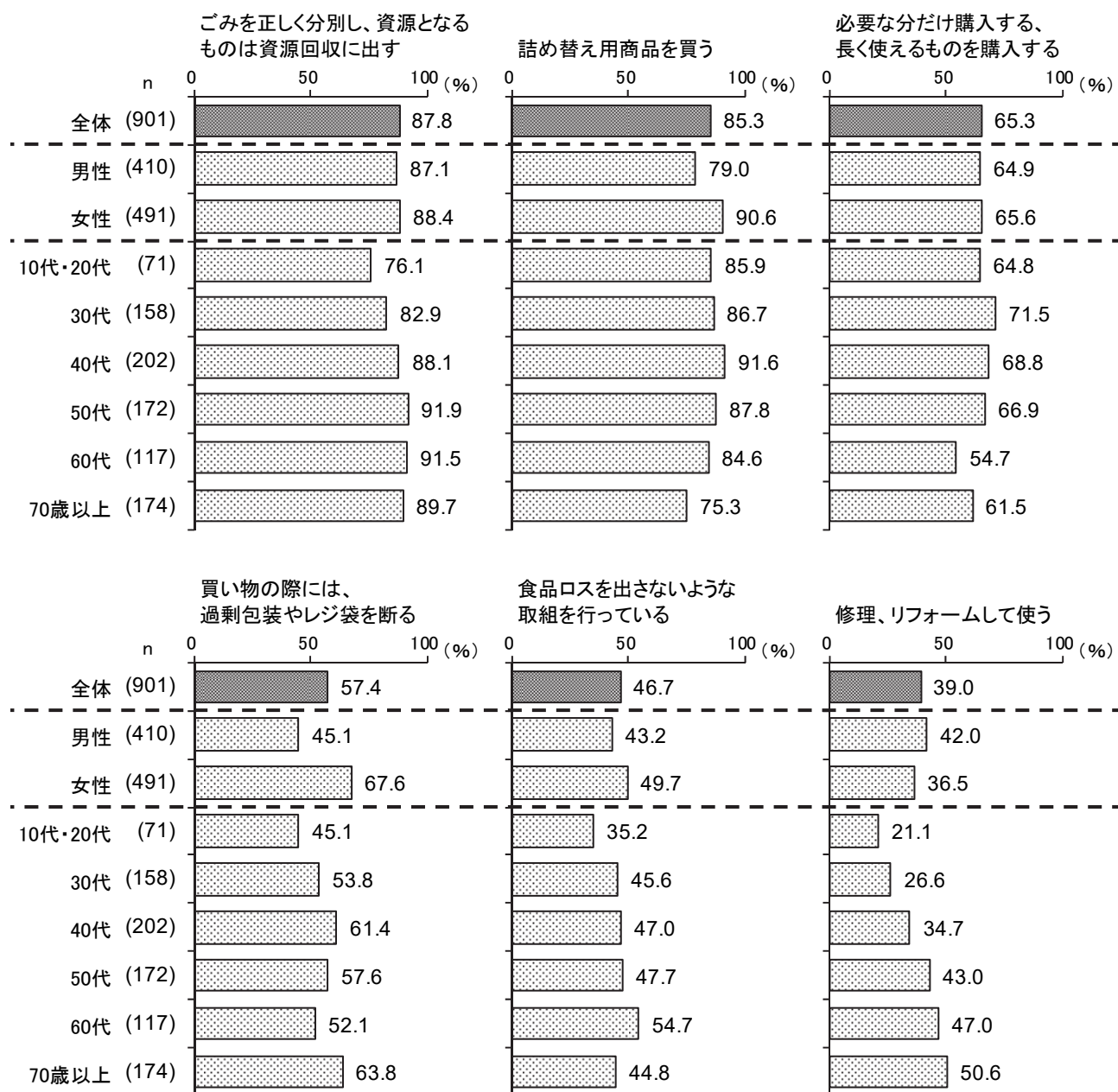
- | | |
|-----------------------------|------|
| 9 ごみを正しく分別し、資源となるものは資源回収に出す | 87.8 |
| 10 トイレットペーパーなどは、再生品を選んで購入する | 26.1 |
| 11 その他 | 1.9 |
| 12 特にしていない | 0.6 |
| 無回答 | 1.7 |

図４－１－１ 実際に行っている３Ｒ活動



実際に行っている３Ｒ活動について、「ごみを正しく分別し、資源となるものは資源回収に出す」（87.8%）が８割台半ばを超えて最も高く、次いで「詰め替え用商品を買う」（85.3%）が８割台半ば、「必要な分だけ購入する、長く使えるものを購入する」（65.3%）が６割台半ば、「買い物の際には、過剰包装やレジ袋を断る」（57.4%）が５割台半ばを超え、続いている。（図４－１－１）

図4-1-2 実際にやっている3R活動
(性別・年代別) 上位6項目



上位6項目について、性別でみると、「買い物の際には、過剰包装やレジ袋を断る」は女性(67.6%)が6割台半ばを超えて、男性(45.1%)を22.5ポイント上回っている。また、「詰め替え用商品を買う」は女性(90.6%)が約9割と、男性(79.0%)を11.6ポイント上回っている。

年代別でみると、「修理、リフォームして使う」は年代が高いほどその割合が高くなり、70歳以上(50.6%)が約5割と、全体(39.0%)を11.6ポイント上回っている。(図4-1-2)

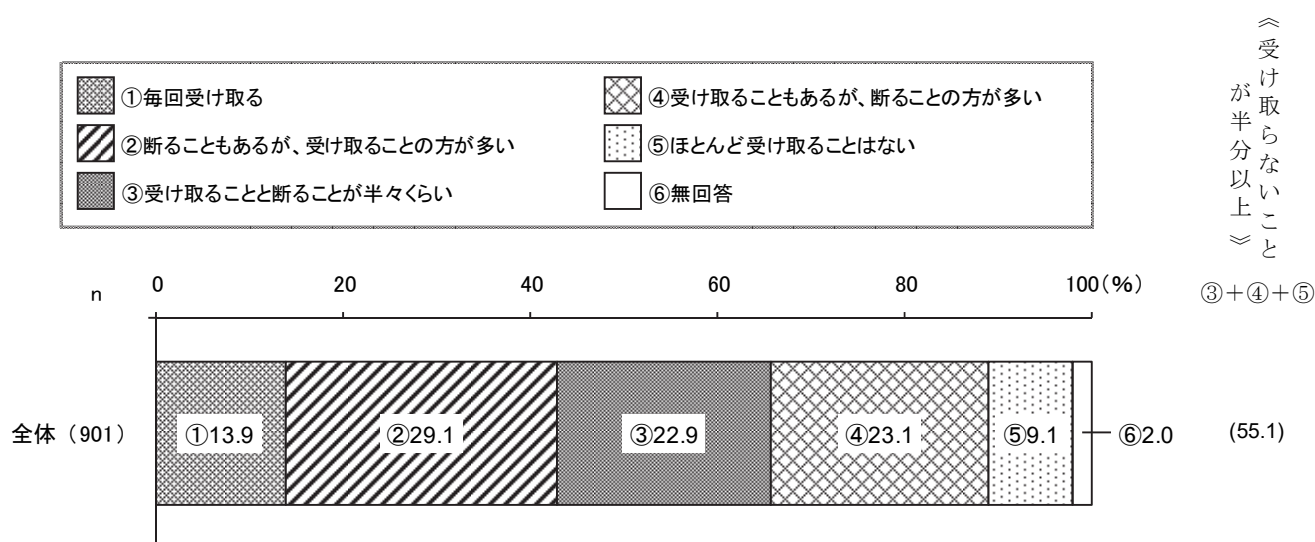
（２）レジ袋の受け取りの有無

◎《受け取らないことが半分以上》が５割台半ば

問２１ あなたは買い物の際に、レジ袋を受け取りますか。（○は１つ）

	(n=901)
１ 毎回受け取る	13.9%
２ 断ることもあるが、受け取ることの方が多い	29.1
３ 受け取ることと断ることが半々くらい	22.9
４ 受け取ることもあるが、断ることの方が多い	23.1
５ ほとんど受け取ることはない	9.1
無回答	2.0

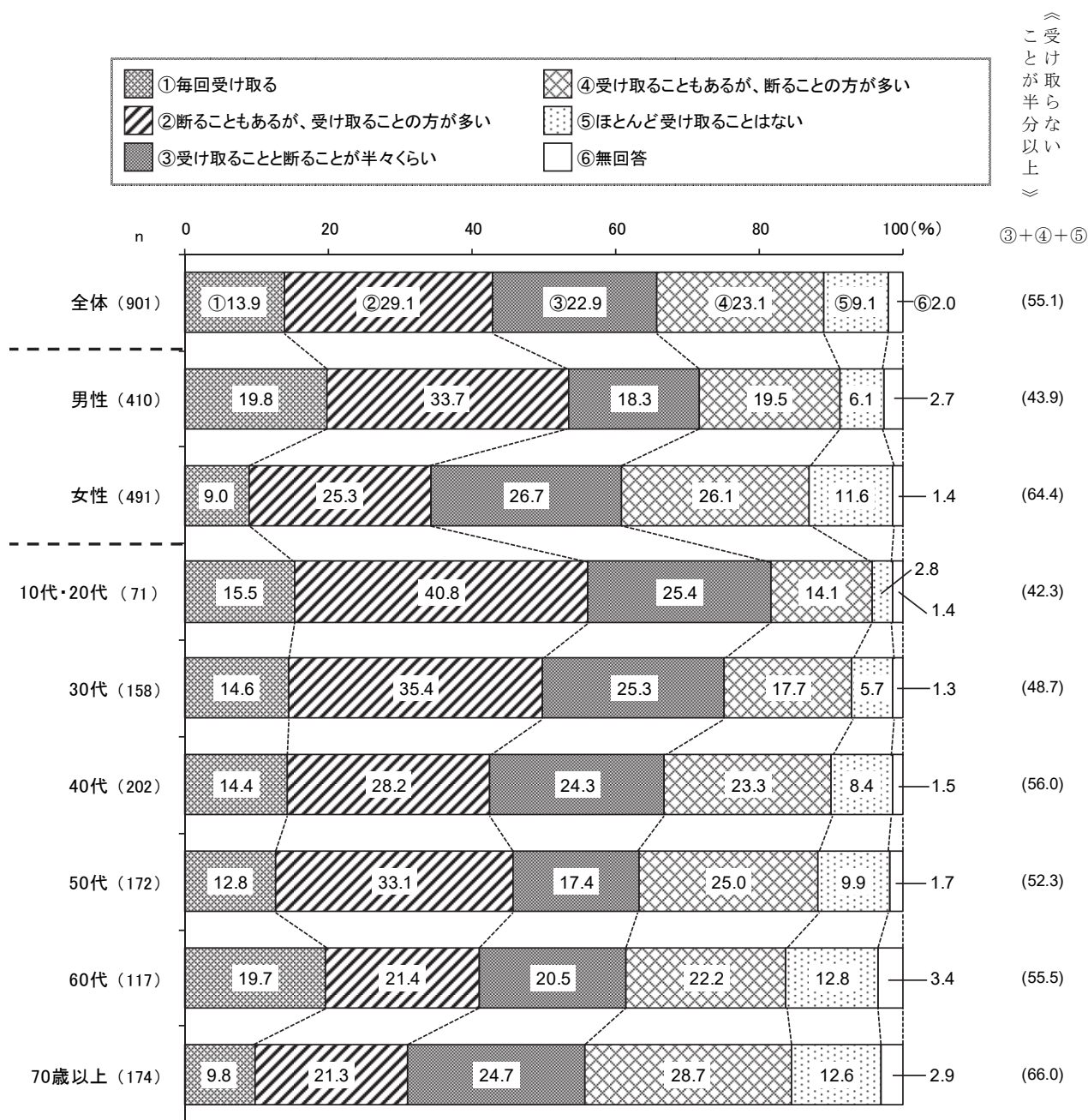
図４－２－１ レジ袋の受け取りの有無



レジ袋の受け取りの有無について、「断ることもあるが、受け取ることの方が多い」（29.1%）が３割弱、「受け取ることと断ることが半々くらい」（22.9%）が２割強となっている。

《受け取らないことが半分以上》（「受け取ることと断ることが半々くらい」＋「受け取ることもあるが、断ることの方が多い」＋「ほとんど受け取ることはない」）（55.1%）が５割台半ばとなっている。（図４－２－１）

図4-2-2 レジ袋の受け取りの有無
(性別・年代別)



性別でみると、《受け取らないことが半分以上》は女性（64.4%）が6割台半ば近くと、男性（43.9%）を20.5ポイント上回っている。一方、「毎回受け取る」は男性（19.8%）が2割弱と、女性（9.0%）を10.8ポイント上回っている。

年代別でみると、《受け取らないことが半分以上》は70歳以上（66.0%）が6割台半ばを超えて、全体（55.1%）を10.9ポイント上回っている。（図4-2-2）

（３）食品ロスを減らすために、行っていること

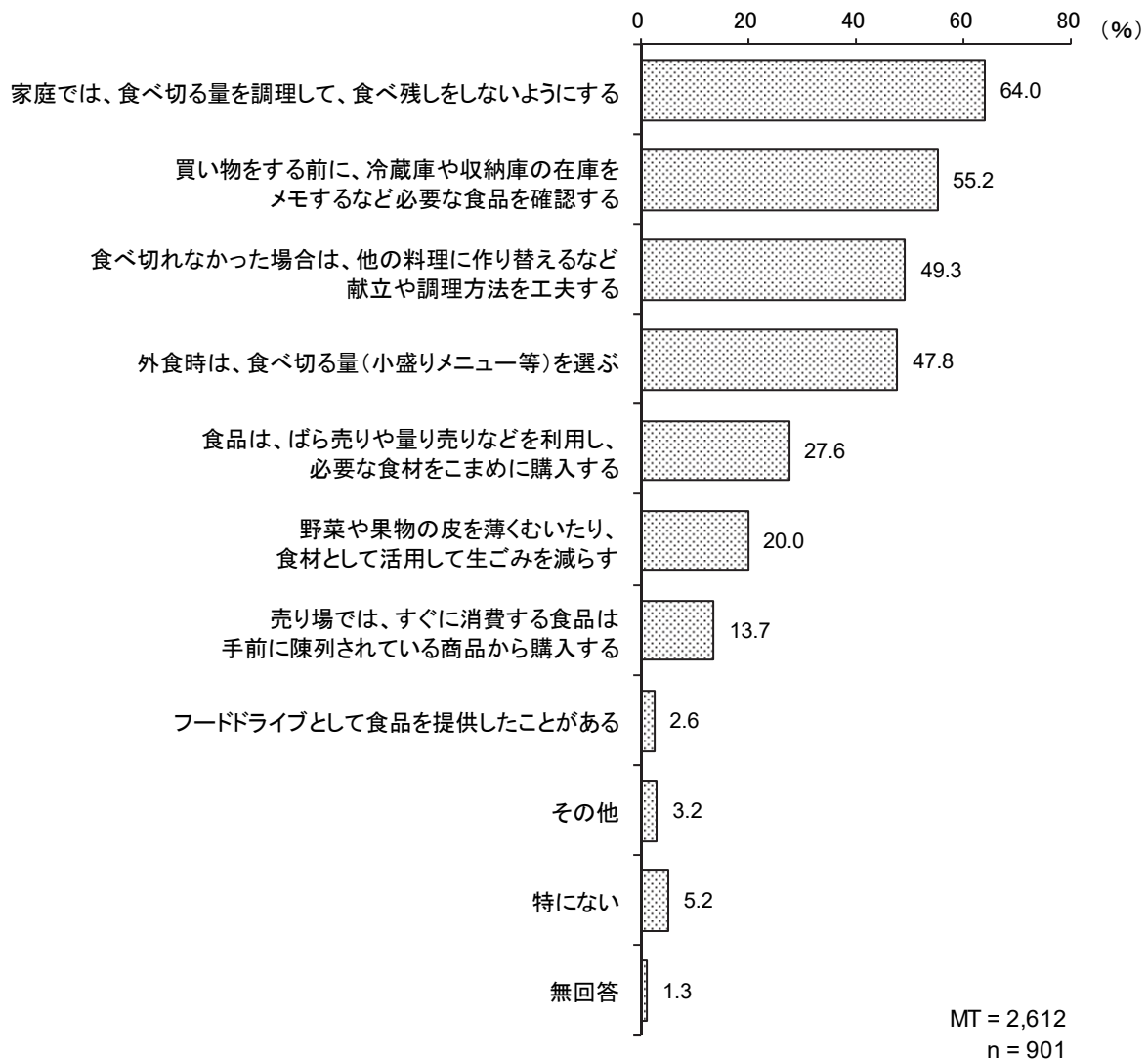
◎「家庭では、食べ切る量を調理して、食べ残しをしないようにする」が６割台半ば近く

問２２ 食品ロスを減らすために、行っていることはありますか。

（あてはまるものにいくつでも○をつけてください）

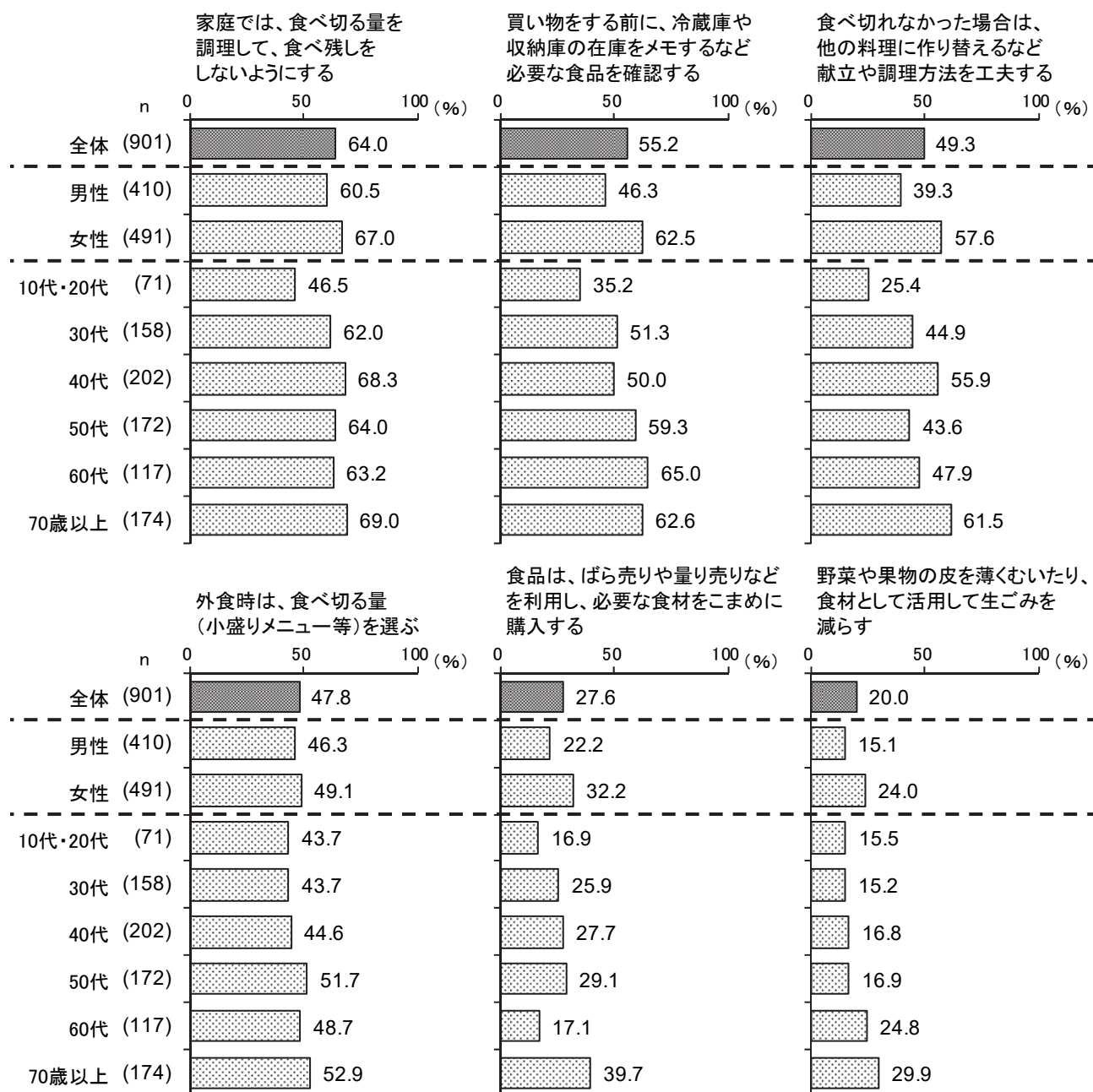
	(n=901)
1 買い物をする前に、冷蔵庫や収納庫の在庫をメモするなど必要な食品を確認する	55.2%
2 売り場では、すぐに消費する食品は手前に陳列されている商品から購入する	13.7
3 食品は、ばら売りや量り売りなどを利用し、必要な食材をこまめに購入する	27.6
4 家庭では、食べ切る量を調理して、食べ残しをしないようにする	64.0
5 野菜や果物の皮を薄くむいたり、食材として活用して生ごみを減らす	20.0
6 食べ切れなかった場合は、他の料理に作り替えるなど献立や調理方法を工夫する	49.3
7 外食時は、食べ切る量（小盛りメニュー等）を選ぶ	47.8
8 フードドライブとして食品を提供したことがある	2.6
9 その他	3.2
10 特になし	5.2
無回答	1.3

図4-3-1 食品ロスを減らすために、行っていること



食品ロスを減らすために、行っていることについて、「家庭では、食べ切る量を調理して、食べ残しをしないようにする」(64.0%)が6割台半ば近くで最も高く、次いで「買い物をする前に、冷蔵庫や収納庫の在庫をメモするなど必要な食品を確認する」(55.2%)が5割台半ば、「食べ切れなかった場合は、他の料理に作り替えるなど献立や調理方法を工夫する」(49.3%)が5割弱、「外食時は、食べ切る量(小盛りメニュー等)を選ぶ」(47.8%)が4割台半ばを超え、続いている。(図4-3-1)

図4-3-2 食品ロスを減らすために、行っていること
（性別・年代別）上位6項目



性別でみると、「食べ切れなかった場合は、他の料理に作り替えるなど献立や調理方法を工夫する」は女性（57.6%）が5割台半ばを超えて、男性（39.3%）を18.3ポイント、「買い物をする前に、冷蔵庫や収納庫の在庫をメモするなど必要な食品を確認する」は女性（62.5%）が6割強と、男性（46.3%）を16.2ポイント上回っている。

年代別でみると、「食べ切れなかった場合は、他の料理に作り替えるなど献立や調理方法を工夫する」は70歳以上（61.5%）が6割強と、全体（49.3%）を12.2ポイント上回っている。

（図4-3-2）

(4) ごみ・資源の出し方

◎『雑誌・段ボール』で「資源（週1回）」が7割台半ばを超える

問23 新宿区では、古紙（新聞・雑誌・段ボール等）、容器包装プラスチック、びん、缶、ペットボトル、スプレー缶・カセットボンベ、乾電池を「資源・ごみ集積所」で回収しています。また、地域や集合住宅における集団回収のほか、販売店等でも一部の品目を回収しています。あなたは下記の品目をどのように出していますか。

（ア～ケそれぞれで、あてはまるものにいくつでも○をつけてください）

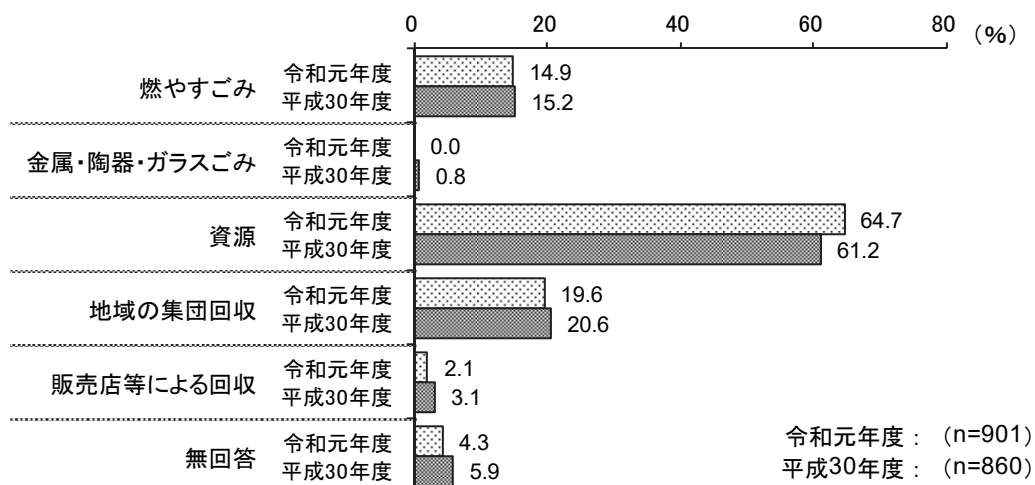
(n=901)

	燃やすごみ (週2回)	金属・陶器・ガラスごみ (月2回)	資源 (週1回)	地域の集団回収	販売店等による回収	無回答
ア 新聞・チラシ	14.9%	0.0%	64.7%	19.6%	2.1%	4.3%
イ 雑誌・段ボール	4.6	0.2	77.2	17.9	0.2	3.4
ウ 雑がみ（菓子箱・包装紙等）	61.4	0.2	31.4	7.2	0.0	3.6
エ 容器包装プラスチック	28.2	2.1	62.0		4.3	6.8
オ びん	0.3	22.5	66.7	9.8	0.8	2.6
カ 缶	0.4	18.2	68.8	10.8	1.7	3.1
キ ペットボトル	3.3	5.3	73.7	9.8	7.8	3.3
ク スプレー缶・カセットボンベ	0.6	38.6	53.4			7.8
ケ 乾電池	1.6	27.2	45.3		19.3	7.8

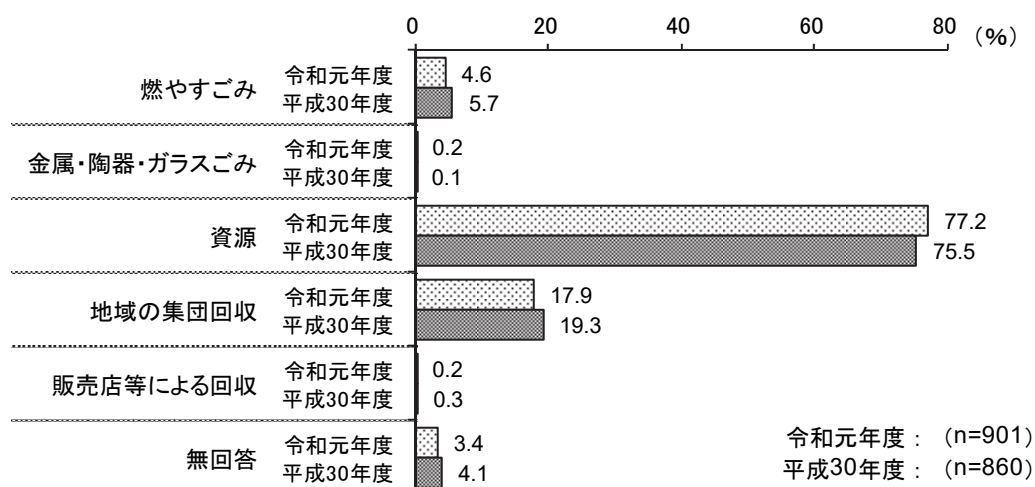
図4-4-1 ごみ・資源の出し方（経年推移）

『(ア) 新聞・チラシ』・『(イ) 雑誌・段ボール』

『(ア) 新聞・チラシ』



『(イ) 雑誌・段ボール』

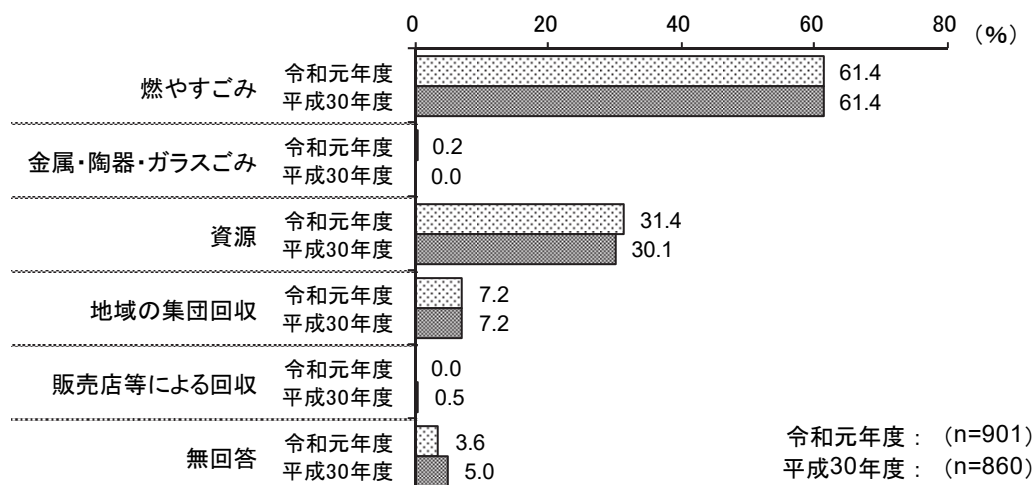


ごみ・資源の出し方についてそれぞれみると、『新聞・チラシ』では、「資源」（64.7%）が6割台半ば近くで最も高くなっている。前回の調査結果（平成30年度区政モニターアンケート調査）と比較すると、割合に大きな変化はみられない。

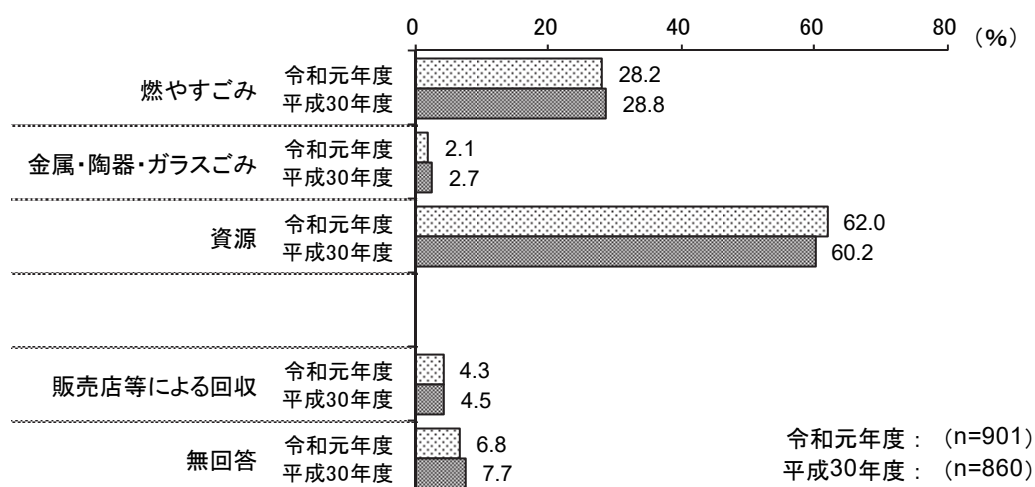
『雑誌・段ボール』では、「資源」（77.2%）が7割台半ばを超えて最も高くなっている。前回の調査結果と比較すると、割合に大きな変化はみられない。（図4-4-1）

図4-4-2 ごみ・資源の出し方（経年推移）
『(ウ) 雑がみ（菓子箱・包装紙等）』・『(エ) 容器包装プラスチック』

『(ウ) 雑がみ（菓子箱・包装紙等）』



『(エ) 容器包装プラスチック』

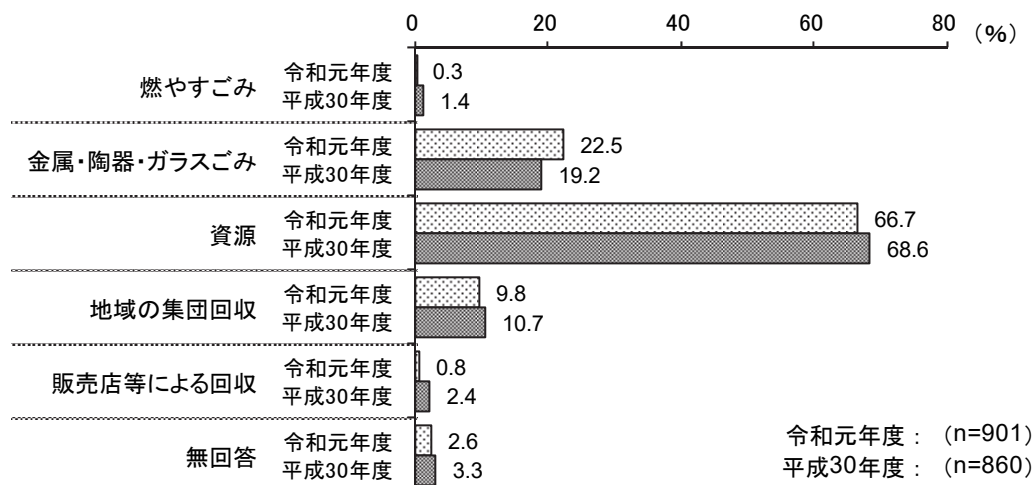


『雑がみ（菓子箱・包装紙等）』では、「燃やすごみ」（61.4%）が6割強で最も高く、次いで「資源」（31.4%）が3割強と続いている。前回の調査結果（平成30年度区政モニターアンケート調査）と比較すると、割合に大きな変化はみられない。

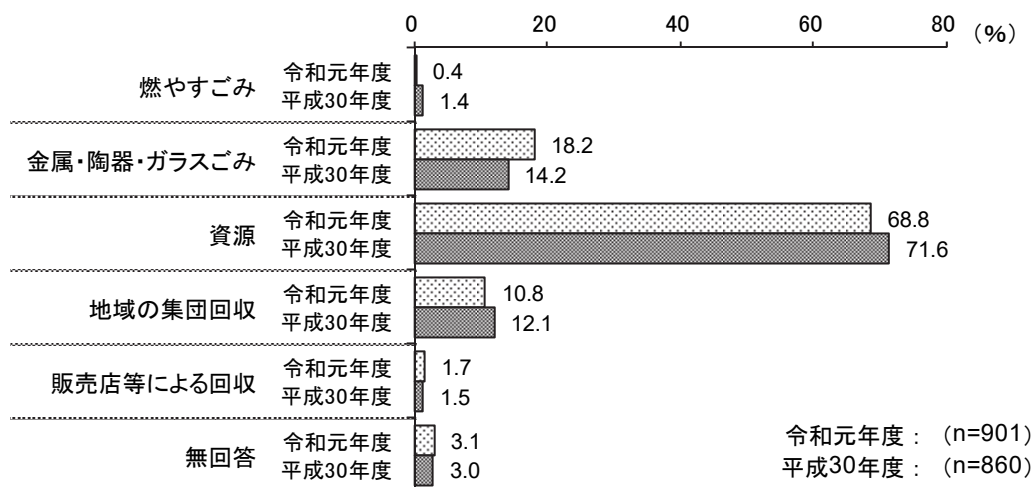
『容器包装プラスチック』では、「資源」（62.0%）が6割強で最も高く、次いで「燃やすごみ」（28.2%）が3割近くと続いている。前回の調査結果と比較すると、割合に大きな変化はみられない。（図4-4-2）

図4-4-3 ごみ・資源の出し方（経年推移）
『(オ) びん』・『(カ) 缶』

『(オ) びん』



『(カ) 缶』

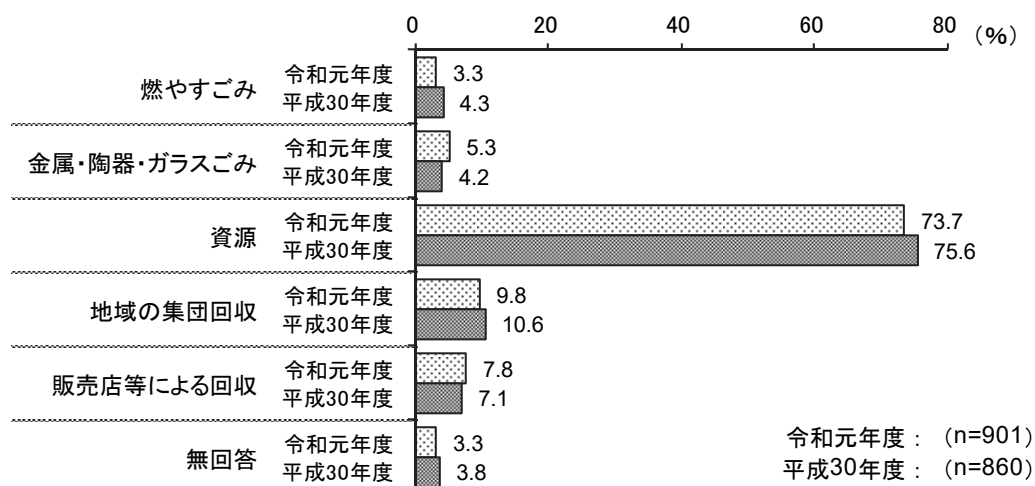


『びん』では、「資源」(66.7%)が6割台半ばを超えて最も高くなっている。次いで「金属・陶器・ガラスごみ」(22.5%)が2割強と続いている。前回の調査結果（平成30年度区政モニターアンケート調査）と比較すると、割合に大きな変化はみられない。

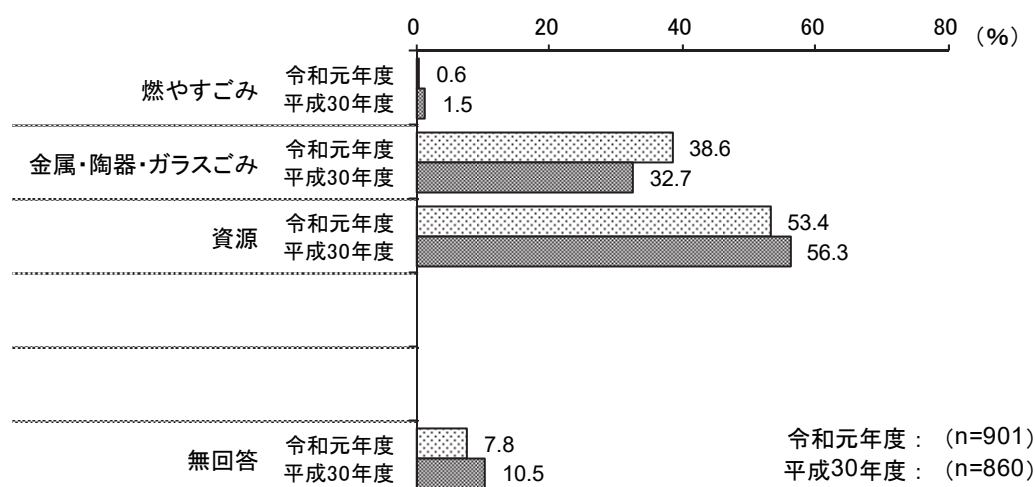
『缶』では、「資源」(68.8%)が7割近くで最も高くなっている。次いで「金属・陶器・ガラスごみ」(18.2%)が2割近くと続いている。前回の調査結果と比較すると、「金属・陶器・ガラスごみ」(18.2%)が前回(14.2%)から4.0ポイント高くなっている。(図4-4-3)

図4-4-4 ごみ・資源の出し方（経年推移）
『(キ) ペットボトル』・『(ク) スプレー缶・カセットボンベ』

『(キ) ペットボトル』



『(ク) スプレー缶・カセットボンベ』



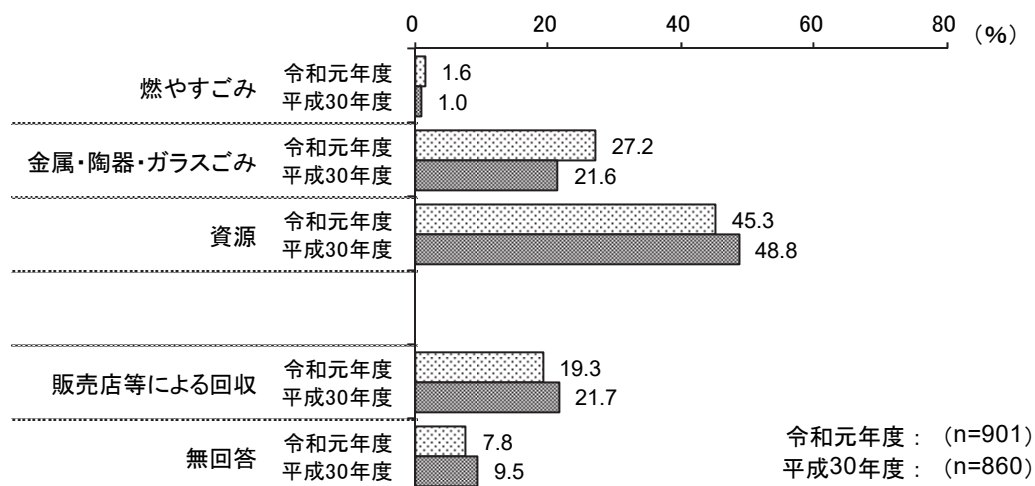
『ペットボトル』では、「資源」(73.7%)が7割台半ば近くで最も高くなっている。前回の調査結果(平成30年度区政モニターアンケート調査)と比較すると、割合に大きな変化はみられない。

『スプレー缶・カセットボンベ』では、「資源」(53.4%)が5割台半ば近くで最も高く、次いで「金属・陶器・ガラスごみ」(38.6%)が4割近くと続いている。前回の調査結果と比較すると、「金属・陶器・ガラスごみ」(38.6%)が前回(32.7%)から5.9ポイント高くなっている。

(図4-4-4)

図4-4-5 ごみ・資源の出し方（経年推移）
『(ケ) 乾電池』

『(ケ) 乾電池』



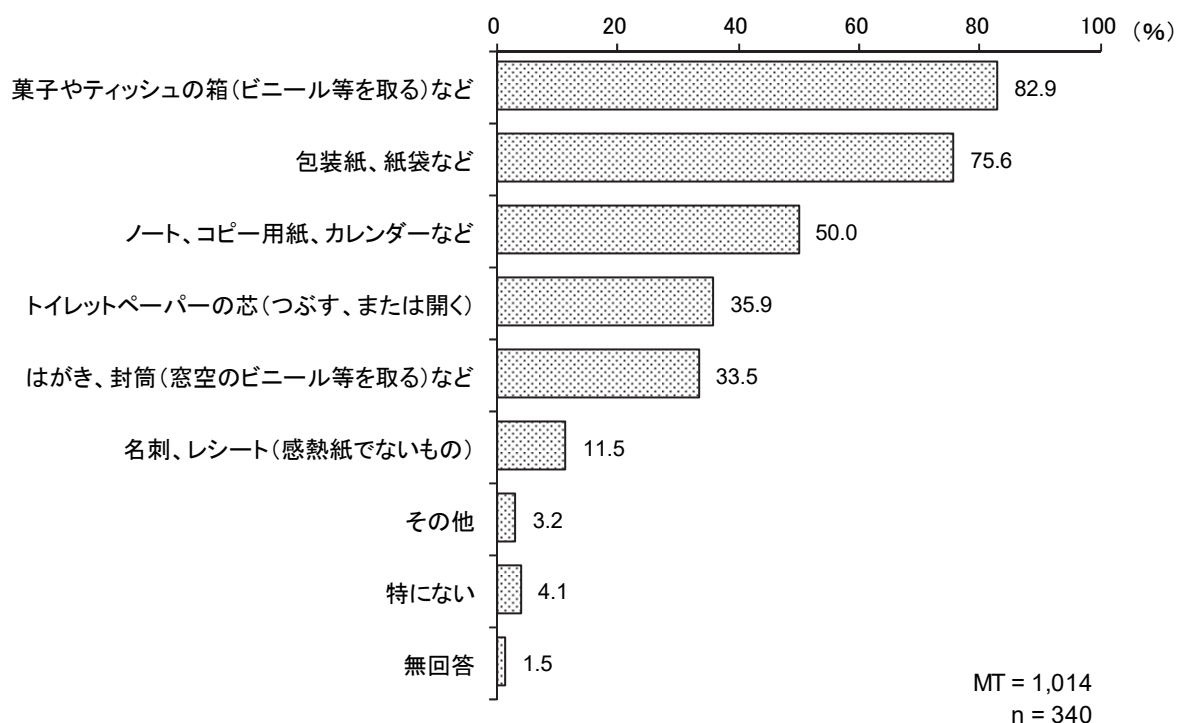
『乾電池』では、「資源」(45.3%)が4割台半ばで最も高く、次いで「金属・陶器・ガラスごみ」(27.2%)が2割台半ばを超え、「販売店等による回収」(19.3%)が2割弱と続いている。前回の調査結果（平成30年度区政モニターアンケート調査）と比較すると、「金属・陶器・ガラスごみ」(27.2%)が前回(21.6%)から5.6ポイント高くなっている。（図4-4-5）

(5) 資源（古紙）の日又は地域の集団回収に出している雑がみ

◎「菓子やティッシュの箱（ビニール等を取る）など」が8割強、「包装紙、紙袋など」が7割台半ば

問23-1	問23のウ	雑がみ（菓子箱・包装紙等）で、「3」又は「4」に○をした方にお伺いします。	
		雑がみのうち、資源（古紙）の日又は地域の集団回収に出しているのはどれですか。（あてはまるものにいくつでも○をつけてください）	
			(n= 340)
1	菓子やティッシュの箱（ビニール等を取る）など		82.9%
2	包装紙、紙袋など		75.6
3	はがき、封筒（窓空のビニール等を取る）など		33.5
4	ノート、コピー用紙、カレンダーなど		50.0
5	トイレットペーパーの芯（つぶす、または開く）		35.9
6	名刺、レシート（感熱紙でないもの）		11.5
7	その他		3.2
8	特にない		4.1
	無回答		1.5

図4-5 資源（古紙）の日又は地域の集団回収に出している雑がみ



資源（古紙）の日又は地域の集団回収に出している雑がみは、「菓子やティッシュの箱（ビニール等を取る）など」（82.9%）が8割強で最も高く、次いで「包装紙、紙袋など」（75.6%）が7割台半ば、「ノート、コピー用紙、カレンダーなど」（50.0%）が5割と続いている。（図4-5）

Ⅲ 資料（調査票）

令和元年度 新宿区区政モニターアンケート

第1回

- テーマ1 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会について
テーマ2 震災に備えて
テーマ3 男女共同参画に関する意識について
テーマ4 ごみの減量とリサイクルについて

アンケートご記入にあたってのお願い

1. 回答は、**あてはまる番号に○印をつけてください**。設問によって、**1つだけの場合や、あてはまるもの全てに○印をつけていただく場合**などがあります。問いの最後に“(○は1つ)”などと記載してありますので、確認のうえご記入をお願いいたします。
2. **前問の回答によって、次に答える設問が変わる場合があります。**
(例：問1で、「1」に○をした方におたずねします、など)
問いの前文や、回答欄の矢印等の指示に従ってお進みください。
3. 「その他」を選んだ場合には、() 内に具体的な回答をご記入ください。

全てご記入頂けましたら、同封の返信用封筒にて

整理票を取り外さず、

令和元年 8月13日（火）までにご返送ください。

※整理票は、ご協力のお礼を発送するために必要なものです。開封後直ちに調査票から切り離しますので、調査票によって個人が特定されることは一切ございません。

問合せ先 新宿区総合政策部 区政情報課 広聴係
電話 03-5273-4065（直通）
FAX 03-5272-5500
E-Mail kuseijoho@city.shinjuku.lg.jp



ご協力くださいますようよろしくお願いいたします。

テーマ1 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会について

オリンピック・パラリンピック開催時には、国内はもとより世界中から多くの方が、新宿区を訪れることが予想されます。区では、皆様から東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「東京2020大会」という。）についてお聞きし、今後の施策に役立てていきたいと考えています。

問1 あなたは、東京2020大会に興味がありますか。(〇は1つ)

- 1 とても興味がある
- 2 興味がある
- 3 どちらとも言えない
- 4 あまり興味がない
- 5 興味がない

問2 あなたが東京 2020 大会に期待するものは何ですか。(〇は1つ)

- 1 来街者数が増加することによる賑わい
- 2 区民とアスリートとのふれあい
- 3 新宿の文化の発信
- 4 青少年に夢を与える
- 5 道路、交通など都市基盤の整備
- 6 被災地の復興支援
- 7 期待することは特にない
- 8 その他 ()

問3 あなたは、東京 2020 大会に対して、現時点でどのような形で関わりたいですか。

(あてはまるものに2つまで〇をつけてください)

- 1 競技場に行って、観戦・応援をしたい
- 2 パブリックビューイングが開催されるなら、行って、観戦・応援をしたい
- 3 東京2020大会関連のイベントに、スタッフあるいはボランティアとして関わりたい
- 4 スポーツイベント・体験教室等へ参加したい
- 5 文化イベント（プログラム）へ参加したい
- 6 その他 ()
- 7 特に関わりたいとは思わない

問 4 東京2020大会にあたり、新宿区は、今後、どのような対策が特に必要だと思いますか。

(あてはまるものに3つまで○をつけてください)

- | |
|-------------------------------|
| 1 多言語対応案内板や視覚障害者用誘導案内などの対策 |
| 2 治安対策、安全安心対策 |
| 3 来街者向け無料 Wi-Fi の整備促進 |
| 4 交通基盤（道路、歩道、自転車）対策 |
| 5 景観やみどりの保全、環境美化対策 |
| 6 観光情報や防災情報の提供 |
| 7 スポーツ施設の改修・整備 |
| 8 外国人と地域住民との交流推進 |
| 9 ボランティアの育成 |
| 10 スポーツを通じた健康づくりの推進 |
| 11 児童、生徒へのオリンピック・パラリンピック教育の推進 |
| 12 その他（ |

)

問5 新宿区では下記ア～クの東京2020大会に関する気運醸成事業を行っています。

ア～オの事業について、あなたの参加経験及び今後の参加意向を教えてください。

(ア～オの【参加経験】及び【今後の参加意向】それぞれで、1～3に1つだけ○をつけてください)

	【参加経験】			【今後の参加意向】		
	参加したことがある	知っているが、参加したことはない	知らない	参加したい	参加したくない	どちらでもない
ア 地域センター等を会場として、 「東京五輪音頭-2020-」を練習する講習会	1	2	3	1	2	3
イ 東京 2020 大会気運醸成イベントの運営に参加できる新宿区独自のボランティア登録制度「新宿 2020 サポーター」	1	2	3	1	2	3
ウ 東京 2020 大会の 777 日前や 500 日前等を記念して実施しているトップアスリートによるスポーツ教室や講演会、文化体験ブースなどが楽しめるイベント	1	2	3	1	2	3
エ 地域センターまつり等における東京 2020 大会のPRブースやスポーツを題材にしたトリックアート撮影など	1	2	3	1	2	3
オ 「ボッチャ」「ゴールボール」等が体験できるパラスポーツの普及イベント	1	2	3	1	2	3

また、あなたは、カ～クの事業について、知っていますか。

(カ～クそれぞれで、1～2に1つだけ○をつけてください)

	知っている	知らない
カ 東京 2020 大会の気運醸成に資する区民や地域団体による自主的な活動への助成事業	1	2
キ 区の庁舎やスポーツ施設等の壁面への東京 2020 大会のエンブレムや大会マスコットの掲出	1	2
ク 区の本庁舎や特別出張所及びスポーツ施設におけるデジタルサイネージ(※)を活用した東京 2020 大会開催までの日数の表示	1	2

(※) ディスプレイなどの電子的な表示機器を使って情報を発信するシステムのこと。

テーマ2 震災に備えて

地震は、いつどこで発生するかわかりません。地震を防ぐことはできませんが、その被害を抑えることはできます。そのためには、自宅の耐震化や家具転倒防止対策をしておくなど、日頃からの備えが大切です。区では、皆様の住宅の耐震化と家具転倒防止対策についておたずねし、今後の取組の参考にしたいと考えています。

問6 あなたがお住まいの建物について、教えてください。(〇は1つ)

- 1 昭和55年（1980年）以前に建てられた木造住宅
- 2 昭和56年（1981年）以降に建てられた木造住宅
- 3 昭和55年（1980年）以前に建てられた非木造住宅
- 4 昭和56年（1981年）以降に建てられた非木造住宅
- 5 知らない

問7 区では、下記★印の「建築物等耐震化支援事業」を行っています。
あなたはこの事業を知っていますか。(〇は1つ)

【昭和55年（1980年）以前に建った建物に住んでいる方】

- 1 知っている
- 2 聞いたことはあるが、よく知らない
- 3 知らない

【昭和56年（1981年）以降に建った建物に住んでいる方】

- 4 知っている
- 5 聞いたことはあるが、よく知らない
- 6 知らない

★区では、「建築物等耐震化支援事業」として次の事業を行っています。

《 木造建物（住宅系）への支援事業 》	《 非木造建物への支援事業 》
・ 【無料】耐震診断（予備耐震診断・詳細耐震診断）技術者派遣 ・ 詳細耐震診断・補強設計への助成 ・ 耐震改修工事、工事監理への助成	・ 【無料】耐震アドバイザーの派遣 ・ 耐震診断、補強設計への助成 ・ 耐震改修工事への助成

問8 あなたは、お住まいの建物について、耐震診断を受けたいと思いますか。(〇は1つ)

- 1 すでに受けた
- 2 受けたいが、まだ受けていない
- 3 受ける必要はない
- 4 わからない

→ 問8-1へ

問 8－1 問 8 で、「2」または、「3」に○をした方にお伺いします。

耐震診断を受けていない理由は何ですか。

(あてはまるものにいくつでも○をつけてください)

- 1 現在受けていないが、今後受ける予定だから
- 2 制度について知らなかったから
- 3 集合住宅のため自分の考えだけではできないから
- 4 建物の所有者が自分ではないから
- 5 昭和56年（1981年）以降に建った新耐震基準の建物だから
- 6 多額の費用がかかるから
- 7 倒壊しないと思うから
- 8 信頼できる業者がないから
- 9 相談したいがどこにいったいいかわからないから
- 10 面倒だから
- 11 その他（)

問 9 お住まいの建物が耐震診断の結果で耐震補強が必要な場合、あなたは補強工事を行いたいと思いますか。(○は1つ)

1 すでに補強工事を行った

2 行いたい、まだ行っていない

3 行う必要はない

4 わからない

→ 問 9－1 へ

問 9－1 問 9 で、「2」または、「3」に○をした方にお伺いします。

耐震補強工事を行っていない理由は何ですか。

(あてはまるものにいくつでも○をつけてください)

- 1 現在行っていないが、今後行う予定だから
- 2 制度について知らなかったから
- 3 集合住宅のため自分の考えだけではできないから
- 4 建物の所有者が自分ではないから
- 5 昭和56年（1981年）以降に建った新耐震基準の建物だから
- 6 多額の費用がかかるから
- 7 倒壊しないと思うから
- 8 信頼できる業者がないから
- 9 相談したいがどこにいったいいかわからないから
- 10 自分の家屋を補強しても周辺の家屋も補強しないと意味がないと思うから
- 11 面倒だから
- 12 その他（)

問 10 あなたは家具転倒防止器具を取り付けたいと思いますか。(○は1つ)

1 すでに取り付けている

2 取り付けたいが、まだ取り付けしていない

3 取り付ける必要はない

4 わからない

→ 問 10-1 へ

問 10-1 問 10 で、「2」または「3」に○をした方にお伺いします。

家具転倒防止器具を取り付けていない理由は何ですか。

(あてはまるものにいくつでも○をつけてください)

1 現在取り付けしていないが、今後取り付ける予定だから

2 どのような器具を取り付ければよいかわからないから

3 家具や家屋に傷をつけるから

4 取付け作業が難しそうだから

5 お金がかかるから

6 倒れても危険ではないので、効果がないと思うから

7 面倒だから

8 転倒防止が必要な家具がないから

9 その他 ()

問 11 あなたは、区が行っている家具転倒防止器具取付け事業(調査費・取付け費無料)を知っていますか。(○は1つ)

1 知っている

2 知らない

テーマ3 男女共同参画に関する意識について

男女共同参画とは、男女が社会の対等な構成員として性別にかかわらずその個性と能力を十分に発揮し、責任を分かち合いながら、ともにあらゆる分野に参画することをいいます。

皆様から日常生活のなかでの男女共同参画に関する意識や実情をおたずねします。

問12 あなたは、次のような分野において男女平等だと思いますか。

(ア～クそれぞれで、1～5に1つだけ○をつけてください)

	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている
ア 家庭生活で	1	2	3	4	5
イ 職場で	1	2	3	4	5
ウ 学校教育の場で	1	2	3	4	5
エ 政治の場で	1	2	3	4	5
オ 法律や制度の上で	1	2	3	4	5
カ 社会通念・慣習・しきたりなど	1	2	3	4	5
キ 地域活動の場で	1	2	3	4	5
ク 社会全体として	1	2	3	4	5

問13 男女共同参画に関する以下の言葉についてご存じですか。

(ア～オそれぞれで、1～3に1つだけ○をつけてください)

	知っている	言葉は聞いたことがあるが意味は知らない	知らない
ア 性別役割分担 ※性別によって男女で固定的な役割を分担すること	1	2	3
イ DV (ドメスティック・バイオレンス) ※配偶者やパートナーからの暴力	1	2	3
ウ デートDV ※恋人など親密な関係にある相手からの暴力	1	2	3
エ 性的マイノリティ (LGBT等)	1	2	3
オ ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)	1	2	3

問 1 4 働いているすべての方にお伺いします。

あなたは、現在の仕事と生活のバランスに満足していますか。(○は1つ)

- | | |
|--------------|---------------|
| 1 たいへん満足している | 3 あまり満足していない |
| 2 ほぼ満足している | 4 まったく満足していない |

問 1 5 男女とも働きやすい環境をつくるためには、どのようなことが重要だと思いますか。

(あてはまるものに3つまで○をつけてください)

- | | |
|------------------------------|---|
| 1 男女ともに労働時間の短縮をはかること | |
| 2 男女ともに家事・育児・介護に参加すること | |
| 3 男女ともに仕事に対する責任感をより高めること | |
| 4 男女ともに技術・能力を高めること | |
| 5 職場での男女の雇用機会・昇進・待遇を均等にする | |
| 6 職場でのハラスメント対策が取られていること | |
| 7 出産後などに職場復帰できる制度が整備・充実されること | |
| 8 育児・介護休業制度が整備・充実されること | |
| 9 その他 (|) |
| 10 特に重要だと思うことはない | |

問 1 6 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という固定的な性別役割分担の考え方について、あなたの考えに近いものは、次のうちどれですか。(○は1つ)

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 賛成 | 3 どちらかといえば反対 |
| 2 どちらかといえば賛成 | 4 反対 |
| | 5 わからない |

問 1 7 ドメスティック・バイオレンス（配偶者等からの暴力。以下、「DV」という）について、DVだと思う行為は次のうちどれですか。

(あてはまるものにいくつでも○をつけてください)

- | |
|--------------------------------------|
| 1 何を言っても無視する |
| 2 行動を制限する |
| 3 交友関係やメールをチェックする |
| 4 「誰のおかげで食べられるんだ」・「馬鹿」等の暴言を言う、大声でどなる |
| 5 人前で侮辱する |
| 6 他人に悪口を言う |
| 7 大切な物をわざと壊す |
| 8 殴るふりをする等して脅す |
| 9 殴る・蹴る・髪を引っ張る・物を投げつける等の行為をふるう |
| 10 首をしめる・刃物を持ち出す等、命に危険を感じる行為を行う |
| 11 自由になるお金を制限する |
| 12 意に反した性的な行為を強要する |
| 13 無理やりポルノ等を見せる |
| 14 避妊に協力しない |
| 15 どれもあたらない |

問 18 DVについての相談機関の窓口をご存じですか。

(あてはまるものにいくつでも○をつけてください)

- | | | |
|----|----------------------------------|---|
| 1 | 新宿区配偶者暴力相談支援センター DV相談ダイヤル | |
| 2 | 新宿区立男女共同参画推進センター (ウィズ新宿) 悩みごと相談室 | |
| 3 | 新宿区福祉部生活福祉課 (女性相談) | |
| 4 | 新宿区子ども家庭部子ども家庭課 (家庭相談) | |
| 5 | 新宿区立子ども総合センター・新宿区立子ども家庭支援センター | |
| 6 | 新宿区保健センター | |
| 7 | 東京都女性相談センター | |
| 8 | 東京ウィメンズプラザ | |
| 9 | 警察 | |
| 10 | 法務局人権相談窓口等 | |
| 11 | 裁判所 | |
| 12 | 民間の機関 (弁護士会・法テラス・民間シェルター・NPO等) | |
| 13 | 民生委員・児童委員 | |
| 14 | その他 (|) |
| 15 | 知らない | |

問 19 今後、男女共同参画を進めるために、区にどのようなことを期待しますか。

(あてはまるものに3つまで○をつけてください)

- | | | |
|----|-------------------------------------|---|
| 1 | 平等意識を育てる学校教育の充実 | |
| 2 | 男女平等に関する講座等の開催 | |
| 3 | 女性の再就職支援や起業支援の充実 | |
| 4 | 企業に対する就労機会や労働条件の男女格差を是正するための働きかけ | |
| 5 | 仕事と家庭・地域活動が両立できるような働き方の見直しの企業への働きかけ | |
| 6 | 育児・保育施設の充実 | |
| 7 | あらゆる分野における女性の積極的な登用 | |
| 8 | 行政の政策決定などへの女性の参画促進 | |
| 9 | 高齢者や病人の在宅介護サービスや施設の充実 | |
| 10 | 各種相談事業の充実 | |
| 11 | 男女共同参画についての情報収集・情報提供 | |
| 12 | 国・都に対する男女共同参画を推進するための働きかけ | |
| 13 | その他 (|) |
| 14 | 特にない | |

テーマ4 ごみの減量とリサイクルについて

新宿区は、「環境への負荷を少なくし、未来の環境を創るまち」の実現に向け、資源循環型社会の構築を目指しています。

ごみの発生抑制（リデュース：Reduce）、再使用（リユース：Reuse）、再生利用（リサイクル：Recycle）による「3R活動」の推進が重要になり、ごみとして処分する場合も、適正に分別する必要があります。

3R活動や食品ロス(*)の削減、資源・ごみの分別状況などをおたずねし、今後の普及啓発活動の向上に役立てていきたいと思います。

* 食品ロスとは、①消費期限・賞味期限が切れているため、②食べ切れずに残ったため、③調理の際に食べられる部分も過剰に除去したため などの理由により食べられるのに廃棄される食品を指します。

問20 以下の活動（「3R活動」）の中であなたが実際に行っているものはありますか。

（あてはまるものにいくつでも○をつけてください）

【リデュース】	1 必要な分だけ購入する、長く使えるものを購入する 2 買い物際には、過剰包装やレジ袋を断る 3 食品ロスを出さないような取組を行っている 4 使い捨てになるものは、なるべく購入しない
【リユース】	5 詰め替え用商品を買う 6 リサイクルショップ・フリーマーケットを利用する 7 リース・レンタルを活用する 8 修理、リフォームして使う
【リサイクル】	9 ごみを正しく分別し、資源となるものは資源回収に出す 10 トイレットペーパーなどは、再生品を選んで購入する
	11 その他（ ） 12 特にしていない

問21 あなたは買い物の際に、レジ袋を受け取りますか。（○は1つ）

- 1 毎回受け取る
- 2 断ることもあるが、受け取ることの方が多い
- 3 受け取ることと断ることが半々くらい
- 4 受け取ることもあるが、断ることの方が多い
- 5 ほとんど受け取ることはない

問 2 2 食品ロスを減らすために、行っていることはありますか。

(あてはまるものにいくつでも○をつけてください)

- | | | |
|----|--------------------------------------|---|
| 1 | 買い物をする前に、冷蔵庫や収納庫の在庫をメモするなど必要な食品を確認する | |
| 2 | 売り場では、すぐに消費する食品は手前に陳列されている商品から購入する | |
| 3 | 食品は、ばら売りや量り売りなどを利用し、必要な食材をこまめに購入する | |
| 4 | 家庭では、食べ切る量を調理して、食べ残しをしないようにする | |
| 5 | 野菜や果物の皮を薄くむいたり、食材として活用して生ごみを減らす | |
| 6 | 食べ切れなかった場合は、他の料理に作り替えるなど献立や調理方法を工夫する | |
| 7 | 外出時は、食べ切る量（小盛りメニュー等）を選ぶ | |
| 8 | フードドライブ（※）として食品を提供したことがある | |
| 9 | その他（ | ） |
| 10 | 特になし | |

(※) フードドライブとは、家庭等での未利用の食品（賞味期限内であるなど一定の条件があります）を回収し、食品を必要とする施設や家庭に配布することです。

問 2 3 新宿区では、古紙（新聞・雑誌・段ボール等）、容器包装プラスチック、びん、缶、ペットボトル、スプレー缶・カセットボンベ、乾電池を「資源・ごみ集積所」で回収しています。また、地域や集合住宅における集団回収のほか、販売店等でも一部の品目を回収しています。あなたは下記の品目をどのように出していますか。

(ア～ケそれぞれで、あてはまるものにいくつでも○をつけてください)

	燃やすごみ (週 2 回)	金属・陶器・ ガラスごみ (月 2 回)	資 源 (週 1 回)	地域の 集団回収	販売店等による回収(※)
ア 新聞・チラシ	1	2	3	4	5
イ 雑誌・段ボール	1	2	3	4	5
ウ 雑がみ(菓子箱・包装紙等)	1	2	3	4	5
エ 容器包装プラスチック	1	2	3	—	5
オ びん	1	2	3	4	5
カ 缶	1	2	3	4	5
キ ペットボトル	1	2	3	4	5
ク スプレー缶・カセットボンベ	1	2	3	—	—
ケ 乾電池	1	2	3	—	5

(※) 販売店等による回収とは、スーパーマーケット等での缶、トレイ、ペットボトルの店頭回収のほか、新聞販売店等による新聞紙の回収、生協等による宅配時の容器回収などを含みます。

問 2 3 - 1 問 2 3 の (ウ) 雑がみ (菓子箱・包装紙等) で、「3」又は「4」に○をした方にお伺いします。

雑がみのうち、資源 (古紙) の日又は地域の集団回収に出しているのはどれですか。(あてはまるものにいくつでも○をつけてください)

- | | | |
|---|--------------------------|---|
| 1 | 菓子やティッシュの箱 (ビニール等を取る) など | |
| 2 | 包装紙、紙袋など | |
| 3 | はがき、封筒 (窓空のビニール等を取る) など | |
| 4 | ノート、コピー用紙、カレンダーなど | |
| 5 | トイレットペーパーの芯 (つぶす、または開く) | |
| 6 | 名刺、レシート (感熱紙でないもの) | |
| 7 | その他 (|) |
| 8 | 特にない | |

—— 引き続き、回答者の属性のご記入をお願いします ——

※調査結果を統計処理する際に必要ですので、次ページ以降の回答者の属性もご記入ください。

※調査票についている「整理票」は、ご協力のお礼をお送りするために必要ですので、取り外さずにそのままご返送ください。区に到着後、整理票は調査票から取り外して保管しますので、調査票から個人が特定されることはございません。

回答者の属性

問ア あなたのお住まいの地域（所管する特別出張所の地域）をお選びください。（○は1つ）

- | | |
|-------|-----------|
| 1 四谷 | 6 戸塚 |
| 2 簞笥町 | 7 落合第一 |
| 3 榎町 | 8 落合第二 |
| 4 若松町 | 9 柏木 |
| 5 大久保 | 10 角筈・区役所 |

問イ 性別をお答えください。(〇は1つ)

- | | |
|------|------|
| 1 男性 | 2 女性 |
|------|------|

問ウ あなたの年齢（満年齢）を、次の中からお選びください。（○は1つ）

- | | | | |
|---|--------|----|--------|
| 1 | 18～19歳 | 8 | 50～54歳 |
| 2 | 20～24歳 | 9 | 55～59歳 |
| 3 | 25～29歳 | 10 | 60～64歳 |
| 4 | 30～34歳 | 11 | 65～69歳 |
| 5 | 35～39歳 | 12 | 70～74歳 |
| 6 | 40～44歳 | 13 | 75～79歳 |
| 7 | 45～49歳 | 14 | 80歳以上 |

問エ あなたのご職業を、次の中からお選びください。(〇は1つ)

- | | |
|--|--------|
| <ul style="list-style-type: none">1 会社員・団体職員2 会社役員・団体役員3 パート・アルバイト、非常勤、嘱託、派遣など4 自営業、自由業（開業医、弁護士、司法書士なども含む）5 学生 | →問エー１へ |
|--|--------|

問エー 1 問エで、「1」～「5」に○をした方にお伺いします。現在のあなたの職場・学校はどこにありますか。(○は1つ)

1 新宿区内

2 新宿区外

問オ 現在、あなたは誰かと同居していますか。同居している場合は、あなたからみた続柄で、同居している方すべてに○をしてください。

(あてはまるものにいくつでも○をつけてください)

1 子

2 妻または夫

3 親

4 祖父母

5 孫

6 兄弟姉妹

7 その他 ()

8 ひとり暮らし

1～7の方は、

→ 問オー 1～問オー 2へ

問オー 1 問オで、「1」～「7」に○をした方にお伺いします。同居している人は、あなたを除いて全員で何人ですか。

【 】の中に人数を記入してください。

同居している人は、あなた＋【 】人

問オー 2 問オで、「1 子」に○をした方にお伺いします。同居している子の就学状況は、次のどれにあてはまりますか。(○は1つ)

1 一番上の子が小学校入学前

3 一番上の子が高・大学生

2 一番上の子が小・中学生

4 一番上の子が学校を卒業

問カ あなたは新宿区に住んで何年になりますか。(○は1つ)

1 1年未満

5 10年以上20年未満

2 1年以上3年未満

6 20年以上30年未満

3 3年以上5年未満

7 30年以上

4 5年以上10年未満

問キ 現在のあなたの住宅の形態は、次のうちどれですか。(○は1つ)

一戸建て	集合住宅
1 持ち家の一戸建て	5 分譲マンション・アパート (自己所有のものを含む)
2 賃貸の一戸建て	6 賃貸マンション・アパート
3 社宅・公務員官舎の一戸建て	7 賃貸のUR都市機構(旧公団) ・公社のマンション・アパート
4 その他 ()	8 賃貸の都営・区営住宅
	9 社宅・公務員官舎
	10 その他 ()

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

お手数をおかけしますが、同封の返信用封筒にて、

整理票を取り外さず、

8月13日(火)までに、ご返送ください。

(返送・問合せ先)

〒160-8484 新宿区歌舞伎町1-4-1

新宿区総合政策部 区政情報課 広聴係

電話 03-5273-4065 (直通)

FAX 03-5272-5500

E-mail kuseijoho@city.shinjuku.lg.jp

令和元年度第1回新宿区区政モニターアンケート

令和元年12月発行

編集・発行

新宿区総合政策部区政情報課広聴係

東京都新宿区歌舞伎町1-4-1

電話(03)5273-4065(直通)

印刷物作成番号

2019-15-2106

この印刷物は、業者委託により400部印刷製本しています。その経費として、1部あたり440円(税込み)がかかっています。ただし、編集時の職員人件費や配送経費などは含んでいません。

新宿区は、環境への負荷を少なくし、未来の環境を創造するまちづくりを推進しています。
本誌は森林資源の保護とリサイクルの促進のため、古紙を利用した再生紙を使用しています。